

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2012 年 10 月 26 日(26.10.2012)



(10) 国際公開番号

WO 2012/144575 A1

- (51) 国際特許分類:
C08L 15/00 (2006.01) C08F 8/30 (2006.01)
B60C 1/00 (2006.01) C08K 3/36 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2012/060653
- (22) 国際出願日: 2012 年 4 月 20 日(20.04.2012)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2011-096561 2011 年 4 月 22 日(22.04.2011) JP
特願 2011-102934 2011 年 5 月 2 日(02.05.2011) JP
特願 2011-123610 2011 年 6 月 1 日(01.06.2011) JP
特願 2011-235344 2011 年 10 月 26 日(26.10.2011) JP
特願 2011-245752 2011 年 11 月 9 日(09.11.2011) JP
- (71) 出願人 (米国を除く全ての指定国について): 住友ゴム工業株式会社 (SUMITOMO RUBBER INDUSTRIES, LTD.) [JP/JP]; 〒6510072 兵庫県神戸市中央区脇浜町 3 丁目 6 番 9 号 Hyogo (JP).
- (72) 発明者; および
- (75) 発明者/出願人 (米国についてのみ): 渡邊 顕哉 (WATANABE Kenya) [JP/JP]; 〒6510072 兵庫県神戸市中央区脇浜町 3 丁目 6 番 9 号 住友ゴム工業株式会社内 Hyogo (JP). 上坂 憲市 (UESAKA Kenichi) [JP/JP]; 〒6510072 兵庫県神戸市中央区脇

浜町 3 丁目 6 番 9 号 住友ゴム工業株式会社内 Hyogo (JP). 岡部 昇 (OKABE Noboru) [JP/JP]; 〒6510072 兵庫県神戸市中央区脇浜町 3 丁目 6 番 9 号 住友ゴム工業株式会社内 Hyogo (JP). 國澤鉄也 (KUNISAWA Tetsuya) [JP/JP]; 〒6510072 兵庫県神戸市中央区脇浜町 3 丁目 6 番 9 号 住友ゴム工業株式会社内 Hyogo (JP).

(74) 代理人: 特許業務法人 安富国際特許事務所 (YASUTOMI & Associates); 〒5320003 大阪府大阪市淀川区宮原 3 丁目 5 番 3 6 号 Osaka (JP).

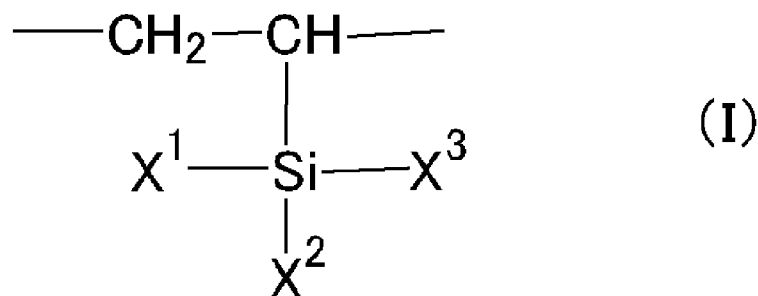
(81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IS, KE, KG, KM, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LT, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.

(84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, MD, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE,

[続葉有]

(54) Title: RUBBER COMPOSITION AND PNEUMATIC TIRE

(54) 発明の名称: ゴム組成物及び空気入りタイヤ



(57) Abstract: The present invention provides: a rubber composition which is capable of improving fuel consumption saving, wet grip performance and wear resistance in a balanced manner; and a pneumatic tire which uses the rubber composition. The present invention relates to a rubber composition which contains a rubber component, silica and a diene rubber gel having a hydroxyl group and a glass transition temperature from -40°C to -10°C. In the rubber composition, 5% by mass or more of a conjugated diene polymer, which has a constituent unit derived from a conjugated diene and a constituent unit represented by formula (I) and at least one end of which is modified with a specific compound, is contained in 100% by mass of the rubber component. The silica is contained in an amount of 5-150 parts by mass and the diene rubber gel is contained in an amount of 10-30 parts by mass, respectively per 100 parts by mass of the rubber component.

(57) 要約:

[続葉有]

WO 2012/144575 A1



ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, 添付公開書類:

MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK,

SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ,

GW, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

— 国際調査報告 (条約第 21 条(3))

本発明は、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く改善できるゴム組成物、及びこれを用いた空気入りタイヤを提供する。本発明は、ゴム成分と、シリカと、ガラス転移温度 -40°C ～ -10°C の、水酸基を有するジエン系ゴムゲルとを含有し、上記ゴム成分100質量%のうち、共役ジエンに基づく構成単位と下式(I)で表される構成単位とを有し、特定の化合物によって重合体の少なくとも一端が変性されてなる共役ジエン系重合体の含有量が5質量%以上であり、上記ゴム成分100質量部に対して、上記シリカの含有量が5～150質量部、上記ジエン系ゴムゲルの含有量が10～30質量部であるゴム組成物に関する。

明 細 書

発明の名称： ゴム組成物及び空気入りタイヤ

技術分野

[0001] 本発明は、ゴム組成物及びそれを用いて作製した空気入りタイヤに関するものである。

背景技術

[0002] 近年、環境問題への関心の高まりから、自動車に対して低燃費化の要求が強くなっており、自動車用タイヤに用いるゴム組成物に対しても、低燃費性に優れることが求められている。自動車タイヤ用のゴム組成物としては、ポリブタジエンやブタジエンスチレン共重合体などの共役ジエン系重合体と、カーボンブラックやシリカなどの充填剤とを含有するゴム組成物等が用いられている。

[0003] 低燃費性を改善する方法として、例えば、特許文献1では、アミノ基及びアルコキシ基を含有する有機ケイ素化合物で変性されたジエン系ゴムを用いる方法が提案されている。しかし、近年では、低燃費性の更なる改善が求められている。また、自動車タイヤ用のゴム組成物に要求される性能としては、ウェットグリップ性能や耐摩耗性も挙げられるが、これらの性能は一般的に低燃費性と背反する関係にあり、それぞれの性能を高次元でバランス良く得ることは困難であった。

[0004] 例えば、ガラス転移温度の高いゴムを配合することで、低温でのヒステリシスロスを増加させ、ウェットグリップ性能を改善することが可能となるが、その一方で、高温でのヒステリシスロスも増加し、転がり抵抗が増大する（低燃費性が悪化する）傾向がある。また、カーボンブラックなどの充填剤を減量することにより低燃費性を改善できるが、その一方で、十分な補強性が得られなくなり、耐摩耗性が悪化する傾向がある。従って、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く改善する方法が求められている。

[0005] また、特許文献2では、超微粒子粉末ゴムを配合することにより、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性を改善する方法が提案されているが、他の手法も求められている。

先行技術文献

特許文献

[0006] 特許文献1：特開2000-344955号公報

特許文献2：特開2006-89552号公報

発明の概要

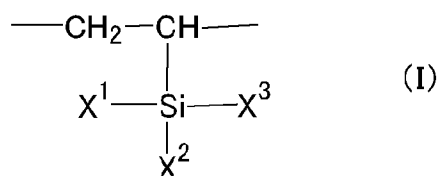
発明が解決しようとする課題

[0007] 本発明は、前記課題を解決し、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く改善できるゴム組成物、及びこれを用いた空気入りタイヤを提供することを目的とする。

課題を解決するための手段

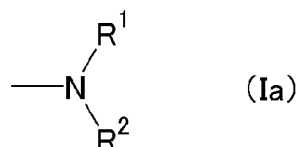
[0008] 本発明は、ゴム成分と、シリカと、ガラス転移温度 $-40 \sim -10^{\circ}\text{C}$ の、水酸基を有するジエン系ゴムゲルとを含有し、上記ゴム成分100質量%のうち、共役ジエンに基づく構成単位と下式(I)で表される構成単位とを有し、下式(II)で表される化合物、下式(III)で表される基を有する化合物、下式(IV)で表される化合物、下式(V)で表される基及び／又は下式(VI)で表される基を有するケイ素化合物、並びに下式(VII)で表される基を有する化合物からなる群より選択される少なくとも1種の化合物によって重合体の少なくとも一端が変性されてなる共役ジエン系重合体の含有量が5質量%以上であり、上記ゴム成分100質量部に対して、上記シリカの含有量が5～150質量部、上記ジエン系ゴムゲルの含有量が10～30質量部であるゴム組成物に関する。

[化1]



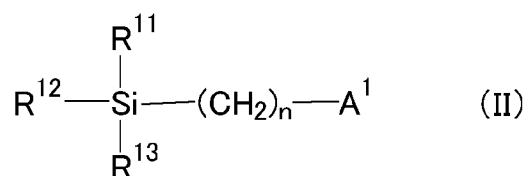
[式中、 X^1 、 X^2 及び X^3 は、それぞれ独立に、下式 (I a) で表される基、水酸基、ヒドロカルビル基又は置換ヒドロカルビル基を表し、 X^1 、 X^2 及び X^3 の少なくとも1つが、下式 (I a) で表される基又は水酸基である。]

[化2]



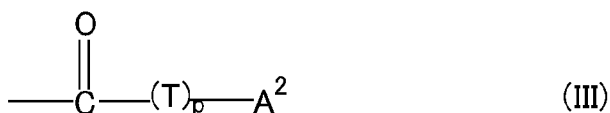
[式中、 R^1 及び R^2 は、それぞれ独立に、炭素原子数が1～6のヒドロカルビル基、炭素原子数が1～6の置換ヒドロカルビル基、シリル基又は置換シリル基を表し、 R^1 及び R^2 は結合して窒素原子と共に環構造を形成していてもよい。]

[化3]



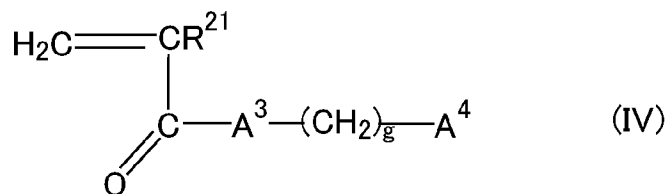
[式中、 n は1～10の整数を表し、 R^{11} 、 R^{12} 及び R^{13} は、それぞれ独立に、炭素原子数が1～4のヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～4のヒドロカルビルオキシ基を表し、 R^{11} 、 R^{12} 及び R^{13} の少なくとも1つがヒドロカルビルオキシ基であり、 A^1 は窒素原子を有する官能基を表す。]

[化4]



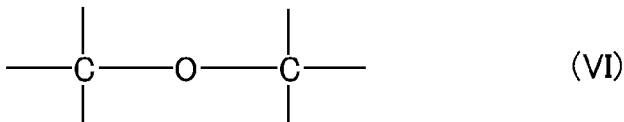
[式中、 p は0又は1の整数を表し、 T は、炭素原子数が1～20のヒドロカルビレン基又は炭素原子数が1～20の置換ヒドロカルビレン基を表し、 A^2 は窒素原子を有する官能基を表す。]

[化5]

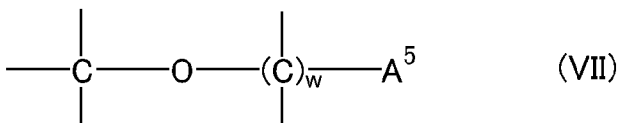


[式中、 g は、1～10の整数を表し、 R^{21} は、水素原子、炭素原子数が1～6のヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～6の置換ヒドロカルビル基を表し、 A^3 は、酸素原子又は $-\text{NR}^{22}-$ 基（ R^{22} は、水素原子又は炭素原子数が1～10のヒドロカルビル基を表す。）を表し、 A^4 は、窒素原子及び／又は酸素原子を有する官能基を表す。]

[化6]



[化7]



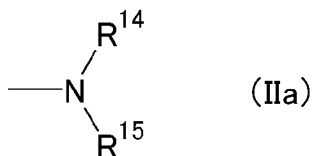
[式中、 w は1～11の整数を表し、 A^5 は窒素原子を有する官能基を表す。]

[0009] 式（I a）の R^1 及び R^2 が炭素原子数1～6のヒドロカルビル基であることが好ましい。

[0010] 式（I）の X^1 、 X^2 及び X^3 の2つが式（I a）で表される基又は水酸基であることが好ましい。

[0011] 式（I I）の A^1 が下式（I I a）で表される基であることが好ましい。

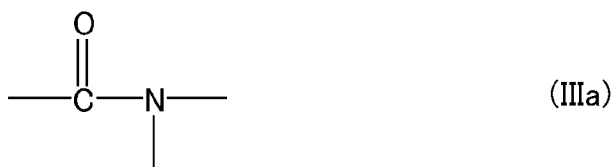
[化8]



[式中、 R^{14} 及び R^{15} は、それぞれ独立に、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも1種の原子を有していてもよい炭素原子数が1～6の基を表し、 R^{14} 及び R^{15} は結合して窒素原子と共に環構造を形成していてもよく、 R^{14} 及び R^{15} は窒素に二重結合で結合する同一の基であってもよい。]

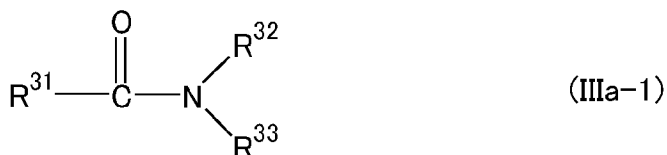
[0012] 式(III)で表される基が、下式(IIIa)で表される基であることが好ましい。

[化9]



[0013] 式(III)で表される基を有する化合物が、下式(IIIa-1)で表される化合物、下式(IIIa-2)で表される化合物及び下式(IIIa-3)で表される化合物からなる化合物群から選ばれる少なくとも1種の化合物であることが好ましい。

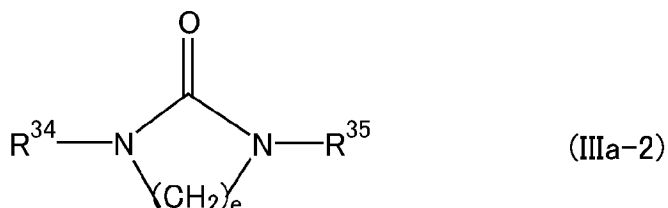
[化10]



[式中、 R^{31} は、水素原子、炭素原子数が1～10のヒドロカルビル基、炭素原子数が1～10の置換ヒドロカルビル基、又は、窒素原子及び／若しくは酸素原子をヘテロ原子として有するヘテロ環基を表し、 R^{32} 及び R^{33} は、それぞれ独立に、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも1種の原子を有していてもよい炭素原子数が1～10の基

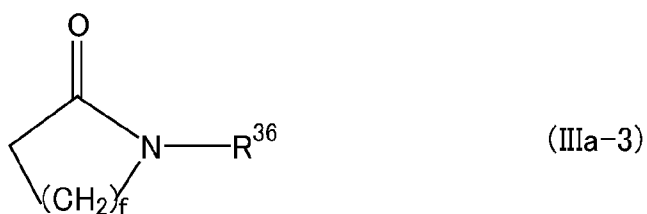
を表し、 R^{32} 及び R^{33} は結合して窒素原子と共に環構造を形成していてもよく、 R^{32} 及び R^{33} は窒素に二重結合で結合する同一の基であってもよい。]

[化11]



[式中、 e は0～10の整数を表し、 R^{34} 及び R^{35} は、それぞれ独立に、炭素原子数が1～20のヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～20の置換ヒドロカルビル基を表す。]

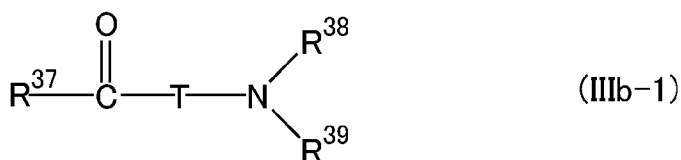
[化12]



[式中、 f は0～10の整数を表し、 R^{36} は、炭素原子数が1～20のヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～20の置換ヒドロカルビル基を表す。]

[0014] 式(III)で表される基を有する化合物が、下式(IIIb-1)で表される化合物であることが好ましい。

[化13]

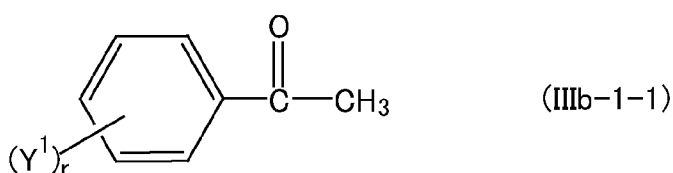


[式中、 R^{37} は、水素原子、炭素原子数が1～10のヒドロカルビル基、炭素原子数が1～10の置換ヒドロカルビル基、又は、窒素原子及び／若しくは酸素原子をヘテロ原子として有するヘテロ環基を表し、 R^{38} 及び R^{39} は、それぞれ独立に、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも1種の原子を有していてもよい炭素原子数が1～10の基

を表し、 R^{38} 及び R^{39} は結合して窒素原子と共に環構造を形成していてもよく、 R^{38} 及び R^{39} は窒素に二重結合で結合する同一の基であってもよく、 T は、炭素原子数が1～20のヒドロカルビレン基又は炭素原子数が1～20の置換ヒドロカルビレン基を表す。]

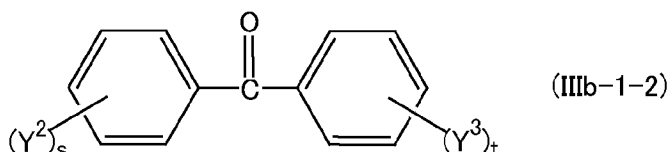
[0015] 式(IIIb-1)で表される化合物が、下式(IIIb-1-1)で表される化合物及び下式(IIIb-1-2)で表される化合物からなる化合物群から選ばれる少なくとも1種の化合物であることが好ましい。

[化14]



[式中、 r は1又は2の整数を表し、 Y^1 はベンゼン環上の置換基であって、窒素原子を有する官能基を表し、 Y^1 が複数ある場合、複数ある Y^1 は、同一でも異なってもよい。]

[化15]



[式中、 s は1又は2の整数を表し、 t は0～2の整数を表し、 Y^2 及び Y^3 は、ベンゼン環上の置換基であって、窒素原子を有する官能基を表し、 Y^2 が複数ある場合、複数ある Y^2 は、同一でも異なってもよく、 Y^3 が複数ある場合、複数ある Y^3 は、同一でも異なってもよい。]

[0016] 式(IV)の A^4 が、下式(IVa)で表される基又は水酸基であることが好ましい。

[化16]



[式中、 R^{23} 及び R^{24} は、それぞれ独立に、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも1種の原子を有していてもよい炭素原子数が1～6の基を表し、 R^{23} 及び R^{24} は結合して窒素原子と共に環構造を形成していてもよく、 R^{23} 及び R^{24} は窒素に二重結合で結合する同一の基であってもよい。]

[0017] ケイ素化合物が下式 (V I I I) で表される基を有することが好ましい。

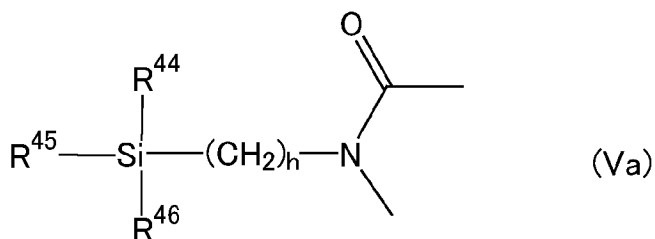
[化17]



[式中、 R^{41} 、 R^{42} 及び R^{43} は、それぞれ独立に、炭素原子数が1～4のヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～4のヒドロカルビルオキシ基を表し、 R^{41} 、 R^{42} 及び R^{43} の少なくとも1つがヒドロカルビルオキシ基である。]

[0018] ケイ素化合物が下式 (V a) で表される基を有することが好ましい。

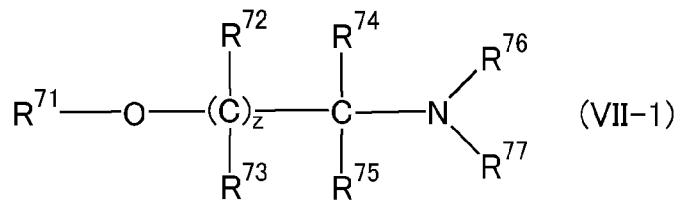
[化18]



[式中、 h は1～10の整数を表し、 R^{44} 、 R^{45} 及び R^{46} は、それぞれ独立に、炭素原子数が1～4のヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～4のヒドロカルビルオキシ基を表し、 R^{44} 、 R^{45} 及び R^{46} の少なくとも1つがヒドロカルビルオキシ基である。]

[0019] 式 (V I I) で表される基を有する化合物が下式 (V I I - 1) で表される化合物であることが好ましい。

[化19]



[式中、 z は0～10の整数を表し、 R^{71} は炭素原子数が1～5のヒドロカルビル基を表し、 R^{72} 、 R^{73} 、 R^{74} 及び R^{75} は、それぞれ独立に、水素原子、炭素原子数が1～5のヒドロカルビル基、炭素原子数が1～5の置換ヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～5のヒドロカルビルオキシ基を表し、 R^{72} 及び R^{73} が複数ある場合は、複数ある R^{72} 及び複数ある R^{73} はそれぞれ同じであっても異なってもよく、 R^{76} 及び R^{77} は、それぞれ独立に、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも1種の原子を有していてもよい炭素原子数が1～6の基を表し、 R^{76} 及び R^{77} は結合して窒素原子と共に環構造を形成していてもよく、 R^{76} 及び R^{77} は窒素に二重結合で結合する同一の基であってもよい。]

[0020] 式(VII-1)の R^{74} 及び R^{75} の一方が水素原子であることが好ましい。

[0021] 共役ジエン系重合体のビニル結合量が、共役ジエンに基づく構成単位の含有量を100モル%として、10モル%以上80モル%以下であることが好ましい。

[0022] 上記ゴム組成物は、天然ゴム及び／又はブタジエンゴムを含有することが好ましい。

[0023] シリカの窒素吸着比表面積が40～400 m^2/g であることが好ましい。

[0024] ジエン系ゴムゲルは、平均粒子径が10～100 nm 、水酸基価が10～60 mg KOH/g であることが好ましい。

[0025] 上記ゴム組成物は、トレッド用ゴム組成物として用いられることが好ましい。

[0026] 本発明はまた、上記ゴム組成物を用いて作製した空気入りタイヤに関する。

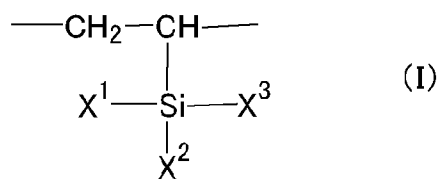
発明の効果

[0027] 本発明によれば、特定の共役ジエン系重合体と、シリカと、特定のジエン系ゴムゲルとを配合したゴム組成物であるので、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性がバランス良く改善された空気入りタイヤを提供できる。

発明を実施するための形態

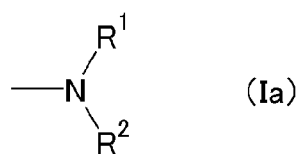
[0028] 本発明のゴム組成物は、共役ジエンに基づく構成単位及び下式（Ⅰ）で表される構成単位を有し、下式（ⅠⅠ）で表される化合物、下式（ⅠⅠⅠ）で表される基を有する化合物、下式（ⅠⅤ）で表される化合物、下式（Ⅴ）で表される基及び／又は下式（ⅤⅠ）で表される基を有するケイ素化合物、並びに下式（ⅤⅠⅠ）で表される基を有する化合物からなる群より選択される少なくとも１種の化合物によって重合体の少なくとも一端が変性されてなる共役ジエン系重合体と、シリカと、ガラス転移温度 $-40 \sim -10^{\circ}\text{C}$ の、水酸基を有するジエン系ゴムゲルとを含む。

[化20]



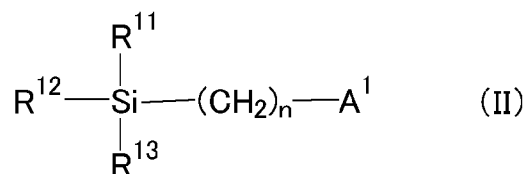
[式中、 X^1 、 X^2 及び X^3 は、それぞれ独立に、下式（Ⅰa）で表される基、水酸基、ヒドロカルビル基又は置換ヒドロカルビル基を表し、 X^1 、 X^2 及び X^3 の少なくとも１つが、下式（Ⅰa）で表される基又は水酸基である。]

[化21]



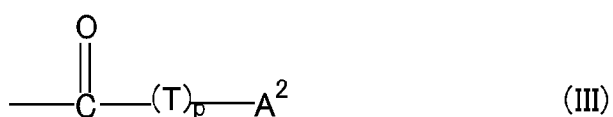
[式中、 R^1 及び R^2 は、それぞれ独立に、炭素原子数が $1 \sim 6$ のヒドロカルビル基、炭素原子数が $1 \sim 6$ の置換ヒドロカルビル基、シリル基又は置換シリル基を表し、 R^1 及び R^2 は結合して窒素原子と共に環構造を形成していてもよい。]

[化22]



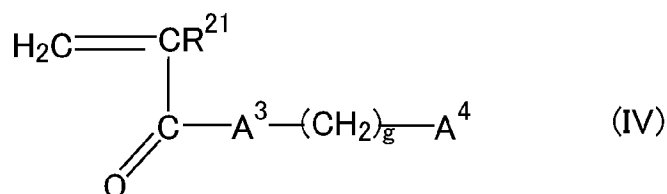
[式中、 n は1～10の整数を表し、 R^{11} 、 R^{12} 及び R^{13} は、それぞれ独立に、炭素原子数が1～4のヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～4のヒドロカルビルオキシ基を表し、 R^{11} 、 R^{12} 及び R^{13} の少なくとも1つがヒドロカルビルオキシ基であり、 A^1 は窒素原子を有する官能基を表す。]

[化23]



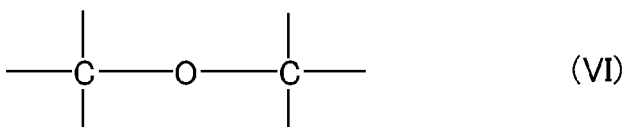
[式中、 p は0又は1の整数を表し、 T は、炭素原子数が1～20のヒドロカルビレン基又は炭素原子数が1～20の置換ヒドロカルビレン基を表し、 A^2 は窒素原子を有する官能基を表す。]

[化24]

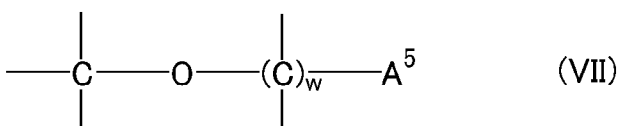


[式中、 g は、1～10の整数を表し、 R^{21} は、水素原子、炭素原子数が1～6のヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～6の置換ヒドロカルビル基を表し、 A^3 は、酸素原子又は $\text{---NR}^{22}\text{---}$ 基（ R^{22} は、水素原子又は炭素原子数が1～10のヒドロカルビル基を表す。）を表し、 A^4 は、窒素原子及び／又は酸素原子を有する官能基を表す。]

[化25]



[化26]



[式中、wは1～11の整数を表し、A⁵は窒素原子を有する官能基を表す。

]

[0029] 共役ジエンに基づく構成単位の共役ジエンとしては、1, 3-ブタジエン、イソプレン、1, 3-ペンタジエン、2, 3-ジメチル-1, 3-ブタジエン、1, 3-ヘキサジエンなどを挙げることができ、これらは1種でもよく、2種以上でもよい。入手容易性の観点から、1, 3-ブタジエン、イソプレンが好ましい。

[0030] 式(Ⅰ)で表される構成単位の式(Ⅰ)のX¹、X²及びX³は、それぞれ独立に、式(Ⅰa)で表される基、水酸基、ヒドロカルビル基又は置換ヒドロカルビル基を表し、X¹、X²及びX³の少なくとも1つは、式(Ⅰa)で表される基又は水酸基である。

[0031] 式(Ⅰa)のR¹及びR²は、それぞれ独立に、炭素原子数が1～6のヒドロカルビル基、炭素原子数が1～6の置換ヒドロカルビル基、シリル基又は置換シリル基を表し、R¹及びR²は結合して窒素原子と共に環構造を形成していてもよい。

[0032] 本明細書では、ヒドロカルビル基は1価の炭化水素残基を表す。ここで、炭化水素残基とは、炭化水素から水素を除いた基を表す。置換ヒドロカルビル基は、1価の炭化水素残基の1つ以上の水素原子が置換基で置換されている基を表す。ヒドロカルビルオキシ基は、ヒドロキシル基の水素原子がヒドロ

カルビル基で置換されている基を表し、置換ヒドロカルビルオキシ基は、ヒドロカルビルオキシ基の1つ以上の水素原子が置換基で置換されている基を表す。ヒドロカルビレン基は、2価の炭化水素残基を表す。置換ヒドロカルビレン基は、2価の炭化水素残基の1つ以上の水素原子が置換基で置換されている基を表す。また、置換シリル基は、シリル基の1つ以上の水素原子が置換基で置換されている基を表す。

- [0033] R^1 及び R^2 の炭素原子数が 1 ～ 6 のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、イソプロピル基、*n*-ブチル基、*sec*-ブチル基、*tert*-ブチル基、*n*-ペンチル基、ネオペンチル基、イソペンチル基、*n*-ヘキシル基などのアルキル基；シクロヘキシル基などのシクロアルキル基；フェニル基などを挙げることができる。
- [0034] R^1 及び R^2 の炭素原子数が 1 ～ 6 の置換ヒドロカルビル基としては、窒素原子を有する基、酸素原子を有する基及びケイ素原子を有する基からなる基群から選ばれる少なくとも1種の基を置換基として有する置換ヒドロカルビル基を挙げるすることができる。窒素原子を有する基を置換基として有する基としては、ジメチルアミノエチル基、ジエチルアミノエチル基などのジアルキルアミノアルキル基を挙げることができ、酸素原子を有する基を置換基として有する基としては、メトキシメチル基、メトキシエチル基、エトキシメチル基、エトキシエチル基などのアルコキシアルキル基を挙げることができ、ケイ素原子を有する基を置換基として有する基としては、トリメチルシリルメチル基などのトリアルキルシリルアルキル基などを挙げるすることができる。
- [0035] R^1 及び R^2 の置換シリル基としては、トリメチルシリル基、トリエチルシリル基、*t*-ブチルジメチルシリル基などのトリアルキルシリル基などを挙げるすることができる。
- [0036] R^1 及び R^2 が結合した基としては、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも1種の原子を有していてもよい炭素原子数が 1 ～ 12 の2価の基が挙げられる。例えば、トリメチレン基、テトラメチレン基、ペンタメチレン基、ヘキサメチレン基などのアルキレン基；オキ

シジエチレン基、オキシジプロピレン基などのオキシジアルキレン基； $-CH_2CH_2-NH-CH_2-$ で表される基、 $-CH_2CH_2-N=CH-$ で表される基などの含窒素基などを挙げることができる。

[0037] R^1 及び R^2 が結合した基としては、含窒素基が好ましく、 $-CH_2CH_2-NH-CH_2-$ で表される基、 $-CH_2CH_2-N=CH-$ で表される基がより好ましい。

[0038] R^1 及び R^2 のヒドロカルビル基としては、アルキル基が好ましく、炭素原子数が 1～4 のアルキル基がより好ましく、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、*n*-ブチル基が更に好ましく、エチル基、*n*-ブチル基が特に好ましい。 R^1 及び R^2 の置換ヒドロカルビル基としては、アルコキシアリル基が好ましく、炭素原子数が 1～4 のアルコキシアリル基がより好ましい。 R^1 及び R^2 の置換シリル基としては、トリアルキルシリル基が好ましく、トリメチルシリル基がより好ましい。

[0039] R^1 及び R^2 としては、好ましくは、アルキル基、アルコキシアリル基、置換シリル基又は R^1 及び R^2 が結合した含窒素基であり、より好ましくは、アルキル基であり、更に好ましくは、炭素原子数が 1～4 のアルキル基であり、より更に好ましくは、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、*n*-ブチル基である。

[0040] 式 (I a) で表される基としては、非環状アミノ基、環状アミノ基を挙げることができる。

[0041] 該非環状アミノ基としては、ジメチルアミノ基、ジエチルアミノ基、ジ (*n*-プロピル) アミノ基、ジ (イソプロピル) アミノ基、ジ (*n*-ブチル) アミノ基、ジ (*sec*-ブチル) アミノ基、ジ (*tert*-ブチル) アミノ基、ジ (ネオペンチル) アミノ基、エチルメチルアミノ基などのジアルキルアミノ基；ジ (メトキシメチル) アミノ基、ジ (メトキシエチル) アミノ基、ジ (エトキシメチル) アミノ基、ジ (エトキシエチル) アミノ基などのジ (アルコキシアリル) アミノ基；ジ (トリメチルシリル) アミノ基、ジ (*tert*-ブチルジメチルシリル) アミノ基などのジ (トリアルキルシリル) アミノ

基などを挙げることができる。

[0042] 該環状アミノ基としては、1-ピロリジニル基、1-ピペリジノ基、1-ヘキサメチレンイミノ基、1-ヘプタメチレンイミノ基、1-オクタメチレンイミノ基、1-デカメチレンイミノ基、1-ドデカメチレンイミノ基などの1-ポリメチレンイミノ基を挙げることができる。また、環状アミノ基としては、1-イミダゾリル基、4,5-ジヒドロ-1-イミダゾリル基、1-イミダゾリジニル基、1-ピペラジニル基、モルホリノ基なども挙げることができる。

[0043] 式(1a)で表される基としては、経済性及び入手容易性から、好ましくは、非環状アミノ基であり、より好ましくは、ジアルキルアミノ基であり、更に好ましくは、炭素原子数が1~4のアルキル基で置換されたジアルキルアミノ基であり、より更に好ましくは、ジメチルアミノ基、ジエチルアミノ基、ジ(n-プロピル)アミノ基、ジ(n-ブチル)アミノ基である。

[0044] 式(1)の $X^1 \sim X^3$ のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、n-プロピル基、イソプロピル基、n-ブチル基、sec-ブチル基、tert-ブチル基などのアルキル基を挙げることができる。また、置換ヒドロカルビル基としては、メトキシメチル基、エトキシメチル基、メトキシエチル基、エトキシエチル基などのアルコキシアルキル基を挙げることができる。

[0045] $X^1 \sim X^3$ のヒドロカルビル基としては、アルキル基が好ましく、炭素原子数が1~4のアルキル基がより好ましく、メチル基又はエチル基が更に好ましい。また、 $X^1 \sim X^3$ の置換ヒドロカルビル基としては、アルコキシアルキル基が好ましく、炭素原子数が1~4のアルコキシアルキル基がより好ましい。

[0046] $X^1 \sim X^3$ のヒドロカルビル基及び置換ヒドロカルビル基としては、好ましくは、アルキル基又はアルコキシアルキル基であり、より好ましくは、炭素原子数が1~4のアルキル基又は炭素原子数が1~4のアルコキシアルキル基であり、更に好ましくは、炭素原子数が1~4のアルキル基であり、より更に好ましくは、メチル基又はエチル基である。

[0047] 式(1)の X^1 、 X^2 及び X^3 の少なくとも1つは、式(1a)で表される基又は水酸基である。好ましくは、 X^1 、 X^2 及び X^3 の2つ以上が、式(1a)で表される基又は水酸基であり、より好ましくは、 X^1 、 X^2 及び X^3 の2つが、式(1a)で表される基又は水酸基である。また、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性を高次元でバランス良く得られるという点から、 X^1 、 X^2 及び X^3 の少なくとも1つが水酸基であることが好ましく、 X^1 、 X^2 及び X^3 の2つ以上が水酸基であることがより好ましく、 X^1 、 X^2 及び X^3 の2つが水酸基であることが更に好ましい。

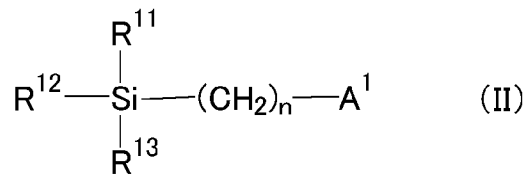
[0048] 低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く高める観点から、式(1)で表される構成単位としては、 X^1 、 X^2 及び X^3 の2つが非環状アミノ基又は水酸基である構成単位が好ましい。 X^1 、 X^2 及び X^3 の2つが非環状アミノ基である構成単位としては、ビス(ジアルキルアミノ)アルキルビニルシラン単位が好ましく、ビス(ジメチルアミノ)メチルビニルシラン単位、ビス(ジエチルアミノ)メチルビニルシラン単位、ビス(ジ(n-ブロピル)アミノ)メチルビニルシラン単位、ビス(ジ(n-ブチル)アミノ)メチルビニルシラン単位がより好ましい。 X^1 、 X^2 及び X^3 の2つが水酸基である構成単位としては、ジヒドロキシアルキルビニルシラン単位が好ましく、ジヒドロキシメチルビニルシラン単位がより好ましい。

[0049] 共役ジエン系重合体中の式(1)で表される構成単位の含有量は、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く高める観点から、重合体単位質量あたり、好ましくは、 0.001 mmol/g 重合体以上 0.1 mmol/g 重合体以下である。より好ましくは、 0.002 mmol/g 重合体以上 0.07 mmol/g 重合体以下である。更に好ましくは、 0.003 mmol/g 重合体以上 0.05 mmol/g 重合体以下である。

[0050] 上記共役ジエン系重合体は、特定の化合物(変性剤1~5)によって重合体の少なくとも一端が変性されている。これにより、シリカとの相互作用が生じ、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランスよく改善できる。

[0051] 以下、下式 (I I) で表される化合物 (変性剤 1) について説明する。

[化27]



[式中、 n は1～10の整数を表し、 R^{11} 、 R^{12} 及び R^{13} は、それぞれ独立に、炭素原子数が1～4のヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～4のヒドロカルビルオキシ基を表し、 R^{11} 、 R^{12} 及び R^{13} の少なくとも1つがヒドロカルビルオキシ基であり、 A^1 は窒素原子を有する官能基を表す。]

[0052] 式 (I I) の R^{11} 、 R^{12} 及び R^{13} は、それぞれ独立に、炭素原子数が1～4のヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～4のヒドロカルビルオキシ基を表し、 R^{11} 、 R^{12} 及び R^{13} の少なくとも1つがヒドロカルビルオキシ基である。

[0053] R^{11} 、 R^{12} 及び R^{13} のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、 n -プロピル基、イソプロピル基、 n -ブチル基、 sec -ブチル基、 $tert$ -ブチル基などのアルキル基などを挙げることができる。また、 R^{11} 、 R^{12} 及び R^{13} のヒドロカルビルオキシ基としては、メトキシ基、エトキシ基、 n -プロポキシ基、イソプロポキシ基、 n -ブトキシ基、 sec -ブトキシ基、 $tert$ -ブトキシ基などのアルコキシ基を挙げることができる。

[0054] R^{11} 、 R^{12} 及び R^{13} のヒドロカルビル基としては、好ましくは、アルキル基であり、より好ましくは、炭素原子数が1～3のアルキル基であり、更に好ましくは、メチル基、エチル基である。また、 R^{11} 、 R^{12} 及び R^{13} のヒドロカルビルオキシ基としては、好ましくは、アルコキシ基であり、より好ましくは、炭素原子数が1～3のアルコキシ基であり、更に好ましくは、メトキシ基、エトキシ基である。

[0055] R^{11} 、 R^{12} 及び R^{13} としては、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く高める観点から、好ましくは、 R^{11} 、 R^{12} 及び R^{13} の少なくとも2つがヒドロカルビルオキシ基であり、より好ましくは、 R^{11} 、 R^{12}

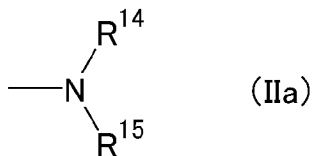
及び R^{13} の3つがヒドロカルビルオキシ基である。

[0056] 式(II)の n は1～10の整数を表す。低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く高める観点から、好ましくは3以上であり、経済性を高める観点から、好ましくは4以下である。特に好ましくは3である。

[0057] 式(II)の A^1 は窒素原子を有する官能基であり、アミノ基、イソシアノ基、シアノ基、ピリジル基、ピペリジル基、ピラジニル基、モルホリノ基などを挙げることができる。

[0058] A^1 としては、下式(IIa)で表される基が好ましい。

[化28]



[式中、 R^{14} 及び R^{15} は、それぞれ独立に、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも1種の原子を有していてもよい炭素原子数が1～6の基を表し、 R^{14} 及び R^{15} は結合して窒素原子と共に環構造を形成していてもよく、 R^{14} 及び R^{15} は窒素に二重結合で結合する同一の基であってもよい。]

[0059] 式(IIa)の R^{14} 及び R^{15} としては、炭素原子数が1～6のヒドロカルビル基、炭素原子数が1～6の置換ヒドロカルビル基、置換シリル基などを挙げることができる。

[0060] R^{14} 及び R^{15} のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、 n -プロピル基、イソプロピル基、 n -ブチル基、 sec -ブチル基、 $tert$ -ブチル基、 n -ペンチル基、ネオペンチル基、イソペンチル基、 n -ヘキシル基などのアルキル基；シクロヘキシル基などのシクロアルキル基；フェニル基などを挙げることができる。

[0061] R^{14} 及び R^{15} の置換ヒドロカルビル基としては、窒素原子を有する基、酸素原子を有する基及びケイ素原子を有する基からなる基群から選ばれる少なく

とも1種の基を置換基として有する置換ヒドロカルビル基を挙げることができる。窒素原子を有する基を置換基として有する基としては、ジメチルアミノエチル基、ジエチルアミノエチル基などのジアルキルアミノアルキル基を挙げることができ、酸素原子を有する基を置換基として有する基としては、メトキシメチル基、メトキシエチル基、エトキシメチル基、エトキシエチル基などのアルコキシアルキル基；エポキシ基、テトラヒドロフラン基などのアルキレンオキシド基；グリシジル基、テトラヒドロフルフリル基などのアルキレンオキシドアルキル基を挙げることができ、ケイ素原子を有する基を置換基として有する基としては、トリメチルシリルメチル基などのトリアルキルシリルアルキル基などを挙げることができる。

なお、本明細書において、アルキレンオキシド基は、環状エーテル化合物の環から水素原子を除いた1価の基を表す。また、アルキレンオキシドアルキル基は、アルキル基の1つ以上の水素原子がアルキレンオキシド基で置換されている基を表す。

[0062] R^{14} 及び R^{15} の置換シリル基としては、トリメチルシリル基、トリエチルシリル基、 t -ブチルジメチルシリル基などのトリアルキルシリル基；トリメトキシシリル基などのトリアルコキシシリル基などを挙げることができる。

[0063] R^{14} 及び R^{15} が結合した基としては、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも1種の原子を有していてもよい炭素原子数が2～12の2価の基が挙げられる。例えば、トリメチレン基、テトラメチレン基、ペンタメチレン基、ヘキサメチレン基などのアルキレン基；オキシジエチレン基、オキシジプロピレン基などのオキシジアルキレン基； $-CH_2CH_2-NH-CH_2-$ で表される基、 $-CH_2CH_2-N=CH-$ で表される基などの含窒素基などを挙げることができる。

[0064] R^{14} 及び R^{15} が結合した基としては、含窒素基が好ましく、 $-CH_2CH_2-NH-CH_2-$ で表される基、 $-CH_2CH_2-N=CH-$ で表される基がより好ましい。

[0065] R^{14} 及び R^{15} の窒素に二重結合で結合する同一の基としては、窒素原子、酸

素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも1種の原子を有していてもよい炭素原子数が2～12の2価の基が挙げられる。例えば、エチリデン基、1-メチルプロピリデン基、1,3-ジメチルブチリデン基、1-メチルエチリデン基、4-N,N-ジメチルアミノベンジリデン基などを挙げることができる。

[0066] R^{14} 及び R^{15} のヒドロカルビル基としては、好ましくは、アルキル基であり、より好ましくは、炭素原子数が1～4のアルキル基であり、更に好ましくは、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、*n*-ブチル基であり、より更に好ましくは、メチル基、エチル基である。 R^{14} 及び R^{15} の置換ヒドロカルビル基としては、好ましくは、アルコキシアルキル基、アルキレンオキシド基、アルキレンオキシドアルキル基である。 R^{14} 及び R^{15} の置換シリル基としては、好ましくは、トリアルキルシリル基、トリアルコキシシリル基であり、より好ましくは、トリアルキルシリル基であり、更に好ましくは、トリメチルシリル基、トリエチルシリル基である。

[0067] R^{14} 及び R^{15} としては、好ましくは、 R^{14} 及び R^{15} が結合した含窒素基、アルキル基、アルコキシアルキル基、アルキレンオキシド基、アルキレンオキシドアルキル基、置換シリル基であり、より好ましくは、アルキル基、アルキレンオキシド基、アルキレンオキシドアルキル基、トリアルキルシリル基である。

[0068] 式(IIa)で表される基としては、非環状アミノ基、環状アミノ基を挙げることができる。

[0069] 該非環状アミノ基としては、ジメチルアミノ基、ジエチルアミノ基、ジ(*n*-プロピル)アミノ基、ジ(イソプロピル)アミノ基、ジ(*n*-ブチル)アミノ基、ジ(*sec*-ブチル)アミノ基、ジ(*tert*-ブチル)アミノ基、ジ(ネオペンチル)アミノ基、エチルメチルアミノ基などのジアルキルアミノ基；ジ(メトキシメチル)アミノ基、ジ(メトキシエチル)アミノ基、ジ(エトキシメチル)アミノ基、ジ(エトキシエチル)アミノ基などのジ(アルコキシアルキル)アミノ基；ジ(トリメチルシリル)アミノ基、ジ(*t*

ーブチルジメチルシリル) アミノ基などのジ (トリアルキルシリル) アミノ基などを挙げることができる。また、ジ (エポキシ) アミノ基、ジ (テトラヒドロフラニル) アミノ基などのジ (アルキレンオキシド) アミノ基 ; ジ (グリシジル) アミノ基、ジ (テトラヒドロフルフリル) アミノ基などのジ (アルキレンオキシドアルキル) アミノ基を挙げることができる。更には、エチリデンアミノ基、1-メチルプロピリデンアミノ基、1, 3-ジメチルブチリデンアミノ基、1-メチルエチリデンアミノ基、4-N, N-ジメチルアミノベンジリデンアミノ基なども挙げることができる。

なお、本明細書において、ジ (アルキレンオキシド) アミノ基は、窒素原子に結合している2つの水素原子が2つのアルキレンオキシド基に置換されたアミノ基を表し、ジ (アルキレンオキシドアルキル) アミノ基は、窒素原子に結合している2つの水素原子が2つのアルキレンオキシドアルキル基に置換されたアミノ基を表す。

[0070] 該環状アミノ基としては、1-ピロリジニル基、1-ピペリジノ基、1-ヘキサメチレンイミノ基、1-ヘプタメチレンイミノ基、1-オクタメチレンイミノ基、1-デカメチレンイミノ基、1-ドデカメチレンイミノ基などの1-ポリメチレンイミノ基を挙げることができる。また、環状アミノ基としては、1-イミダゾリル基、4, 5-ジヒドロ-1-イミダゾリル基、1-イミダゾリジニル基、1-ピペラジニル基、モルホリノ基なども挙げることができる。

[0071] 式 (I I a) で表される基としては、低燃費性、ウェットグリップ性能、耐摩耗性、化合物の長期安定性及び入手容易性から、好ましくは、非環状アミノ基であり、より好ましくは、ジアルキルアミノ基、ジ (アルキレンオキシド) アミノ基、ジ (アルキレンオキシドアルキル) アミノ基、ジ (トリアルキルシリル) アミノ基である。

[0072] 式 (I I) で表される化合物としては、式 (I I a) が、ジアルキルアミノ基、ジ (アルコキシアルキル) アミノ基、ジ (アルキレンオキシド) アミノ基、ジ (アルキレンオキシドアルキル) アミノ基、トリアルキルシリル基な

どの非環状アミノ基である化合物を挙げることができる。

[0073] 式 (I I a) がジアルキルアミノ基である化合物としては、

[3 - (ジメチルアミノ) プロピル] トリメトキシシラン、
[3 - (ジエチルアミノ) プロピル] トリメトキシシラン、
[3 - (エチルメチルアミノ) プロピル] トリメトキシシラン、
[3 - (ジメチルアミノ) プロピル] トリエトキシシラン、
[3 - (ジエチルアミノ) プロピル] トリエトキシシラン、
[3 - (エチルメチルアミノ) プロピル] トリエトキシシランなどの
[3 - (ジアルキルアミノ) プロピル] トリアルコキシシラン；

[0074] [3 - (ジメチルアミノ) プロピル] メチルジメトキシシラン、
[3 - (ジエチルアミノ) プロピル] メチルジメトキシシラン、
[3 - (エチルメチルアミノ) プロピル] メチルジメトキシシラン、
[3 - (ジメチルアミノ) プロピル] エチルジメトキシシラン、
[3 - (ジエチルアミノ) プロピル] エチルジメトキシシラン、
[3 - (エチルメチルアミノ) プロピル] エチルジメトキシシラン、
[3 - (ジメチルアミノ) プロピル] メチルジエトキシシラン、
[3 - (ジエチルアミノ) プロピル] メチルジエトキシシラン、
[3 - (エチルメチルアミノ) プロピル] メチルジエトキシシラン、
[3 - (ジメチルアミノ) プロピル] エチルジエトキシシラン、
[3 - (ジエチルアミノ) プロピル] エチルジエトキシシラン、
[3 - (エチルメチルアミノ) プロピル] エチルジエトキシシランなどの
[3 - (ジアルキルアミノ) プロピル] アルキルジアルコキシシラン；

[0075] [3 - (ジメチルアミノ) プロピル] ジメチルメトキシシラン、
[3 - (ジエチルアミノ) プロピル] ジメチルメトキシシラン、
[3 - (ジメチルアミノ) プロピル] ジエチルメトキシシラン、
[3 - (ジエチルアミノ) プロピル] ジエチルメトキシシラン、
[3 - (ジメチルアミノ) プロピル] ジメチルエトキシシラン、
[3 - (ジエチルアミノ) プロピル] ジメチルエトキシシラン、

[3 - (ジメチルアミノ) プロピル] ジエチルエトキシシラン、
[3 - (ジエチルアミノ) プロピル] ジエチルエトキシシランなどの
[3 - (ジアルキルアミノ) プロピル] ジアルキルアルコキシシランを挙げ
ることができる。

[0076] 式 (I I a) がジ (アルコキシアルキル) アミノ基である化合物としては、

{3 - [ジ (メトキシメチル) アミノ] プロピル} トリメトキシシラン、
{3 - [ジ (エトキシメチル) アミノ] プロピル} トリメトキシシラン、
{3 - [ジ (メトキシエチル) アミノ] プロピル} トリメトキシシラン、
{3 - [ジ (エトキシエチル) アミノ] プロピル} トリメトキシシラン、
{3 - [ジ (メトキシメチル) アミノ] プロピル} トリエトキシシラン、
{3 - [ジ (エトキシメチル) アミノ] プロピル} トリエトキシシラン、
{3 - [ジ (メトキシエチル) アミノ] プロピル} トリエトキシシラン、
{3 - [ジ (エトキシエチル) アミノ] プロピル} トリエトキシシランなど
の

{3 - [ジ (アルコキシアルキル) アミノ] プロピル} トリアルコキシシ
ラン；

[0077] {3 - [ジ (メトキシメチル) アミノ] プロピル} メチルジメトキシシラン

、

{3 - [ジ (エトキシメチル) アミノ] プロピル} メチルジメトキシシラン

、

{3 - [ジ (メトキシエチル) アミノ] プロピル} メチルジメトキシシラン

、

{3 - [ジ (エトキシエチル) アミノ] プロピル} メチルジメトキシシラン

、

{3 - [ジ (メトキシメチル) アミノ] プロピル} エチルジメトキシシラン

、

{3 - [ジ (エトキシメチル) アミノ] プロピル} エチルジメトキシシラン

、

{3- [ジ (メトキシエチル) アミノ] プロピル} エチルジメトキシシラン
、
{3- [ジ (エトキシエチル) アミノ] プロピル} エチルジメトキシシラン
、
{3- [ジ (メトキシメチル) アミノ] プロピル} メチルジエトキシシラン
、
{3- [ジ (エトキシメチル) アミノ] プロピル} メチルジエトキシシラン
、
{3- [ジ (メトキシエチル) アミノ] プロピル} メチルジエトキシシラン
、
{3- [ジ (エトキシエチル) アミノ] プロピル} メチルジエトキシシラン
、
{3- [ジ (メトキシメチル) アミノ] プロピル} エチルジエトキシシラン
、
{3- [ジ (エトキシメチル) アミノ] プロピル} エチルジエトキシシラン
、
{3- [ジ (メトキシエチル) アミノ] プロピル} エチルジエトキシシラン
、
{3- [ジ (エトキシエチル) アミノ] プロピル} エチルジエトキシシラン
などの
{3- [ジ (アルコキシアルキル) アミノ] プロピル} アルキルジアルコキシシラン ;

[0078] {3- [ジ (メトキシメチル) アミノ] プロピル} ジメチルメトキシシラン
、
{3- [ジ (エトキシメチル) アミノ] プロピル} ジメチルメトキシシラン
、
{3- [ジ (メトキシエチル) アミノ] プロピル} ジメチルメトキシシラン
、

{3- [ジ (エトキシエチル) アミノ] プロピル} ジメチルメトキシシラン
、
{3- [ジ (メトキシメチル) アミノ] プロピル} ジエチルメトキシシラン
、
{3- [ジ (エトキシメチル) アミノ] プロピル} ジエチルメトキシシラン
、
{3- [ジ (メトキシエチル) アミノ] プロピル} ジエチルメトキシシラン
、
{3- [ジ (エトキシエチル) アミノ] プロピル} ジエチルメトキシシラン
、
{3- [ジ (メトキシメチル) アミノ] プロピル} ジメチルエトキシシラン
、
{3- [ジ (エトキシメチル) アミノ] プロピル} ジメチルエトキシシラン
、
{3- [ジ (メトキシエチル) アミノ] プロピル} ジメチルエトキシシラン
、
{3- [ジ (エトキシエチル) アミノ] プロピル} ジメチルエトキシシラン
、
{3- [ジ (メトキシメチル) アミノ] プロピル} ジエチルエトキシシラン
、
{3- [ジ (エトキシメチル) アミノ] プロピル} ジエチルエトキシシラン
、
{3- [ジ (メトキシエチル) アミノ] プロピル} ジエチルエトキシシラン
、
{3- [ジ (エトキシエチル) アミノ] プロピル} ジエチルエトキシシラン
などの
{3- [ジ (アルコキシアルキル) アミノ] プロピル} ジアルキルアルコキシシランを挙げることができる。

[0079] 式 (I I a) がジ (アルキレンオキシド) アミノ基である化合物としては、

{3- [ジ (エポキシ) アミノ] プロピル} トリメトキシシラン、
{3- [ジ (エポキシ) アミノ] プロピル} トリエトキシシラン、
{3- [ジ (エポキシ) アミノ] プロピル} メチルジメトキシシラン、
{3- [ジ (エポキシ) アミノ] プロピル} エチルジメトキシシラン、
{3- [ジ (エポキシ) アミノ] プロピル} メチルジエトキシシラン、
{3- [ジ (エポキシ) アミノ] プロピル} エチルジエトキシシラン、
{3- [ジ (エポキシ) アミノ] プロピル} ジメチルメトキシシラン、
{3- [ジ (エポキシ) アミノ] プロピル} ジエチルメトキシシラン、
{3- [ジ (エポキシ) アミノ] プロピル} ジメチルエトキシシラン、
{3- [ジ (エポキシ) アミノ] プロピル} ジエチルエトキシシランなどの
式 (I I a) がジ (エポキシ) アミノ基である化合物；

[0080] {3- [ジ (テトラヒドロフラニル) アミノ] プロピル} トリメトキシシラン、
{3- [ジ (テトラヒドロフラニル) アミノ] プロピル} トリエトキシシラン、
{3- [ジ (テトラヒドロフラニル) アミノ] プロピル} メチルジメトキシシラン、
{3- [ジ (テトラヒドロフラニル) アミノ] プロピル} エチルジメトキシシラン、
{3- [ジ (テトラヒドロフラニル) アミノ] プロピル} メチルジエトキシシラン、
{3- [ジ (テトラヒドロフラニル) アミノ] プロピル} エチルジエトキシシラン、
{3- [ジ (テトラヒドロフラニル) アミノ] プロピル} ジメチルメトキシシラン、
{3- [ジ (テトラヒドロフラニル) アミノ] プロピル} ジエチルメトキシシラン、

{3- [ジ (テトラヒドロフラニル) アミノ] プロピル} ジメチルエトキシシラン、

{3- [ジ (テトラヒドロフラニル) アミノ] プロピル} ジエチルエトキシシランなどの

式 (I I a) がジ (テトラヒドロフラニル) アミノ基である化合物を挙げることができる。

[0081] 式 (I I a) がジ (アルキレンオキシドアルキル) アミノ基である化合物としては、

{3- [ジ (グリシジル) アミノ] プロピル} トリメトキシシラン、

{3- [ジ (グリシジル) アミノ] プロピル} トリエトキシシラン、

{3- [ジ (グリシジル) アミノ] プロピル} メチルジメトキシシラン、

{3- [ジ (グリシジル) アミノ] プロピル} エチルジメトキシシラン、

{3- [ジ (グリシジル) アミノ] プロピル} メチルジエトキシシラン、

{3- [ジ (グリシジル) アミノ] プロピル} エチルジエトキシシラン、

{3- [ジ (グリシジル) アミノ] プロピル} ジメチルメトキシシラン、

{3- [ジ (グリシジル) アミノ] プロピル} ジエチルメトキシシラン、

{3- [ジ (グリシジル) アミノ] プロピル} ジメチルエトキシシラン、

{3- [ジ (グリシジル) アミノ] プロピル} ジエチルエトキシシランなどの

式 (I I a) がジ (グリシジル) アミノ基である化合物；

[0082] {3- [ジ (テトラヒドロフルフリル) アミノ] プロピル} トリメトキシシラン、

{3- [ジ (テトラヒドロフルフリル) アミノ] プロピル} トリエトキシシラン、

{3- [ジ (テトラヒドロフルフリル) アミノ] プロピル} メチルジメトキシシラン、

{3- [ジ (テトラヒドロフルフリル) アミノ] プロピル} エチルジメトキシシラン、

{3- [ジ (テトラヒドロフルフリル) アミノ] プロピル} メチルジエトキシシラン、

{3- [ジ (テトラヒドロフルフリル) アミノ] プロピル} エチルジエトキシシラン、

{3- [ジ (テトラヒドロフルフリル) アミノ] プロピル} ジメチルメトキシシラン、

{3- [ジ (テトラヒドロフルフリル) アミノ] プロピル} ジエチルメトキシシラン、

{3- [ジ (テトラヒドロフルフリル) アミノ] プロピル} ジメチルエトキシシラン、

{3- [ジ (テトラヒドロフルフリル) アミノ] プロピル} ジエチルエトキシシランなどの

式 (I I a) がジ (テトラヒドロフルフリル) アミノ基である化合物を挙げることができる。

[0083] 式 (I I a) がトリアルキルシリル基である化合物としては、

{3- [ジ (トリメチルシリル) アミノ] プロピル} トリメトキシシラン、

{3- [ジ (t-ブチルジメチルシリル) アミノ] プロピル} トリメトキシシラン、

{3- [ジ (トリメチルシリル) アミノ] プロピル} トリエトキシシラン、

{3- [ジ (t-ブチルジメチルシリル) アミノ] プロピル} トリエトキシシランなどの

{3- [ジ (トリアルキルシリル) アミノ] プロピル} トリアルコキシシラン；

[0084] {3- [ジ (トリメチルシリル) アミノ] プロピル} メチルジメトキシシラン、

{3- [ジ (t-ブチルジメチルシリル) アミノ] プロピル} メチルジメトキシシラン、

{3- [ジ (トリメチルシリル) アミノ] プロピル} メチルジエトキシシラ

ン、

{3- [ジ (t-ブチルジメチルシリル) アミノ] プロピル} メチルジエトキシシランなどの

{3- [ジ (トリアルキルシリル) アミノ] プロピル} アルキルジアルコキシシラン；

[0085] {3- [ジ (トリメチルシリル) アミノ] プロピル} ジメチルメトキシシラン、

{3- [ジ (t-ブチルジメチルシリル) アミノ] プロピル} ジメチルメトキシシラン、

{3- [ジ (トリメチルシリル) アミノ] プロピル} ジメチルエトキシシラン、

{3- [ジ (t-ブチルジメチルシリル) アミノ] プロピル} ジメチルエトキシシランなどの

{3- [ジ (トリアルキルシリル) アミノ] プロピル} ジアルキルアルコキシシランを挙げることができる。

[0086] これらの中では、 [3- (ジアルキルアミノ) プロピル] トリアルコキシシランが好ましく、

[3- (ジメチルアミノ) プロピル] トリメトキシシラン、

[3- (ジエチルアミノ) プロピル] トリメトキシシラン、

[3- (ジメチルアミノ) プロピル] トリエトキシシラン、

[3- (ジエチルアミノ) プロピル] トリエトキシシラン

がより好ましい。

[0087] また、式 (I I) で表される化合物としては、式 (I I a) が、1-ピペリジノ基、1-ヘキサメチレンイミノ基、1-イミダゾリル基、4, 5-ジヒドロ-1-イミダゾリル基、1-ピペラジニル基、モルホリノ基などの環状アミノ基である化合物を挙げることができる。

[0088] 式 (I I a) が1-ピペリジノ基である化合物としては、

3- (1-ピペリジノ) プロピルトリメトキシシラン、

3- (1-ピペリジノ) プロピルトリエトキシシラン、
3- (1-ピペリジノ) プロピルメチルジメトキシシラン、
3- (1-ピペリジノ) プロピルエチルジメトキシシラン、
3- (1-ピペリジノ) プロピルメチルジエトキシシラン、
3- (1-ピペリジノ) プロピルエチルジエトキシシランなどを挙げることができる。

[0089] 式 (I I a) が 1-ヘキサメチレンイミノ基である化合物としては、

3- (1-ヘキサメチレンイミノ) プロピルトリメトキシシラン、
3- (1-ヘキサメチレンイミノ) プロピルトリエトキシシラン、
3- (1-ヘキサメチレンイミノ) プロピルメチルジメトキシシラン、
3- (1-ヘキサメチレンイミノ) プロピルエチルジメトキシシラン、
3- (1-ヘキサメチレンイミノ) プロピルメチルジエトキシシラン、
3- (1-ヘキサメチレンイミノ) プロピルエチルジエトキシシランなどを挙げることができる。

[0090] 式 (I I a) が 1-イミダゾリル基である化合物としては、

N- (3-トリメトキシシリルプロピル) イミダゾール、
N- (3-トリエトキシシリルプロピル) イミダゾールなどを挙げることができる。

[0091] 式 (I I a) が 4, 5-ジヒドロ-1-イミダゾリル基である化合物としては、

N- (3-トリメトキシシリルプロピル) -4, 5-ジヒドロイミダゾール、
N- (3-トリエトキシシリルプロピル) -4, 5-ジヒドロイミダゾールなどを挙げることができる。

[0092] 式 (I I a) が 1-ピペラジニル基である化合物としては、

3- (1-ピペラジニル) プロピルトリメトキシシラン、
3- (1-ピペラジニル) プロピルトリエトキシシラン、
3- (1-ピペラジニル) プロピルメチルジメトキシシラン、

3-（1-ピペラジニル）プロピルエチルジメトキシシラン、
 3-（1-ピペラジニル）プロピルメチルジエトキシシラン、
 3-（1-ピペラジニル）プロピルエチルジエトキシシランなどを挙げること
 ができる。

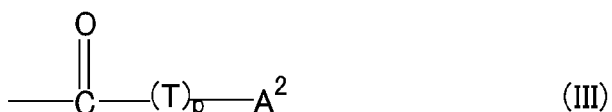
[0093] 式（ⅠⅠa）がモルホリノ基である化合物としては、

3-モルホリノプロピルトリメトキシシラン、
 3-モルホリノプロピルトリエトキシシラン、
 3-モルホリノプロピルメチルジメトキシシラン、
 3-モルホリノプロピルエチルジメトキシシラン、
 3-モルホリノプロピルメチルジエトキシシラン、
 3-モルホリノプロピルエチルジエトキシシランなどを挙げることができる。
 。

[0094] これらの中では、式（ⅠⅠa）が1-イミダゾリル基である化合物、式（ⅠⅠa）が4，5-ジヒドロ-1-イミダゾリル基である化合物が好ましく、
 N-（3-トリメトキシシリルプロピル）イミダゾール、
 N-（3-トリエトキシシリルプロピル）イミダゾール、
 N-（3-トリメトキシシリルプロピル）-4，5-ジヒドロイミダゾール、
 、
 N-（3-トリエトキシシリルプロピル）-4，5-ジヒドロイミダゾール
 がより好ましい。

[0095] 以下、下式（ⅠⅠⅠ）で表される基を有する化合物（変性剤2）について説明する。

[化29]

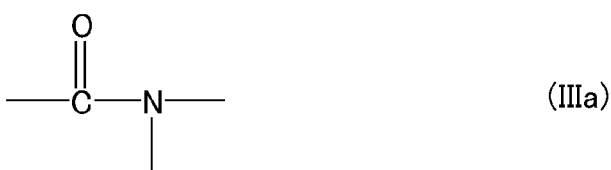


〔式中、pは0又は1の整数を表し、Tは、炭素原子数が1～20のヒドロカルビレン基又は炭素原子数が1～20の置換ヒドロカルビレン基を表し、
 A²は窒素原子を有する官能基を表す。〕

[0096] p は 0 又は 1 の整数を表す。T は、炭素原子数が 1 ～ 20 のヒドロカルビレン基又は炭素原子数が 1 ～ 20 の置換ヒドロカルビレン基を表す。 A^2 は窒素原子を有する官能基を表し、アミノ基、イソシアノ基、シアノ基、ピリジル基、ピペリジル基、ピラジニル基、モルホリノ基などを挙げることができる。

[0097] 式 (III) で表される基を有する化合物としては、式 (III) の p が 0 であり、 A^2 がアミノ基である下式 (IIIa) で表される基を有する化合物を挙げることができる。

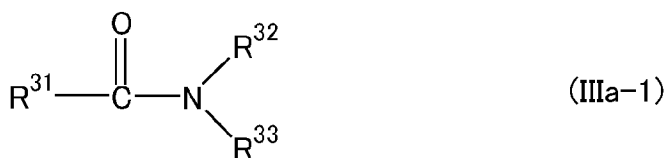
[化30]



[0098] 式 (IIIa) で表される基を有する化合物としては、ホルムアミド、アセトアミド、プロピオンアミドなどのカルボン酸アミド化合物を挙げることができる。また、イミダゾリジノン及びその誘導体、ラクタム類などの環状化合物を挙げることができる。

[0099] 式 (IIIa) で表される基を有する化合物としては、下式 (IIIa-1) で表されるカルボン酸アミド化合物を挙げることができる。

[化31]



[式中、 R^{31} は、水素原子、炭素原子数が 1 ～ 10 のヒドロカルビル基、炭素原子数が 1 ～ 10 の置換ヒドロカルビル基、又は、窒素原子及び／若しくは酸素原子をヘテロ原子として有するヘテロ環基を表し、 R^{32} 及び R^{33} は、それぞれ独立に、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも 1 種の原子を有していてもよい炭素原子数が 1 ～ 10 の基を表し、 R^{32} 及び R^{33} は結合して窒素原子と共に環構造を形成していてもよ

く、 R^{32} 及び R^{33} は窒素に二重結合で結合する同一の基であってもよい。]

[0100] R^{31} のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、イソプロピル基、*n*-ブチル基、*sec*-ブチル基、*tert*-ブチル基などのアルキル基；フェニル基、メチルフェニル基、エチルフェニル基、ナフチル基などのアリール基；ベンジル基などのアラルキル基を挙げることができる。

[0101] R^{31} の置換ヒドロカルビル基としては、窒素原子を有する基及び酸素原子を有する基からなる基群から選ばれる少なくとも1種の基を置換基として有する置換ヒドロカルビル基を挙げることができる。窒素原子を有する基を置換基として有する基としては、ジメチルアミノエチル基、ジエチルアミノエチル基などのジアルキルアミノアルキル基を挙げることができ、酸素原子を有する基を置換基として有する基としては、メトキシメチル基、メトキシエチル基、エトキシメチル基、エトキシエチル基などのアルコキシアルキル基を挙げることができる。

[0102] R^{31} の窒素原子及び／又は酸素原子をヘテロ原子として有するヘテロ環基とは、窒素原子及び／又は酸素原子を環内に含む複素環式化合物残基を表し、該基としては、2-ピリジル基、3-ピリジル基、4-ピリジル基、2-フリル基などを挙げることができる。

[0103] R^{31} としては、好ましくは、炭素原子数が1～10のヒドロカルビル基、炭素原子数が1～10の置換ヒドロカルビル基であり、より好ましくは、炭素原子数が1～4のアルキル基であり、特に好ましくは、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、*n*-ブチル基である。

[0104] 式(IIIa-1)の R^{32} 及び R^{33} としては、炭素原子数が1～10のヒドロカルビル基、炭素原子数が1～10の置換ヒドロカルビル基などを挙げることができる。 R^{32} 及び R^{33} のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、イソプロピル基、*n*-ブチル基、*sec*-ブチル基、*tert*-ブチル基などのアルキル基；フェニル基、メチルフェニル基、エチルフェニル基、ナフチル基などのアリール基；ベンジル基などのアラルキル基を挙げることができる。

- [0105] R^{32} 及び R^{33} の置換ヒドロカルビル基としては、窒素原子を有する基及び酸素原子を有する基からなる基群から選ばれる少なくとも 1 種の基を置換基として有する置換ヒドロカルビル基を挙げることができる。窒素原子を有する基を置換基として有する基としては、ジメチルアミノエチル基、ジエチルアミノエチル基などのジアルキルアミノアルキル基を挙げることができ、酸素原子を有する基を置換基として有する基としては、メトキシメチル基、メトキシエチル基、エトキシメチル基、エトキシエチル基などのアルコキシアルキル基を挙げることができる。
- [0106] R^{32} 及び R^{33} が結合した基としては、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも 1 種の原子を有していてもよい炭素原子数が 2 ～ 20 の 2 価の基が挙げられる。例えば、トリメチレン基、テトラメチレン基、ペンタメチレン基、ヘキサメチレン基などのアルキレン基；オキシジエチレン基、オキシジプロピレン基などのオキシジアルキレン基； $-CH_2CH_2-NH-CH_2-$ で表される基、 $-CH_2CH_2-N=CH-$ で表される基などの含窒素基などを挙げることができる。
- [0107] R^{32} 及び R^{33} の窒素に二重結合で結合する同一の基としては、窒素原子及び酸素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも 1 種の原子を有していてもよい炭素原子数が 2 ～ 12 の 2 価の基が挙げられる。例えば、エチリデン基、1-メチルプロピリデン基、1,3-ジメチルブチリデン基、1-メチルエチリデン基、4-N,N-ジメチルアミノベンジリデン基などを挙げることができる。
- [0108] R^{32} 及び R^{33} としては、好ましくは、ヒドロカルビル基であり、より好ましくは、アルキル基であり、更に好ましくは、炭素原子数が 1 ～ 4 のアルキル基であり、特に好ましくは、メチル基、エチル基、n-プロピル基、n-ブチル基である。
- [0109] 式 (I I I a-1) で表されるカルボン酸アミド化合物としては、ホルムアミド、N,N-ジメチルホルムアミド、N,N-ジエチルホルムアミドなどのホルムアミド化合物；

アセトアミド、N，N－ジメチルアセトアミド、N，N－ジエチルアセトアミド、アミノアセトアミド、N，N－ジメチル－N'，N'－ジメチルアミノアセトアミド、N，N－ジメチルアミノアセトアミド、N－エチルアミノアセトアミド、N，N－ジメチル－N'－エチルアミノアセトアミド、N，N－ジメチルアミノアセトアミド、N－フェニルジアセトアミドなどのアセトアミド化合物；

プロピオンアミド、N，N－ジメチルプロピオンアミドなどのプロピオンアミド化合物；

4－ピリジルアミド、N，N－ジメチル－4－ピリジルアミドなどのピリジルアミド化合物；

ベンズアミド、N，N－ジメチルベンズアミド、N'，N'－（p－ジメチルアミノ）ベンズアミド、N'，N'－（p－ジエチルアミノ）ベンズアミド、N，N－ジメチル－N'，N'－（p－ジメチルアミノ）ベンズアミド、N，N－ジメチル－N'，N'－（p－ジエチルアミノ）ベンズアミドなどのベンズアミド化合物；

N，N－ジメチルアクリルアミド、N，N－ジエチルアクリルアミドなどのアクリルアミド化合物；

N，N－ジメチルメタクリルアミド、N，N－ジエチルメタクリルアミドなどのメタクリルアミド化合物；

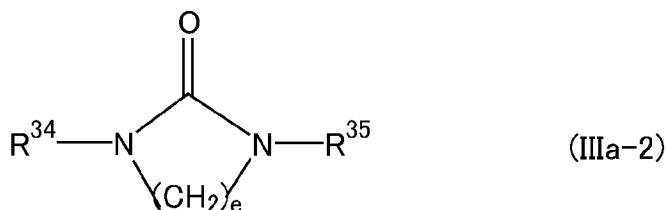
N，N－ジメチルニコチンアミド、N，N－ジエチルニコチンアミドなどのニコチンアミド化合物；

N，N，N'，N'－テトラメチルフタルアミド、N，N，N'，N'－テトラエチルフタルアミドなどのフタルアミド化合物；

N－メチルフタリミド、N－エチルフタリミドなどのフタリミド化合物などを挙げることができる。

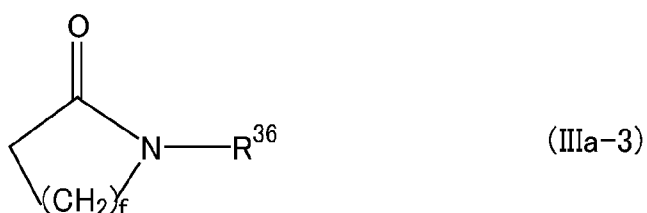
[0110] また、式（111a）で表される基を有する環状化合物としては、下式（111a-2）又は下式（111a-3）で表される化合物を挙げることができる。

[化32]



[式中、 e は0～10の整数を表し、 R^{34} 及び R^{35} は、それぞれ独立に、炭素原子数が1～20のヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～20の置換ヒドロカルビル基を表す。]

[化33]



[式中、 f は0～10の整数を表し、 R^{36} は、炭素原子数が1～20のヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～20の置換ヒドロカルビル基を表す。]

[0111] 式(IIIa-2)及び式(IIIa-3)の R^{34} 、 R^{35} 及び R^{36} は、それぞれ独立に、炭素原子数が1～20のヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～20の置換ヒドロカルビル基を表す。 R^{34} 、 R^{35} 及び R^{36} のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、 n -プロピル基、イソプロピル基、 n -ブチル基、 sec -ブチル基、 $tert$ -ブチル基などのアルキル基；フェニル基、メチルフェニル基、エチルフェニル基、ナフチル基などのアリール基；ベンジル基などのアラルキル基を挙げることができる。

[0112] R^{34} 、 R^{35} 及び R^{36} の置換ヒドロカルビル基としては、窒素原子を有する基、酸素原子を有する基及びケイ素原子を有する基からなる基群から選ばれる少なくとも1種の基を置換基として有する置換ヒドロカルビル基を挙げることができる。窒素原子を有する基を置換基として有する基としては、ジメチルアミノエチル基、ジエチルアミノエチル基などのジアルキルアミノアルキル基を挙げることができ、酸素原子を有する基を置換基として有する基とし

ては、メトキシメチル基、メトキシエチル基、エトキシメチル基、エトキシエチル基などのアルコキシアルキル基；メトキシフェニル基、エトキシフェニル基などのアルコシアリール基を挙げることができ、ケイ素原子を有する基を置換基として有する基としては、トリメチルシリルメチル基、*t*-ブチルジメチルシリロキシメチル基、トリメトキシシリルプロピル基などを挙げることができる。

[0113] 式 (I I I a-2) の R^{34} 及び R^{35} としては、好ましくはヒドロカルビル基であり、より好ましくはアルキル基であり、更に好ましくはメチル基である。

[0114] 式 (I I I a-3) の R^{36} としては、好ましくはヒドロカルビル基であり、より好ましくはアルキル基、アリール基であり、更に好ましくはメチル基、フェニル基である。

[0115] 式 (I I I a-2) 及び式 (I I I a-3) の *e* 及び *f* は、それぞれ 0～10 の整数を表す。低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く高める観点から、好ましくは 2 以上であり、製造時の経済性を高める観点から、好ましくは 7 以下である。

[0116] 式 (I I I a-2) で表される化合物としては、1, 3-ジメチル-2-イミダゾリジノン、1, 3-ジエチル-2-イミダゾリジノン、1, 3-ジ(*n*-プロピル)-2-イミダゾリジノン、1, 3-ジ(*t*-ブチル)-2-イミダゾリジノン、1, 3-ジフェニル-2-イミダゾリジノンなどの 1, 3-ヒドロカルビル置換-2-イミダゾリジノンを挙げることができる。好ましくは、1, 3-置換-2-イミダゾリジノンであり、より好ましくは、1, 3-ヒドロカルビル置換-2-イミダゾリジノンであり、更に好ましくは、1, 3-ジアルキル-2-イミダゾリジノンである。1, 3-ジアルキル-2-イミダゾリジノンとしては、好ましくは、1, 3-ジメチル-2-イミダゾリジノン、1, 3-ジエチル-2-イミダゾリジノン、1, 3-ジ(*n*-プロピル)-2-イミダゾリジノンであり、より好ましくは、1, 3-ジメチル-2-イミダゾリジノンである。

[0117] 式 (I I I a-3) で表される化合物としては、N-メチル- β -プロピオラクタム、N-(*t*-ブチル)- β -プロピオラクタム、N-フェニル- β -プロピオラクタムなどの β -プロピオラクタム化合物；

1-メチル-2-ピロリドン、1-(*t*-ブチル)-2-ピロリドン、1-フェニル-2-ピロリドン、1-(*p*-メチルフェニル)-2-ピロリドン、1-(*p*-メトキシフェニル)-2-ピロリドン、1-ベンジル-2-ピロリドン、1-ナフチル-2-ピロリドン、1-フェニル-5-メチル-2-ピロリドン、1-(*t*-ブチル)-5-メチル-2-ピロリドン、1-(*t*-ブチル)-1,3-ジメチル-2-ピロリドンなどの2-ピロリドン化合物；

1-(*t*-ブチル)-2-ピペリドン、1-フェニル-2-ピペリドン、1-(*p*-メチルフェニル)-2-ピペリドン、1-(*p*-メトキシフェニル)-2-ピペリドン、1-ナフチル-2-ピペリドンなどの2-ピペリドン化合物；

N-メチル- ε -カプロラクタム、N-エチル- ε -カプロラクタム、N-(*n*-プロピル)- ε -カプロラクタム、N-フェニル- ε -カプロラクタム、N-(*p*-メトキシフェニル)- ε -カプロラクタム、N-ベンジル- ε -カプロラクタムなどの ε -カプロラクタム化合物；

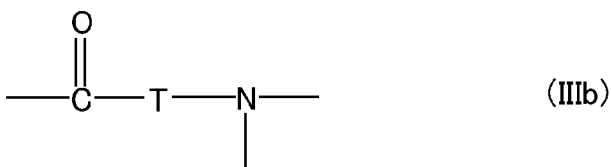
N-フェニル- ω -ラウリロラクタムなどの ω -ラウリロラクタム化合物を挙げることができる。

[0118] 式 (I I I a-3) で表される化合物としては、好ましくは、2-ピロリドン化合物、 ε -カプロラクタム化合物であり、より好ましくは、1-ヒドロカルビル置換-2-ピロリドン、N-ヒドロカルビル置換- ε -カプロラクタムであり、更に好ましくは、1-アルキル置換-2-ピロリドン、1-アリール置換-2-ピロリドン、N-アルキル置換- ε -カプロラクタム、N-アリール置換- ε -カプロラクタムであり、特に好ましくは、1-フェニル-2-ピロリドン、N-メチル- ε -カプロラクタムである。

[0119] 式 (I I I) で表される基を有する化合物としては、式 (I I I) の p が 1

であり、 A^2 がアミノ基である下式（IIIb）で表される基を有する化合物を挙げることができる。

[化34]

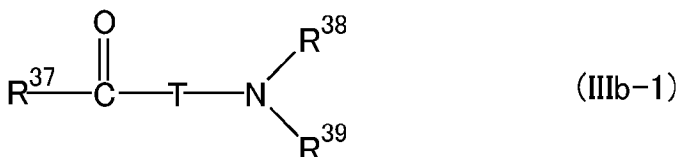


[式中、Tは、炭素原子数が1～20のヒドロカルビレン基又は炭素原子数が1～20の置換ヒドロカルビレン基を表す。]

式（IIIb）で表される基を有する化合物としては、ベンズアルデヒド化合物、アセトフェノン化合物、ベンゾフェノン化合物を挙げることができる。

[0120] 式（IIIb）で表される基を有する化合物としては、下式（IIIb-1）で表される化合物を挙げることができる。

[化35]



[式中、 R^{37} は、水素原子、炭素原子数が1～10のヒドロカルビル基、炭素原子数が1～10の置換ヒドロカルビル基、又は、窒素原子及び／若しくは酸素原子をヘテロ原子として有するヘテロ環基を表し、 R^{38} 及び R^{39} は、それぞれ独立に、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも1種の原子を有していてもよい炭素原子数が1～10の基を表し、 R^{38} 及び R^{39} は結合して窒素原子と共に環構造を形成していてもよく、 R^{38} 及び R^{39} は窒素に二重結合で結合する同一の基であってもよく、Tは、炭素原子数が1～20のヒドロカルビレン基又は炭素原子数が1～20の置換ヒドロカルビレン基を表す。]

[0121] R^{37} のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、イソプロピル基、*n*-ブチル基、*sec*-ブチル基、*t*-ブチル基などのア

ルキル基；フェニル基、メチルフェニル基、エチルフェニル基、ナフチル基などのアリール基；ベンジル基などのアラルキル基を挙げることができる。

[0122] R^{37} の置換ヒドロカルビル基としては、窒素原子を有する基及び酸素原子を有する基からなる基群から選ばれる少なくとも1種の基を置換基として有する置換ヒドロカルビル基を挙げることができる。窒素原子を有する基を置換基として有する基としては、ジメチルアミノエチル基、ジエチルアミノエチル基などのジアルキルアミノアルキル基を挙げることができ、酸素原子を有する基を置換基として有する基としては、メトキシメチル基、メトキシエチル基、エトキシメチル基、エトキシエチル基などのアルコキシアルキル基を挙げることができる。

[0123] R^{37} の窒素原子及び／又は酸素原子をヘテロ原子として有するヘテロ環基とは、窒素原子及び／又は酸素原子を環内に含む複素環式化合物残基を表し、該基としては、2-ピリジル基、3-ピリジル基、4-ピリジル基、2-フリル基などを挙げることができる。

[0124] R^{37} としては、好ましくは、水素原子、炭素原子数が1～10のヒドロカルビル基、炭素原子数が1～10の置換ヒドロカルビル基である。炭素原子数が1～10のヒドロカルビル基としては、好ましくは、炭素原子数が1～4のアルキル基及びフェニル基であり、特に好ましくは、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、*n*-ブチル基、フェニル基である。また、炭素原子数が1～10の置換ヒドロカルビル基としては、好ましくは、窒素原子を有する基を置換基として有するアリール基であり、より好ましくは、ジアルキルアミノフェニル基、4-モルホリノフェニル基である。

[0125] 式(IIIb-1)の R^{38} 及び R^{39} としては、炭素原子数が1～10のヒドロカルビル基、炭素原子数が1～10の置換ヒドロカルビル基などを挙げることができる。

[0126] R^{38} 及び R^{39} のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、イソプロピル基、*n*-ブチル基、*sec*-ブチル基、*t*-ブチル基などのアルキル基；フェニル基、メチルフェニル基、エチルフェニル基、ナ

フチル基などのアリール基；ベンジル基などのアラルキル基を挙げることができる。

- [0127] R^{38} 及び R^{39} の置換ヒドロカルビル基としては、窒素原子を有する基及び酸素原子を有する基からなる基群から選ばれる少なくとも1種の基を置換基として有する置換ヒドロカルビル基を挙げることができる。窒素原子を有する基を置換基として有する基としては、ジメチルアミノエチル基、ジエチルアミノエチル基などのジアルキルアミノアルキル基を挙げることができ、酸素原子を有する基を置換基として有する基としては、メトキシメチル基、メトキシエチル基、エトキシメチル基、エトキシエチル基などのアルコキシアルキル基を挙げることができる。
- [0128] R^{38} 及び R^{39} が結合した基としては、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも1種の原子を有していてもよい炭素原子数が2～20の2価の基が挙げられる。例えば、トリメチレン基、テトラメチレン基、ペンタメチレン基、ヘキサメチレン基などのアルキレン基；オキシジエチレン基、オキシジプロピレン基などのオキシジアルキレン基； $-CH_2CH_2-NH-CH_2-$ で表される基、 $-CH_2CH_2-N=CH-$ で表される基などの含窒素基などを挙げることができる。
- [0129] R^{38} 及び R^{39} の窒素に二重結合で結合する同一の基としては、窒素原子及び酸素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも1種の原子を有していてもよい炭素原子数が2～12の2価の基が挙げられる。例えば、エチリデン基、1-メチルプロピリデン基、1,3-ジメチルブチリデン基、1-メチルエチリデン基、4-N,N-ジメチルアミノベンジリデン基などを挙げることができる。
- [0130] R^{38} 及び R^{39} としては、好ましくは、ヒドロカルビル基であり、より好ましくは、アルキル基であり、更に好ましくは、炭素原子数が1～4のアルキル基であり、特に好ましくは、メチル基、エチル基、n-プロピル基、n-ブチル基である。
- [0131] Tのヒドロカルビレン基としては、メチレン基、エチレン基、トリメチレン

基、テトラメチレン基、ペンタメチレン基、ヘキサメチレン基などのアルキレン基；フェニレン基、メチルフェニレン基、エチルフェニルレン基、ナフチレン基などのアリレン基を挙げることができる。

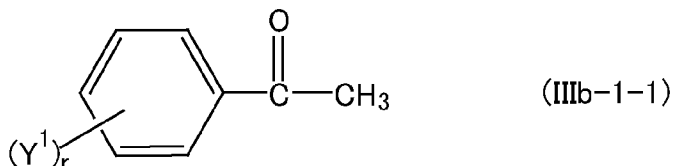
[0132] Tの置換ヒドロカルビレン基としては、窒素原子を有する基及び酸素原子を有する基からなる基群から選ばれる少なくとも1種の基を置換基として有する置換ヒドロカルビレン基を挙げることができる。窒素原子を有する基を置換基として有する基としては、ジメチルアミノエチレン基、ジエチルアミノエチレン基などのジアルキルアミノアルキレン基；ジメチルアミノフェニレン基、ジエチルアミノフェニレン基などのジアルキルアミノアリレン基を挙げることができ、酸素原子を有する基を置換基として有する基としては、メトキシメチレン基、メトキシエチレン基、エトキシメチレン基、エトキシエチレン基などのアルコキシアルキレン基を挙げることができる。

[0133] Tとしては、好ましくは、ヒドロカルビレン基であり、より好ましくは、アリレン基であり、更に好ましくは、フェニレン基である。

[0134] 式(111b-1)で表される化合物としては、4-ジメチルアミノベンズアルデヒド、4-ジエチルアミノベンズアルデヒド、3,5-ビス(ジヘキシルアミノ)-ベンズアルデヒドなどのジアルキルアミノ置換ベンズアルデヒド化合物；4-ジメチルアミノアセトフェノン、4-ジエチルアミノアセトフェノンなどのジアルキルアミノ置換アセトフェノン化合物；4-モルホリノアセトフェノン、4'-イミダゾール-1-イルアセトフェノン、4-ピラゾリルアセトフェノンなどのヘテロ環基置換アセトフェノン化合物；4,4'-ビス(ジメチルアミノ)-ベンゾフェノン、4,4'-ビス(ジエチルアミノ)-ベンゾフェノン、4-ジメチルアミノベンゾフェノン、4-ジエチルアミノベンゾフェノン、3-ジメチルアミノベンゾフェノン、3-ジエチルアミノベンゾフェノンなどのジアルキルアミノ置換ベンゾフェノン化合物；4-モルホリノベンゾフェノン、4'-(イミダゾール-1-イル)-ベンゾフェノン、4-ピラゾリルベンゾフェノンなどのヘテロ環基置換ベンゾフェノン化合物を挙げることができる。

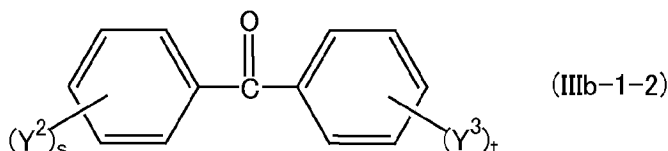
[0135] 式 (IIIb-1) で表される化合物としては、好ましくは、置換アセトフェノン化合物、置換ベンゾフェノン化合物であり、下式 (IIIb-1-1) 又は下式 (IIIb-1-2) で表される化合物を挙げることができる。

[化36]



[式中、 r は 1 又は 2 の整数を表し、 Y^1 はベンゼン環上の置換基であって、窒素原子を有する官能基を表し、 Y^1 が複数ある場合、複数ある Y^1 は、同一でも異なってもよい。]

[化37]



[式中、 s は 1 又は 2 の整数を表し、 t は 0～2 の整数を表し、 Y^2 及び Y^3 は、ベンゼン環上の置換基であって、窒素原子を有する官能基を表し、 Y^2 が複数ある場合、複数ある Y^2 は、同一でも異なってもよく、 Y^3 が複数ある場合、複数ある Y^3 は、同一でも異なってもよい。]

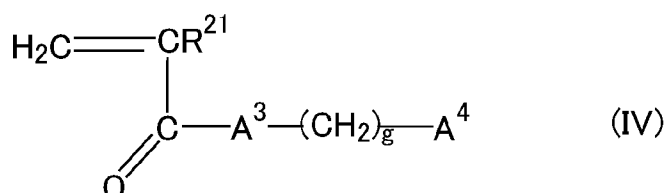
[0136] 式 (IIIb-1-1) 及び式 (IIIb-1-2) の Y^1 、 Y^2 及び Y^3 は、窒素原子を有する官能基を表し、アミノ基、イソシアノ基、シアノ基、ピリジル基、ピペリジル基、ピラジニル基、ピリミジニル基、ピロリル基、イミダゾリル基、ピラゾリル基、モルホリノ基などを挙げることができる。好ましくは、ジアルキルアミノ基、イミダゾリル基、モルホリノ基である。また、ジアルキルアミノ基のアルキル基としては、炭素原子数 1～10 のアルキル基が好ましい。

[0137] 式 (IIIb-1) で表される化合物としては、より好ましくは、ヘテロ環基置換アセトフェノン化合物、ジアルキルアミノ置換ベンゾフェノン化合物、ヘテロ環基置換ベンゾフェノン化合物であり、特に好ましくは、4'-イ

ミダゾールー１－イルーアセトフェノン、４－モルホリノアセトフェノン、４－ジメチルアミノベンゾフェノン、４－ジエチルアミノベンゾフェノン、４，４’－ビス（ジメチルアミノ）－ベンゾフェノン、４，４’－ビス（ジエチルアミノ）－ベンゾフェノン、４－モルホリノベンゾフェノンである。

[0138] 以下、下式（Ⅳ）で表される化合物（変性剤３）について説明する。

[化38]



[式中、 g は、１～１０の整数を表し、 R^{21} は、水素原子、炭素原子数が１～６のヒドロカルビル基又は炭素原子数が１～６の置換ヒドロカルビル基を表し、 A^3 は、酸素原子又は $-\text{NR}^{22}-$ 基（ R^{22} は、水素原子又は炭素原子数が１～１０のヒドロカルビル基を表す。）を表し、 A^4 は、窒素原子及び／又は酸素原子を有する官能基を表す。]

[0139] g は、１～１０の整数を表す。低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く高める観点から、好ましくは２以上であり、製造時の経済性を高める観点から、より好ましくは４以下である。特に好ましくは３である。

[0140] 式（Ⅳ）の R^{21} は、水素原子、炭素原子数が１～６のヒドロカルビル基又は炭素原子数が１～６の置換ヒドロカルビル基を表す。

[0141] R^{21} のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、 n －プロピル基、イソプロピル基、 n －ブチル基、 sec －ブチル基、 t －ブチル基などのアルキル基を挙げることができる。

[0142] R^{21} の置換ヒドロカルビル基としては、窒素原子を有する基、酸素原子を有する基及びケイ素原子を有する基からなる基群から選ばれる少なくとも１種の基を置換基として有する置換ヒドロカルビル基を挙げることができる。窒素原子を有する基を置換基として有する基としては、ジメチルアミノエチル

基、ジエチルアミノエチル基などのジアルキルアミノアルキル基を挙げることができ、酸素原子を有する基を置換基として有する基としては、メトキシメチル基、メトキシエチル基、エトキシメチル基、エトキシエチル基などのアルコキシアルキル基を挙げることができ、ケイ素原子を有する基を置換基として有する基としては、トリメチルシリルメチル基などのトリアルキルシリルアルキル基；*t*-ブチルジメチルシリロキシメチル基などのトリアルキルシリロキシアルキル基；トリメトキシシリルプロピル基などのトリアルコキシシリルアルキル基などを挙げることができる。

[0143] R^{21} のヒドロカルビル基としては、好ましくは、アルキル基であり、より好ましくは、炭素原子数が1～4のアルキル基であり、更に好ましくは、メチル基、エチル基であり、より更に好ましくは、メチル基である。また、 R^{21} の置換ヒドロカルビル基としては、好ましくは、アルコキシアルキル基であり、より好ましくは、炭素原子数が1～4のアルコキシアルキル基であり、更に好ましくは、メトキシメチル基、エトキシエチル基であり、より更に好ましくは、メトキシメチル基である。

[0144] R^{21} としては、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く高める観点及び経済性から、好ましくは、水素原子、アルキル基、アルコキシアルキル基であり、より好ましくは、水素原子、炭素原子数が1～4のアルキル基、炭素原子数が1～4のアルコキシアルキル基であり、更に好ましくは、水素原子、メチル基、メトキシメチル基であり、より更に好ましくは水素原子、メチル基である。

[0145] 式(IV)の A^3 は、酸素原子又は $-NR^{22}-$ 基を表し、 R^{22} は、水素原子又は炭素原子数が1～10のヒドロカルビル基を表す。

[0146] R^{22} のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、イソプロピル基、*n*-ブチル基、*sec*-ブチル基、*t*-ブチル基などのアルキル基；フェニル基、メチルフェニル基、エチルフェニル基、ナフチル基などのアリール基；ベンジル基などのアラルキル基を挙げることができる。

[0147] R^{22} のヒドロカルビル基としては、好ましくは、アルキル基であり、より好

ましくは、炭素原子数が1～4のアルキル基であり、更に好ましくは、メチル基、エチル基である。

[0148] R^{22} としては、好ましくは、水素原子、アルキル基であり、より好ましくは、水素原子、炭素原子数が1～4のアルキル基であり、更に好ましくは、水素原子、メチル基、エチル基であり、より更に好ましくは、水素原子、メチル基である。

[0149] 式(IV)の A^4 は、窒素原子及び／又は酸素原子を有する官能基を表す。窒素原子を有する官能基としては、アミノ基、イソシアノ基、シアノ基、ピリジル基、ピペリジル基、ピペラジニル基、モルホリノ基などを挙げることができる。

[0150] 酸素原子を有する官能基としては、メトキシ基、エトキシ基、*n*-プロポキシ基、イソプロポキシ基、*n*-ブトキシ基、*sec*-ブトキシ基、*t*-ブトキシ基などのアルコキシ基；メトキシメチル基、メトキシエチル基、エトキシメチル基、エトキシエチル基などのアルコキシアルキル基；メトキシフェニル基、エトキシフェニル基などのアルコキシアリール基；エポキシ基、テトラヒドロフラン基などのアルキレンオキシド基を挙げることができる。また、トリメチルシリロキシ基、トリエチルシリロキシ基、*t*-ブチルジメチルシリロキシ基などのトリアルキルシリロキシ基を挙げることができる。また、水酸基を挙げることができる。

[0151] A^4 としては、下式(IVa)で表される基又は水酸基が好ましく、下式(IVa)で表される基がより好ましい。

[化39]



[式中、 R^{23} 及び R^{24} は、それぞれ独立に、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも1種の原子を有していてもよい炭素原子数が1～6の基を表し、 R^{23} 及び R^{24} は結合して窒素原子と共に環

構造を形成していてもよく、 R^{23} 及び R^{24} は窒素に二重結合で結合する同一の基であってもよい。]

[0152] 式 (I V a) の R^{23} 及び R^{24} としては、炭素原子数が1～6のヒドロカルビル基、炭素原子数が1～6の置換ヒドロカルビル基、置換シリル基などを挙げることができる。

[0153] R^{23} 及び R^{24} のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、イソプロピル基、*n*-ブチル基、*sec*-ブチル基、*tert*-ブチル基、*n*-ペンチル基、ネオペンチル基、イソペンチル基、*n*-ヘキシル基などのアルキル基；シクロヘキシル基などのシクロアルキル基；フェニル基などを挙げることができる。

[0154] R^{23} 及び R^{24} の置換ヒドロカルビル基としては、窒素原子を有する基、酸素原子を有する基及びケイ素原子を有する基からなる基群から選ばれる少なくとも1種の基を置換基として有する置換ヒドロカルビル基を挙げることができる。窒素原子を有する基を置換基として有する基としては、ジメチルアミノエチル基、ジエチルアミノエチル基などのジアルキルアミノアルキル基を挙げることができ、酸素原子を有する基を置換基として有する基としては、メトキシメチル基、メトキシエチル基、エトキシメチル基、エトキシエチル基などのアルコキシアルキル基；エポキシ基、テトラヒドロフラン基などのアルキレンオキシド基；グリシジル基、テトラヒドロフルフリル基などのアルキレンオキシドアルキル基を挙げることができ、ケイ素原子を有する基を置換基として有する基としては、トリメチルシリルメチル基などのトリアルキルシリルアルキル基などを挙げることができる。

なお、本明細書において、アルキレンオキシド基は、環状エーテル化合物の環から水素原子を除いた1価の基を表す。また、アルキレンオキシドアルキル基は、アルキル基の1つ以上の水素原子がアルキレンオキシド基で置換されている基を表す。

[0155] R^{23} 及び R^{24} の置換シリル基としては、トリメチルシリル基、トリエチルシリル基、*t*-ブチルジメチルシリル基などのトリアルキルシリル基；トリメ

トキシシリル基などのトリアルコキシシリル基などを挙げることができる。

[0156] R^{23} 及び R^{24} が結合した基としては、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも 1 種の原子を有していてもよい炭素原子数が 2 ～ 12 の 2 価の基が挙げられる。例えば、トリメチレン基、テトラメチレン基、ペンタメチレン基、ヘキサメチレン基などのアルキレン基；オキシジエチレン基、オキシジプロピレン基などのオキシジアルキレン基； $-CH_2CH_2-NH-CH_2-$ で表される基、 $-CH_2CH_2-N=CH-$ で表される基などの含窒素基などを挙げることができる。

[0157] R^{23} 及び R^{24} が結合した基としては、含窒素基が好ましく、 $-CH_2CH_2-NH-CH_2-$ で表される基、 $-CH_2CH_2-N=CH-$ で表される基がより好ましい。

[0158] R^{23} 及び R^{24} の窒素に二重結合で結合する同一の基としては、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも 1 種の原子を有していてもよい炭素原子数が 2 ～ 12 の 2 価の基が挙げられる。例えば、エチリデン基、1-メチルプロピリデン基、1,3-ジメチルブチリデン基、1-メチルエチリデン基、4-N,N-ジメチルアミノベンジリデン基などを挙げることができる。

[0159] R^{23} 及び R^{24} のヒドロカルビル基としては、好ましくは、アルキル基であり、より好ましくは、炭素原子数が 1 ～ 4 のアルキル基であり、更に好ましくは、メチル基、エチル基、 n -プロピル基、 n -ブチル基であり、より更に好ましくは、メチル基、エチル基である。 R^{23} 及び R^{24} の置換ヒドロカルビル基としては、好ましくは、アルコキシアルキル基、アルキレンオキシド基、アルキレンオキシドアルキル基である。 R^{23} 及び R^{24} の置換シリル基としては、好ましくは、トリアルキルシリル基、トリアルコキシシリル基であり、より好ましくは、トリアルキルシリル基であり、更に好ましくは、トリメチルシリル基、トリエチルシリル基である。

[0160] R^{23} 及び R^{24} としては、好ましくは、 R^{23} 及び R^{24} が結合した含窒素基、アルキル基、アルコキシアルキル基、アルキレンオキシド基、アルキレンオキ

シドアルキル基、置換シリル基であり、より好ましくは、アルキル基、アルキレンオキシド基、アルキレンオキシドアルキル基、トリアルキルシリル基である。

[0161] 式 (I V a) で表される基としては、非環状アミノ基、環状アミノ基を挙げることができる。

[0162] 該非環状アミノ基としては、ジメチルアミノ基、ジエチルアミノ基、ジ (*n*-プロピル) アミノ基、ジ (*i*ソプロピル) アミノ基、ジ (*n*-ブチル) アミノ基、ジ (*sec*-ブチル) アミノ基、ジ (*tert*-ブチル) アミノ基、ジ (ネオペンチル) アミノ基、エチルメチルアミノ基などのジアルキルアミノ基；ジ (メトキシメチル) アミノ基、ジ (メトキシエチル) アミノ基、ジ (エトキシメチル) アミノ基、ジ (エトキシエチル) アミノ基などのジ (アルコキシアルキル) アミノ基；ジ (トリメチルシリル) アミノ基、ジ (*t*-ブチルジメチルシリル) アミノ基などのジ (トリアルキルシリル) アミノ基などを挙げることができる。また、ジ (エポキシ) アミノ基、ジ (テトラヒドロフラニル) アミノ基などのジ (アルキレンオキシド) アミノ基；ジ (グリシジル) アミノ基、ジ (テトラヒドロフルフリル) アミノ基などのジ (アルキレンオキシドアルキル) アミノ基を挙げることができる。更には、エチリデンアミノ基、1-メチルピロリデンアミノ基、1, 3-ジメチルピロリデンアミノ基、1-メチルエチリデンアミノ基、4-N, N-ジメチルアミノベンジリデンアミノ基なども挙げることができる。

なお、本明細書において、ジ (アルキレンオキシド) アミノ基は、窒素原子に結合している2つの水素原子が2つのアルキレンオキシド基に置換されたアミノ基を表し、ジ (アルキレンオキシドアルキル) アミノ基は、窒素原子に結合している2つの水素原子が2つのアルキレンオキシドアルキル基に置換されたアミノ基を表す。

[0163] 該環状アミノ基としては、1-ピロリジニル基、1-ピペリジノ基、1-ヘキサメチレンイミノ基、1-ヘプタメチレンイミノ基、1-オクタメチレンイミノ基、1-デカメチレンイミノ基、1-ドデカメチレンイミノ基などの

1-ポリメチレンイミノ基を挙げることができる。また、環状アミノ基としては、1-イミダゾリル基、4,5-ジヒドロ-1-イミダゾリル基、1-イミダゾリジニル基、1-ピペラジニル基、モルホリノ基なども挙げることができる。

[0164] 式(IVa)で表される基としては、低燃費性、ウェットグリップ性能、耐摩耗性、化合物の長期安定性及び入手容易性から、好ましくは、非環状アミノ基であり、より好ましくは、ジアルキルアミノ基、ジ(アルキレンオキシド)アミノ基、ジ(アルキレンオキシドアルキル)アミノ基、ジ(トリアルキルシリル)アミノ基である。

[0165] 式(IV)で表される化合物としては、 A^3 が二級アミノ基である化合物として、アクリルアミド化合物、メタクリルアミド化合物などを挙げることができる。

[0166] A^4 が窒素原子含有の基であるアクリルアミド化合物としては、

N-(2-ジメチルアミノエチル)アクリルアミド、
N-(2-ジエチルアミノエチル)アクリルアミド、
N-(3-ジメチルアミノプロピル)アクリルアミド、
N-(3-ジエチルアミノプロピル)アクリルアミド、
N-(4-ジメチルアミノブチル)アクリルアミド、
N-(4-ジエチルアミノブチル)アクリルアミド、
N-(3-モルホリノプロピル)アクリルアミド、
N-(3-シアノプロピル)アクリルアミドなどが挙げられる。

[0167] A^4 が窒素原子含有の基であるメタクリルアミド化合物としては、

N-(2-ジメチルアミノエチル)メタクリルアミド、
N-(2-ジエチルアミノエチル)メタクリルアミド、
N-(3-ジメチルアミノプロピル)メタクリルアミド、
N-(3-ジエチルアミノプロピル)メタクリルアミド、
N-(4-ジメチルアミノブチル)メタクリルアミド、
N-(4-ジエチルアミノブチル)メタクリルアミド、

N－（３－モルホリノプロピル）メタクリルアミド、
N－（３－シアノプロピル）メタクリルアミドなどが挙げられる。

[0168] A⁴が酸素原子含有の基であるアクリルアミド化合物としては、

N－（３－メトキシプロピル）アクリルアミド、
N－（３－エトキシプロピル）アクリルアミド、
N－（プロポキシメチル）アクリルアミド、
N－（ブトキシメチル）アクリルアミド、
N－グリシジルアクリルアミド、
N－テトラヒドロフルフリルアクリルアミドなどが挙げられる。

[0169] A⁴が酸素原子含有の基であるメタクリルアミド化合物としては、

N－（３－メトキシプロピル）メタクリルアミド、
N－（３－エトキシプロピル）メタクリルアミド、
N－（プロポキシメチル）メタクリルアミド、
N－（ブトキシメチル）メタクリルアミド、
N－グリシジルメタクリルアミド、
N－テトラヒドロフルフリルメタクリルアミドなどが挙げられる。

[0170] A⁴が窒素原子及び酸素原子含有の基であるアクリルアミド化合物としては、

N－（３－ジ（グリシジル）アミノプロピル）アクリルアミド、
N－（３－ジ（テトラヒドロフルフリル）アミノプロピル）アクリルアミドなどが挙げられる。

[0171] A⁴が窒素原子及び酸素原子含有の基であるメタクリルアミド化合物としては、

、
N－（３－ジ（グリシジル）アミノプロピル）メタクリルアミド、
N－（３－ジ（テトラヒドロフルフリル）アミノプロピル）メタクリルアミドなどが挙げられる。

[0172] また、式（ⅠⅤ）で表される化合物としては、A³が酸素原子である化合物として、アクリレート化合物、メタクリレート化合物などを挙げることができる。

[0173] A⁴が窒素原子含有の基であるアクリレート化合物としては、

2-ジメチルアミノエチルアクリレート、
2-ジエチルアミノエチルアクリレート、
3-ジメチルアミノプロピルアクリレート、
3-ジエチルアミノプロピルアクリレート、
4-ジメチルアミノブチルアクリレート、
4-ジエチルアミノブチルアクリレートなどが挙げられる。

[0174] A⁴が窒素原子含有の基であるメタクリレート化合物としては、

2-ジメチルアミノエチルメタクリレート、
2-ジエチルアミノエチルメタクリレート、
3-ジメチルアミノプロピルメタクリレート、
3-ジエチルアミノプロピルメタクリレート、
4-ジメチルアミノブチルメタクリレート、
4-ジエチルアミノブチルメタクリレートなどが挙げられる。

[0175] A⁴が酸素原子含有の基であるアクリレート化合物としては、

2-エトキシエチルアクリレート、
2-プロポキシエチルアクリレート、
2-ブトキシエチルアクリレート、
3-メトキシプロピルアクリレート、
3-エトキシプロピルアクリレート、
グリシジルアクリレート、
テトラヒドロフルフリルアクリレートなどが挙げられる。

[0176] A⁴が酸素原子含有の基であるメタクリレート化合物としては、

2-エトキシエチルメタクリレート、
2-プロポキシエチルメタクリレート、
2-ブトキシエチルメタクリレート、
3-メトキシプロピルメタクリレート、
3-エトキシプロピルメタクリレート、

グリシジルメタクリレート、

テトラヒドロフルフリルメタクリレートなどが挙げられる。

[0177] A^4 が窒素原子及び酸素原子含有の基であるアクリレート化合物としては、

3-ジ（グリシジル）アミノプロピルアクリレート、

3-ジ（テトラヒドロフルフリル）アミノプロピルアクリレートなどが挙げられる。

A^4 が窒素原子及び酸素原子含有の基であるメタクリレート化合物としては、

3-ジ（グリシジル）アミノプロピルメタクリレート、

3-ジ（テトラヒドロフルフリル）アミノプロピルメタクリレートなどが挙げられる。

[0178] 式（I V）で表される化合物としては、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く高める観点から、

好ましくは、 A^4 が式（I V a）で表される基である化合物であり、

より好ましくは、 A^3 がアミノ基であり、 A^4 が式（I V a）で表される基である化合物であり、

更に好ましくは、 A^3 が二級アミノ基（ $-NH-$ ）であり、 A^4 が式（I V a）で表される基である化合物である。

[0179] A^3 が二級アミノ基であり、 A^4 が式（I V a）で表される基である化合物としては、

好ましくは、

N-（3-ジアルキルアミノプロピル）アクリルアミド、N-（3-ジアルキルアミノプロピル）メタクリルアミドであり、

より好ましくは、

N-（3-ジメチルアミノプロピル）アクリルアミド、

N-（3-ジエチルアミノプロピル）アクリルアミド、

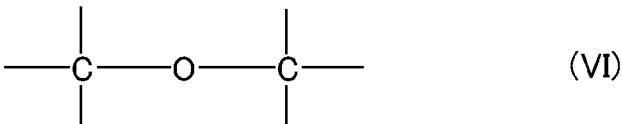
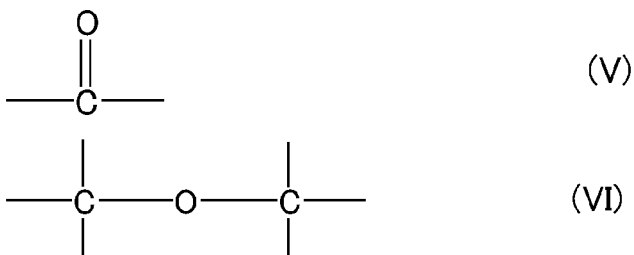
N-（3-ジメチルアミノプロピル）メタクリルアミド、

N-（3-ジエチルアミノプロピル）メタクリルアミドである。

[0180] 以下、下式（V）で表される基及び／又は下式（V I）で表される基を有す

るケイ素化合物（変性剤４）について説明する。

[化40]



[0181] 式（V）で表される基を有する基としては、アミド基、カルボン酸エステル基、メタクリロイル基、アクリロイル基などが挙げられる。また、式（VI）で表される基を有する基としては、オキシジメチレン基、オキシジエチレン基などのオキシジアルキレン基；エポキシ基、テトラヒドロフラン基などのアルキレンオキシド基などが挙げられる。

なお、本明細書において、アルキレンオキシド基は、環状エーテル化合物の環から水素原子を除いた１価の基を表す。

[0182] ケイ素化合物としては、下式（VII）で表される基を有することが好ましい。

[化41]



[式中、 R^{41} 、 R^{42} 及び R^{43} は、それぞれ独立に、炭素原子数が１～４のヒドロカルビル基又は炭素原子数が１～４のヒドロカルビルオキシ基を表し、 R^{41} 、 R^{42} 及び R^{43} の少なくとも１つがヒドロカルビルオキシ基である。]

[0183] 式（VII）において、 R^{41} 、 R^{42} 及び R^{43} のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、イソプロピル基、*n*-ブチル基、*sec*-ブチル基、*tert*-ブチル基などのアルキル基などを挙げることができる。また、 R^{41} 、 R^{42} 及び R^{43} のヒドロカルビルオキシ基としては、メトキシ基、エトキシ基、*n*-プロポキシ基、イソプロポキシ基、*n*-ブト

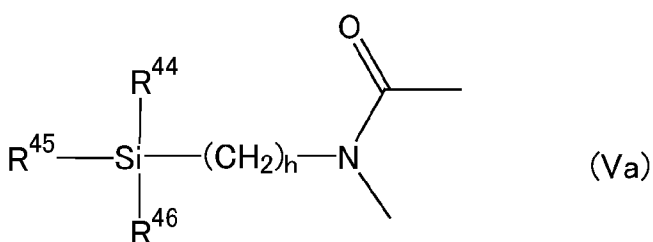
キシ基、*sec*-ブトキシ基、*tert*-ブトキシ基などのアルコキシ基を挙げることができる。

[0184] R^{41} 、 R^{42} 及び R^{43} のヒドロカルビル基としては、好ましくは、アルキル基であり、より好ましくは、炭素原子数が1～3のアルキル基であり、更に好ましくは、メチル基、エチル基である。また、 R^{41} 、 R^{42} 及び R^{43} のヒドロカルビルオキシ基としては、好ましくは、アルコキシ基であり、より好ましくは、炭素原子数が1～3のアルコキシ基であり、更に好ましくは、メトキシ基、エトキシ基である。

[0185] R^{41} 、 R^{42} 及び R^{43} としては、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く高める観点から、好ましくは、 R^{41} 、 R^{42} 及び R^{43} の少なくとも2つがヒドロカルビルオキシ基であり、より好ましくは、 R^{41} 、 R^{42} 及び R^{43} の3つがヒドロカルビルオキシ基である。

[0186] 式(V)で表される基及び式(VIII)で表される基を有するケイ素化合物としては、下式(Va)で表される基を有するケイ素化合物が挙げられる。

[化42]



[式中、 h は1～10の整数を表し、 R^{44} 、 R^{45} 及び R^{46} は、それぞれ独立に、炭素原子数が1～4のヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～4のヒドロカルビルオキシ基を表し、 R^{44} 、 R^{45} 及び R^{46} の少なくとも1つがヒドロカルビルオキシ基である。]

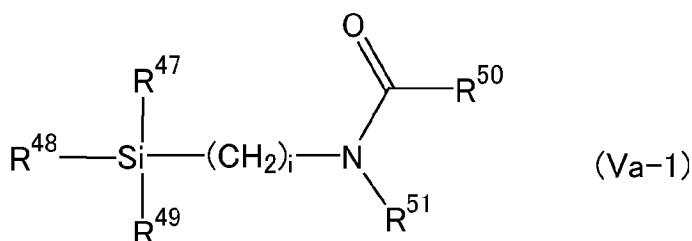
[0187] h は、1～10の整数を表す。低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く高める観点から、好ましくは2以上であり、製造時の経済性を高める観点から、好ましくは4以下である。特に好ましくは3である。

[0188] R^{44} 、 R^{45} 及び R^{46} について、例示される基及び好ましい基は、式(VIII)

I) の R^{41} 、 R^{42} 及び R^{43} について上記した例示される基及び好ましい基と同じである。

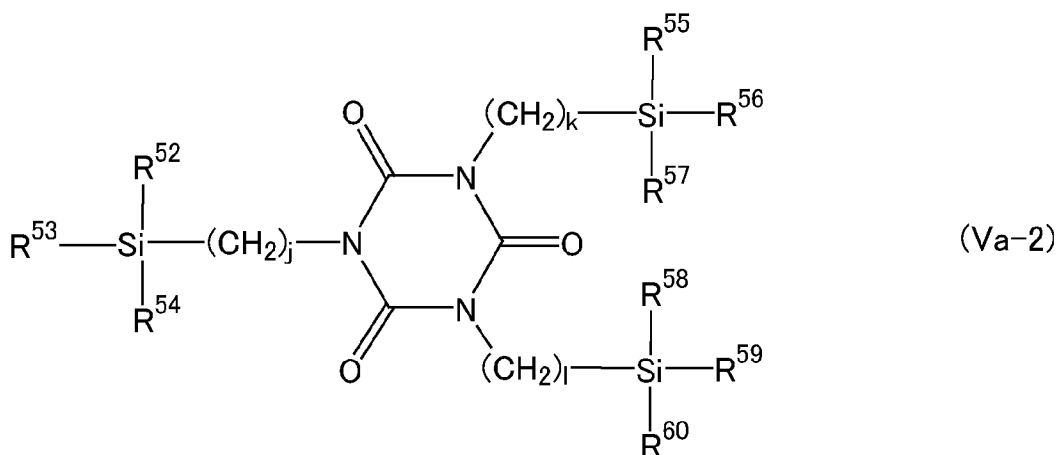
[0189] 式 (Va) で表される基を有するケイ素化合物としては、下式 (Va-1) 又は下式 (Va-2) で表される化合物を挙げることができる。

[化43]



[式中、 i は 1 ～ 10 の整数を表し、 R^{47} 、 R^{48} 及び R^{49} は、それぞれ独立に、炭素原子数が 1 ～ 4 のヒドロカルビル基又は炭素原子数が 1 ～ 4 のヒドロカルビルオキシ基を表し、 R^{47} 、 R^{48} 及び R^{49} の少なくとも 1 つがヒドロカルビルオキシ基であり、 R^{50} 及び R^{51} は、それぞれ独立に、炭素原子数が 1 ～ 10 のヒドロカルビル基、炭素原子数が 1 ～ 10 の置換ヒドロカルビル基、炭素原子数が 1 ～ 10 のヒドロカルビルオキシ基又は炭素原子数が 1 ～ 10 の置換ヒドロカルビルオキシ基を表し、 R^{50} 及び R^{51} は結合していてもよい。]

[0190] [化44]



[式中、 j 、 k 及び l は、それぞれ独立に、1 ～ 10 の整数を表し、 $R^{52} \sim R^{60}$ は、それぞれ独立に、炭素原子数が 1 ～ 4 のヒドロカルビル基又は炭素

原子数が1～4のヒドロカルビルオキシ基を表し、 R^{52} 、 R^{53} 及び R^{54} の少なくとも1つがヒドロカルビルオキシ基であり、 R^{55} 、 R^{56} 及び R^{57} の少なくとも1つがヒドロカルビルオキシ基であり、 R^{58} 、 R^{59} 及び R^{60} の少なくとも1つがヒドロカルビルオキシ基である。]

[0191] 式(Va-1)の*i*は、1～10の整数を表す。低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く高める観点から、好ましくは2以上であり、製造時の経済性を高める観点から、好ましくは4以下である。特に好ましくは3である。

[0192] 式(Va-1)において、 R^{47} 、 R^{48} 及び R^{49} のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、イソプロピル基、*n*-ブチル基、*sec*-ブチル基、*tert*-ブチル基などのアルキル基などを挙げることができる。また、 R^{47} 、 R^{48} 及び R^{49} のヒドロカルビルオキシ基としては、メトキシ基、エトキシ基、*n*-プロポキシ基、イソプロポキシ基、*n*-ブトキシ基、*sec*-ブトキシ基、*t*-ブトキシ基などのアルコキシ基を挙げることができる。

[0193] R^{47} 、 R^{48} 及び R^{49} のヒドロカルビル基としては、好ましくは、アルキル基であり、より好ましくは、炭素原子数が1～3のアルキル基であり、更に好ましくは、メチル基、エチル基である。また、 R^{47} 、 R^{48} 及び R^{49} のヒドロカルビルオキシ基としては、好ましくは、アルコキシ基であり、より好ましくは、炭素原子数が1～3のアルコキシ基であり、更に好ましくは、メトキシ基、エトキシ基である。

[0194] R^{47} 、 R^{48} 及び R^{49} としては、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く高める観点から、好ましくは、 R^{47} 、 R^{48} 及び R^{49} の少なくとも2つがヒドロカルビルオキシ基であり、より好ましくは、 R^{47} 、 R^{48} 及び R^{49} の3つがヒドロカルビルオキシ基である。

[0195] R^{50} 及び R^{51} のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、イソプロピル基、*n*-ブチル基、*sec*-ブチル基、*tert*-ブチル基などのアルキル基を挙げることができる。

- [0196] R^{50} 及び R^{51} の置換ヒドロカルビル基としては、窒素原子を有する基、酸素原子を有する基及びケイ素原子を有する基からなる基群から選ばれる少なくとも1種の基を置換基として有する置換ヒドロカルビル基を挙げることができる。窒素原子を有する基を置換基として有する基としては、ジメチルアミノエチル基、ジエチルアミノエチル基などのジアルキルアミノアルキル基を挙げることができ、酸素原子を有する基を置換基として有する基としては、メトキシメチル基、メトキシエチル基、エトキシメチル基、エトキシエチル基などのアルコキシアルキル基を挙げることができ、ケイ素原子を有する基を置換基として有する基としては、トリメチルシリルメチル基、トリエチルシリルメチル基などのトリアルキルシリルアルキル基などを挙げることができる。
- [0197] R^{50} 及び R^{51} のヒドロカルビルオキシ基としては、メトキシ基、エトキシ基、*n*-プロポキシ基、イソプロポキシ基、*n*-ブトキシ基、*sec*-ブトキシ基、*t*-ブトキシ基などのアルコキシ基を挙げることができる。また、 R^{50} 及び R^{51} の置換ヒドロカルビルオキシ基としては、メトキシメトキシ基、メトキシエトキシ基、エトキシメトキシ基、エトキシエトキシ基などのアルコキシアルコキシ基を挙げることができる。
- [0198] R^{50} 及び R^{51} が結合した基としては、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも1種の原子を有していてもよい炭素原子数が2～12の2価の基が挙げられる。例えば、トリメチレン基、テトラメチレン基、ペンタメチレン基、ヘキサメチレン基などのアルキレン基；オキシジエチレン基、オキシジプロピレン基などのオキシジアルキレン基； $-CH_2CH_2-NH-CH_2-$ で表される基、 $-CH_2CH_2-N=CH-$ で表される基などの含窒素基などを挙げることができる。
- [0199] R^{50} としては、好ましくは、アルキル基であり、より好ましくは、炭素数が1～4のアルキル基であり、更に好ましくは、メチル基及びエチル基である。
- [0200] R^{51} としては、好ましくは、アルキル基であり、より好ましくは、炭素数が

1～4のアルキル基であり、更に好ましくは、メチル基及びエチル基である。

[0201] 式(Va-2)のj、k及びlは、それぞれ独立に、1～10の整数を表す。低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く高める観点から、好ましくは2以上であり、製造時の経済性を高める観点から、好ましくは4以下である。特に好ましくは3である。

[0202] 式(Va-2)において、 $R^{52} \sim R^{60}$ のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、n-プロピル基、イソプロピル基、n-ブチル基、sec-ブチル基、tert-ブチル基などのアルキル基などを挙げることができる。また、 $R^{52} \sim R^{60}$ のヒドロカルビルオキシ基としては、メトキシ基、エトキシ基、n-プロポキシ基、イソプロポキシ基、n-ブトキシ基、sec-ブトキシ基、tert-ブトキシ基などのアルコキシ基を挙げることができる。

[0203] $R^{52} \sim R^{60}$ のヒドロカルビル基としては、好ましくは、アルキル基であり、より好ましくは、炭素原子数が1～3のアルキル基であり、更に好ましくは、メチル基、エチル基である。また、 $R^{52} \sim R^{60}$ のヒドロカルビルオキシ基としては、好ましくは、アルコキシ基であり、より好ましくは、炭素原子数が1～3のアルコキシ基であり、更に好ましくは、メトキシ基、エトキシ基である。

[0204] R^{52} 、 R^{53} 及び R^{54} としては、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く高める観点から、好ましくは、 R^{52} 、 R^{53} 及び R^{54} の少なくとも2つがヒドロカルビルオキシ基であり、より好ましくは、 R^{52} 、 R^{53} 及び R^{54} の3つがヒドロカルビルオキシ基である。 R^{55} 、 R^{56} 及び R^{57} としては、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く高める観点から、好ましくは、 R^{55} 、 R^{56} 及び R^{57} の少なくとも2つがヒドロカルビルオキシ基であり、より好ましくは、 R^{55} 、 R^{56} 及び R^{57} の3つがヒドロカルビルオキシ基である。また、 R^{58} 、 R^{59} 及び R^{60} としては、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く高める観点から、好ましくは、 R^{58} 、 R^{59} 及び R^{60} の少なくとも2つがヒドロカルビルオキシ基であ

り、より好ましくは、 R^{58} 、 R^{59} 及び R^{60} の3つがヒドロカルビルオキシ基である。

[0205] 式(Va-1)で表される化合物としては、

N-メチル-N-(トリメトキシシリルメチル)-アセトアミド、
N-メチル-N-(トリエトキシシリルメチル)-アセトアミド、
N-メチル-N-(2-トリメトキシシリルエチル)-アセトアミド、
N-メチル-N-(2-トリエトキシシリルエチル)-アセトアミド、
N-メチル-N-(3-トリメトキシシリルプロピル)-アセトアミド、
N-メチル-N-(3-トリエトキシシリルプロピル)-アセトアミド
などのN-アルキル-N-トリアルコキシシリルアルキル-アセトアミド；
N-メチル-N-(トリメトキシシリルメチル)-プロピオンアミド、
N-メチル-N-(トリエトキシシリルメチル)-プロピオンアミド、
N-メチル-N-(2-トリメトキシシリルエチル)-プロピオンアミド、
N-メチル-N-(2-トリエトキシシリルエチル)-プロピオンアミド、
N-メチル-N-(3-トリメトキシシリルプロピル)-プロピオンアミド
、
N-メチル-N-(3-トリエトキシシリルプロピル)-プロピオンアミド
などのN-アルキル-N-トリアルコキシシリルアルキル-プロピオンアミドなど、
N-アルキル-N-トリアルコキシシリルアルキル置換カルボン酸アミドを
挙げることができる。

[0206] 式(Va-1)で表される化合物として、好ましくは、

N-アルキル-N-トリアルコキシシリルアルキル置換カルボン酸アミドで
あり、
より好ましくは、
N-アルキル-N-トリアルコキシシリルアルキル-プロピオンアミドであ
り、
更に好ましくは、

N-メチル-N-(3-トリメトキシシリルプロピル)-プロピオンアミド、
N-メチル-N-(3-トリエトキシシリルプロピル)-プロピオンアミドである。

[0207] 式(Va-2)で表される化合物としては、

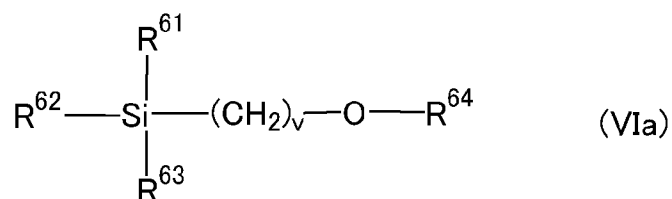
1, 3, 5-トリス(トリメトキシシリルメチル)イソシアヌレート、
1, 3, 5-トリス(トリエトキシシリルメチル)イソシアヌレート、
1, 3, 5-トリス(トリメトキシシリルエチル)イソシアヌレート、
1, 3, 5-トリス(トリエトキシシリルエチル)イソシアヌレート、
1, 3, 5-トリス(3-トリメトキシシリルプロピル)イソシアヌレート、
1, 3, 5-トリス(3-トリエトキシシリルプロピル)イソシアヌレート
などの1, 3, 5-トリス(トリアルコキシシリルアルキル)イソシアヌレートを挙げることができる。

[0208] 式(Va-2)で表される化合物として、好ましくは、

1, 3, 5-トリス(3-トリメトキシシリルプロピル)イソシアヌレート、
1, 3, 5-トリス(3-トリエトキシシリルプロピル)イソシアヌレートである。

[0209] 式(VI)で表される基及び式(VIII)で表される基を有するケイ素化合物としては、下式(VIa)で表されるケイ素化合物が挙げられる。

[化45]



[式中、vは1～10の整数を表し、R⁶¹、R⁶²及びR⁶³は、それぞれ独立に、炭素原子数が1～4のヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～4のヒド

ロカルビルオキシ基を表し、 R^{61} 、 R^{62} 及び R^{63} の少なくとも1つがヒドロカルビルオキシ基であり、 R^{64} は、炭素原子数が1～10のヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～10の置換ヒドロカルビル基を表す。]

[0210] 式(VIa)の v は、1～10の整数を表す。低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く高める観点から、好ましくは2以上であり、製造時の経済性を高める観点から、好ましくは4以下である。特に好ましくは3である。

[0211] 式(VIa)において、 R^{61} 、 R^{62} 及び R^{63} のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、 n -プロピル基、イソプロピル基、 n -ブチル基、 sec -ブチル基、 $tert$ -ブチル基などのアルキル基などを挙げることができる。また、 R^{61} 、 R^{62} 及び R^{63} のヒドロカルビルオキシ基としては、メトキシ基、エトキシ基、 n -プロポキシ基、イソプロポキシ基、 n -ブトキシ基、 sec -ブトキシ基、 t -ブトキシ基などのアルコキシ基を挙げることができる。

[0212] R^{61} 、 R^{62} 及び R^{63} のヒドロカルビル基としては、好ましくは、アルキル基であり、より好ましくは、炭素原子数が1～3のアルキル基であり、更に好ましくは、メチル基、エチル基である。また、 R^{61} 、 R^{62} 及び R^{63} のヒドロカルビルオキシ基としては、好ましくは、アルコキシ基であり、より好ましくは、炭素原子数が1～3のアルコキシ基であり、更に好ましくは、メトキシ基、エトキシ基である。

[0213] R^{61} 、 R^{62} 及び R^{63} としては、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く高める観点から、好ましくは、 R^{61} 、 R^{62} 及び R^{63} の少なくとも2つがヒドロカルビルオキシ基であり、より好ましくは、 R^{61} 、 R^{62} 及び R^{63} の3つがヒドロカルビルオキシ基である。

[0214] R^{64} のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、 n -プロピル基、イソプロピル基、 n -ブチル基、 sec -ブチル基、 $tert$ -ブチル基などのアルキル基などを挙げることができる。

[0215] R^{64} の置換ヒドロカルビル基としては、窒素原子を有する基、酸素原子を有

する基及びケイ素原子を有する基からなる基群から選ばれる少なくとも1種の基を置換基として有する置換ヒドロカルビル基を挙げることができる。窒素原子を有する基を置換基として有する基としては、ジメチルアミノエチル基、ジエチルアミノエチル基などのジアルキルアミノアルキル基を挙げることができ、酸素原子を有する基を置換基として有する基としては、メトキシメチル基、メトキシエチル基、エトキシメチル基、エトキシエチル基などのアルコキシアルキル基；グリシジル基、テトラヒドロフルフリル基などのアルキレンオキシドアルキル基を挙げることができ、ケイ素原子を有する基を置換基として有する基としては、トリメチルシリルメチル基などのトリアルキルシリルアルキル基などを挙げることができる。

なお、本明細書において、アルキレンオキシドアルキル基は、アルキル基の1つ以上の水素原子がアルキレンオキシド基で置換されている基を表す。

[0216] R^{64} としては、好ましくは、アルキレンオキシドアルキル基であり、より好ましくは、グリシジル基、テトラヒドロフルフリル基である。

[0217] 式(VI a)で表される化合物としては、

R^{64} がアルキル基である化合物として、

3-(メトキシ)プロピルトリメトキシシラン、

3-(エトキシ)プロピルトリメトキシシラン、

3-(*n*-プロポキシ)プロピルトリメトキシシラン、

3-(イソプロポキシ)プロピルトリメトキシシラン、

3-(*n*-ブトキシ)プロピルトリメトキシシラン、

3-(*sec*-ブトキシ)プロピルトリメトキシシラン、

3-(*t*-ブトキシ)プロピルトリメトキシシラン

などの3-(アルコキシ)プロピルトリアルコキシシランを挙げることができる。

[0218] R^{64} がアルキレンオキシドアルキル基である化合物として、

2-グリシドキシエチルトリメトキシシラン、

3-グリシドキシプロピルトリメトキシシラン、

2-グリシドキシエチルトリエトキシシラン、
3-グリシドキシプロピルトリエトキシシラン
などのグリシドキシアルキルトリアルコキシシラン；
2-テトラヒドロフルフリロキシエチルトリメトキシシラン、
3-テトラヒドロフルフリロキシプロピルトリメトキシシラン、
2-テトラヒドロフルフリロキシエチルトリエトキシシラン、
3-テトラヒドロフルフリロキシプロピルトリエトキシシラン
などのテトラヒドロフルフリロキシアルキルトリアルコキシシランを挙げることができる。

[0219] R^{64} がアルコキシアルキル基である化合物として、

3-(メトキシメトキシ)プロピルトリメトキシシラン、
3-(メトキシエトキシ)プロピルトリメトキシシラン、
3-(エトキシメトキシ)プロピルトリメトキシシラン、
3-(エトキシエトキシ)プロピルトリメトキシシラン、
3-(メトキシメトキシ)プロピルトリエトキシシラン、
3-(メトキシエトキシ)プロピルトリエトキシシラン、
3-(エトキシメトキシ)プロピルトリエトキシシラン、
3-(エトキシエトキシ)プロピルトリエトキシシラン
などの3-(アルコキシアルコキシ)プロピルトリアルコキシシランを挙げることができる。

[0220] 式(VIa)で表される化合物として、好ましくは、 R^{64} がアルキレンオキシドアルキル基である化合物であり、より好ましくは、

3-グリシドキシプロピルトリメトキシシラン、
3-グリシドキシプロピルトリエトキシシラン、
3-テトラヒドロフルフリロキシプロピルトリメトキシシラン、
3-テトラヒドロフルフリロキシプロピルトリエトキシシランである。

[0221] 式(V)で表される基、式(VI)で表される基及び式(VIII)で表される基を有するケイ素化合物としては、アクリロキシアルキルトリアルコキ

シシラン、メタクリロキシアルキルトリアルコキシシシランを挙げることができる。

[0222] アクリロキシアルキルトリアルコキシシシランとしては、3-アクリロキシプロピルトリメトキシシシラン、3-アクリロキシプロピルトリエトキシシシランなどの3-アクリロキシプロピルトリアルコキシシシランを挙げることができる。

[0223] メタクリロキシアルキルトリアルコキシシシランとしては、3-メタクリロキシプロピルトリメトキシシシラン、3-メタクリロキシプロピルトリエトキシシシランなどの3-メタクリロキシプロピルトリアルコキシシシランを挙げることができる。

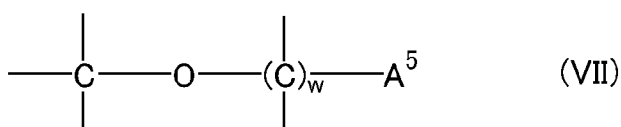
[0224] また、式(V)で表される基、式(VI)で表される基及び式(VIII)で表される基を有するケイ素化合物としては、トリアルコキシシリルアルキル無水コハク酸、トリアルコキシシリルアルキル無水マレイン酸を挙げることができる。

[0225] トリアルコキシシリルアルキル無水コハク酸としては、3-トリメトキシシリルプロピル無水コハク酸、3-トリエトキシシリルプロピル無水コハク酸などの3-トリアルコキシシリルプロピル無水コハク酸を挙げることができる。

[0226] トリアルコキシシリルアルキル無水マレイン酸としては、3-トリメトキシシリルプロピル無水マレイン酸、3-トリエトキシシリルプロピル無水マレイン酸などの3-トリアルコキシシリルプロピル無水マレイン酸を挙げることができる。

[0227] 以下、下式(VI)で表される基を有する化合物(変性剤5)について説明する。

[化46]



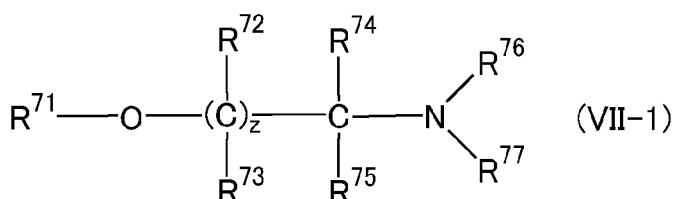
[式中、wは1～11の整数を表し、A⁵は窒素原子を有する官能基を表す。

]

[0228] w は、1～11の整数を表す。低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く高める観点から、好ましくは1以上であり、製造時の経済性を高める観点から、好ましくは4以下である。 A^5 は窒素原子を有する官能基であり、アミノ基、イソシアノ基、シアノ基、ピリジル基、ピペリジル基、ピラジニル基、モルホリノ基などを挙げることができる。

[0229] 式(VII)で表される基を有する化合物としては、下式(VII-1)で表される化合物を挙げることができる。

[化47]



[式中、 z は0～10の整数を表し、 R^{71} は炭素原子数が1～5のヒドロカルビル基を表し、 R^{72} 、 R^{73} 、 R^{74} 及び R^{75} は、それぞれ独立に、水素原子、炭素原子数が1～5のヒドロカルビル基、炭素原子数が1～5の置換ヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～5のヒドロカルビルオキシ基を表し、 R^{72} 及び R^{73} が複数ある場合は、複数ある R^{72} 及び複数ある R^{73} はそれぞれ同じであっても異なってもよく、 R^{76} 及び R^{77} は、それぞれ独立に、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも1種の原子を有していてもよい炭素原子数が1～6の基を表し、 R^{76} 及び R^{77} は結合して窒素原子と共に環構造を形成していてもよく、 R^{76} 及び R^{77} は窒素に二重結合で結合する同一の基であってもよい。]

[0230] 式(VII-1)の z は、0～10の整数を表す。経済性を高める観点から、好ましくは3以下であり、より好ましくは0である。

[0231] 式(VII-1)の R^{71} は炭素原子数が1～5のヒドロカルビル基を表す。 R^{71} のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、 n -プロピル基、イソプロピル基、 n -ブチル基、 sec -ブチル基、 t -ブチル基などのア

ルキル基を挙げることができる。

- [0232] R^{71} のヒドロカルビル基としては、好ましくはアルキル基であり、より好ましくは炭素原子数が1～4のアルキル基であり、更に好ましくは、メチル基、エチル基である。
- [0233] 式(VI-1)の $R^{72} \sim R^{75}$ は、それぞれ独立に、水素原子、炭素原子数が1～5のヒドロカルビル基、炭素原子数が1～5の置換ヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～5のヒドロカルビルオキシ基を表し、 R^{72} 及び R^{73} が複数ある場合は、複数ある R^{72} 及び複数ある R^{73} はそれぞれ同じであっても異なってもよい。
- [0234] $R^{72} \sim R^{75}$ のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、イソプロピル基、*n*-ブチル基、*sec*-ブチル基、*tert*-ブチル基などのアルキル基を挙げることができる。
- [0235] $R^{72} \sim R^{75}$ の置換ヒドロカルビル基としては、窒素原子を有する基及び酸素原子を有する基からなる基群から選ばれる少なくとも1種の基を置換基として有する置換ヒドロカルビル基を挙げることができる。窒素原子を有する基を置換基として有する基としては、ジメチルアミノエチル基、ジエチルアミノエチル基などのジアルキルアミノアルキル基を挙げることができ、酸素原子を有する基を置換基として有する基としては、メトキシメチル基、メトキシエチル基、エトキシメチル基、エトキシエチル基などのアルコキシアルキル基などを挙げることができる。
- [0236] $R^{72} \sim R^{75}$ のヒドロカルビルオキシ基としては、メトキシ基、エトキシ基、*n*-プロポキシ基、イソプロポキシ基、*n*-ブトキシ基、*sec*-ブトキシ基、*tert*-ブトキシ基などのアルコキシ基を挙げることができる。
- [0237] $R^{72} \sim R^{75}$ のヒドロカルビル基としては、好ましくはアルキル基であり、より好ましくは、炭素原子数が1～4のアルキル基であり、更に好ましくは、メチル基、エチル基である。
- [0238] $R^{72} \sim R^{75}$ の置換ヒドロカルビル基としては、好ましくはアルコキシアルキル基であり、より好ましくは炭素原子数が1～4のアルコキシアルキル基で

あり、更に好ましくは、メトキシメチル基、エトキシエチル基である。

[0239] $R^{72} \sim R^{75}$ のヒドロカルビルオキシ基としては、好ましくはアルコキシ基であり、より好ましくは炭素数が 1～3 のアルコキシ基であり、更に好ましくは、メトキシ基、エトキシ基である。

[0240] 低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く高める観点及び経済性から、 R^{74} 及び R^{75} の一方が水素原子であることが好ましい。より好ましくは、 R^{74} 及び R^{75} の一方が水素原子であり、もう一方がアルキル基又はアルコキシ基である。更に好ましくは、 R^{74} 及び R^{75} の一方が水素原子であり、もう一方がアルコキシ基である。特に好ましくは、メトキシ基、エトキシ基である。

[0241] 式 (V I I - 1) の R^{76} 及び R^{77} は、それぞれ独立に、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも 1 種の原子を有していてもよい炭素原子数が 1～6 の基を表し、 R^{76} 及び R^{77} は結合して窒素原子と共に環構造を形成していてもよく、 R^{76} 及び R^{77} は窒素に二重結合で結合する同一の基であってもよい。

[0242] 式 (V I I - 1) の R^{76} 及び R^{77} としては、炭素原子数が 1～6 のヒドロカルビル基、炭素原子数が 1～6 の置換ヒドロカルビル基、置換シリル基などを挙げることができる。

[0243] R^{76} 及び R^{77} のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、イソプロピル基、*n*-ブチル基、*sec*-ブチル基、*tert*-ブチル基、*n*-ペンチル基、ネオペンチル基、イソペンチル基、*n*-ヘキシル基などのアルキル基；シクロヘキシル基などのシクロアルキル基；フェニル基などを挙げることができる。

[0244] R^{76} 及び R^{77} の置換ヒドロカルビル基としては、窒素原子を有する基、酸素原子を有する基及びケイ素原子を有する基からなる基群から選ばれる少なくとも 1 種の基を置換基として有する置換ヒドロカルビル基を挙げることができる。窒素原子を有する基を置換基として有する基としては、ジメチルアミノエチル基、ジエチルアミノエチル基などのジアルキルアミノアルキル基を

挙げることができ、酸素原子を有する基を置換基として有する基としては、メトキシメチル基、メトキシエチル基、エトキシメチル基、エトキシエチル基などのアルコキシアルキル基；エポキシ基、テトラヒドロフラニル基などのアルキレンオキシド基；グリシジル基、テトラヒドロフルフリル基などのアルキレンオキシドアルキル基を挙げることができ、ケイ素原子を有する基を置換基として有する基としては、トリメチルシリルメチル基などのトリアルキルシリルアルキル基などを挙げることができる。

なお、本明細書において、アルキレンオキシド基は、環状エーテル化合物の環から水素原子を除いた1価の基を表す。また、アルキレンオキシドアルキル基は、アルキル基の1つ以上の水素原子がアルキレンオキシド基で置換されている基を表す。

[0245] R^{76} 及び R^{77} の置換シリル基としては、トリメチルシリル基、トリエチルシリル基、 t -ブチルジメチルシリル基などのトリアルキルシリル基；トリメトキシシリル基などのトリアルコキシシリル基などを挙げることができる。

[0246] R^{76} 及び R^{77} が結合した基としては、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも1種の原子を有していてもよい炭素原子数が2～12の2価の基が挙げられる。例えば、トリメチレン基、テトラメチレン基、ペンタメチレン基、ヘキサメチレン基などのアルキレン基；オキシジエチレン基、オキシジプロピレン基などのオキシジアルキレン基； $-CH_2CH_2-NH-CH_2-$ で表される基、 $-CH_2CH_2-N=CH-$ で表される基などの含窒素基などを挙げることができる。

[0247] R^{76} 及び R^{77} が結合した基としては、含窒素基が好ましく、 $-CH_2CH_2-NH-CH_2-$ で表される基、 $-CH_2CH_2-N=CH-$ で表される基がより好ましい。

[0248] R^{76} 及び R^{77} の窒素に二重結合で結合する同一の基としては、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも1種の原子を有していてもよい炭素原子数が2～12の2価の基が挙げられる。例えば、エチリデン基、1-メチルプロピリデン基、1,3-ジメチルブチリデン基

、1-メチルエチリデン基、4-N,N-ジメチルアミノベンジリデン基などを挙げることができる。

[0249] R^{76} 及び R^{77} のヒドロカルビル基としては、好ましくは、アルキル基であり、より好ましくは、炭素原子数が1～4のアルキル基であり、更に好ましくは、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、*n*-ブチル基であり、より更に好ましくは、メチル基、エチル基である。 R^{76} 及び R^{77} の置換ヒドロカルビル基としては、好ましくは、アルコキシアルキル基、アルキレンオキシド基、アルキレンオキシドアルキル基である。 R^{76} 及び R^{77} の置換シリル基としては、好ましくは、トリアルキルシリル基、トリアルコキシシリル基であり、より好ましくは、トリアルキルシリル基であり、更に好ましくは、トリメチルシリル基、トリエチルシリル基である。

[0250] R^{76} 及び R^{77} としては、好ましくは、アルキル基、アルコキシアルキル基、置換シリル基又は R^{76} 及び R^{77} が結合した含窒素基であり、より好ましくは、炭素原子数が1～4のアルキル基であり、更に好ましくは、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、*n*-ブチル基であり、より更に好ましくは、メチル基、エチル基である。

[0251] R^{76} 及び R^{77} が窒素原子に結合したアミノ基としては、非環状アミノ基、環状アミノ基を挙げることができる。

[0252] 該非環状アミノ基としては、ジメチルアミノ基、ジエチルアミノ基、ジ(*n*-プロピル)アミノ基、ジ(イソプロピル)アミノ基、ジ(*n*-ブチル)アミノ基、ジ(*sec*-ブチル)アミノ基、ジ(*tert*-ブチル)アミノ基、ジ(ネオペンチル)アミノ基、エチルメチルアミノ基などのジアルキルアミノ基；ジ(メトキシメチル)アミノ基、ジ(メトキシエチル)アミノ基、ジ(エトキシメチル)アミノ基、ジ(エトキシエチル)アミノ基などのジ(アルコキシアルキル)アミノ基；ジ(トリメチルシリル)アミノ基、ジ(*tert*-ブチルジメチルシリル)アミノ基などのジ(トリアルキルシリル)アミノ基などを挙げることができる。また、ジ(エポキシ)アミノ基、ジ(テトラヒドロフラニル)アミノ基などのジ(アルキレンオキシド)アミノ基；ジ(

グリシジル) アミノ基、ジ (テトラヒドロフルフリル) アミノ基などのジ (アルキレンオキシドアルキル) アミノ基を挙げることができる。更には、エチリデンアミノ基、1-メチルプロピリデンアミノ基、1, 3-ジメチルブチリデンアミノ基、1-メチルエチリデンアミノ基、4-N, N-ジメチルアミノベンジリデンアミノ基なども挙げることができる。

[0253] 該環状アミノ基としては、1-ピロリジニル基、1-ピペリジノ基、1-ヘキサメチレンイミノ基、1-ヘプタメチレンイミノ基、1-オクタメチレンイミノ基、1-デカメチレンイミノ基、1-ドデカメチレンイミノ基などの1-ポリメチレンイミノ基を挙げることができる。また、環状アミノ基としては、1-イミダゾリル基、4, 5-ジヒドロ-1-イミダゾリル基、1-イミダゾリジニル基、1-ピペラジニル基、モルホリノ基なども挙げることができる。

[0254] R^{76} 及び R^{77} が窒素原子に結合したアミノ基としては、低燃費性、ウェットグリップ性能、耐摩耗性、化合物の長期安定性及び入手容易性から、好ましくは、非環状アミノ基であり、より好ましくは、ジアルキルアミノ基であり、更に好ましくは、ジメチルアミノ基、ジエチルアミノ基である。

[0255] 式 (V I I - 1) で表される化合物としては、N, N-ジアルキル置換カルボン酸アミドジアルキルアセタール化合物を挙げることができる。

[0256] N, N-ジアルキル置換カルボン酸アミドジアルキルアセタール化合物としては、

N, N-ジメチルホルムアミドジメチルアセタール、N, N-ジエチルホルムアミドジメチルアセタール、N, N-ジ (n-プロピル) ホルムアミドジメチルアセタール、

N, N-ジメチルホルムアミドジエチルアセタール、N, N-ジエチルホルムアミドジエチルアセタール、N, N-ジ (n-プロピル) ホルムアミドジエチルアセタール、

N, N-ジメチルホルムアミドエチルメチルアセタール、N, N-ジエチルホルムアミドエチルメチルアセタール、N, N-ジ (n-プロピル) ホルム

アミドエチルメチルアセタールなどのN，N－ジアルキルホルムアミドジアルキルアセタール；

[0257] N，N－ジメチルアセトアミドジメチルアセタール、N，N－ジエチルアセトアミドジメチルアセタール、N，N－ジ（n－プロピル）アセトアミドジメチルアセタール、

N，N－ジメチルアセトアミドジエチルアセタール、N，N－ジエチルアセトアミドジエチルアセタール、N，N－ジ（n－プロピル）アセトアミドジエチルアセタール、

N，N－ジメチルアセトアミドエチルメチルアセタール、N，N－ジエチルアセトアミドエチルメチルアセタール、N，N－ジ（n－プロピル）アセトアミドエチルメチルアセタールなどのN，N－ジアルキルアセトアミドジアルキルアセタール；

[0258] N，N－ジメチルプロピオンアミドジメチルアセタール、N，N－ジエチルプロピオンアミドジメチルアセタール、N，N－ジ（n－プロピル）プロピオンアミドジメチルアセタール、

N，N－ジメチルプロピオンアミドジエチルアセタール、N，N－ジエチルプロピオンアミドジエチルアセタール、N，N－ジ（n－プロピル）プロピオンアミドジエチルアセタール、

N，N－ジメチルプロピオンアミドエチルメチルアセタール、N，N－ジエチルプロピオンアミドエチルメチルアセタール、N，N－ジ（n－プロピル）プロピオンアミドエチルメチルアセタールなどのN，N－ジアルキルプロピオンアミドジアルキルアセタールなどが挙げられる。

[0259] これらの中では、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く高める観点から、好ましくは、

N，N－ジアルキルホルムアミドジアルキルアセタールであり、
より好ましくは、

N，N－ジメチルホルムアミドジメチルアセタール、

N，N－ジエチルホルムアミドジメチルアセタール、

N, N-ジメチルホルムアミドジエチルアセタール、
N, N-ジエチルホルムアミドジエチルアセタールである。

[0260] 上記共役ジエン系重合体は、共役ジエンに基づく構成単位（共役ジエン単位）に加え、更に、他の単量体に基づく構成単位を有していてもよい。該他の単量体としては、芳香族ビニル、ビニルニトリル、不飽和カルボン酸エステルなどが挙げられる。芳香族ビニルとしては、スチレン、 α -メチルスチレン、ビニルトルエン、ビニルナフタレン、ジビニルベンゼン、トリビニルベンゼン、ジビニルナフタレンを例示することができる。また、ビニルニトリルとしては、アクリロニトリルなどを、不飽和カルボン酸エステルとしては、アクリル酸メチル、アクリル酸エチル、メタアクリル酸メチル、メタアクリル酸エチルなどを例示することができる。これらの中では、芳香族ビニルが好ましく、スチレンがより好ましい。

[0261] 上記共役ジエン系重合体は、耐摩耗性の観点から、芳香族ビニルに基づく構成単位（芳香族ビニル単位）を有していることが好ましく、芳香族ビニル単位の含有量としては、共役ジエン単位と芳香族ビニル単位との総量を100質量%として、好ましくは10質量%以上（共役ジエン単位の含有量は90質量%以下）であり、より好ましくは15質量%以上（共役ジエン単位の含有量は85質量%以下）である。また、低燃費性の観点から、芳香族ビニル単位の含有量は、好ましくは50質量%以下（共役ジエン単位の含有量は50質量%以上）であり、より好ましくは45質量%以下（共役ジエン単位の含有量は55質量%以上）である。

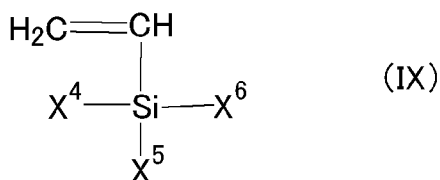
[0262] 上記共役ジエン系重合体のビニル結合量は、共役ジエン単位の含有量を100モル%として、低燃費性の観点から、好ましくは80モル%以下であり、より好ましくは70モル%以下である。また、ウェットグリップ性能の観点から、好ましくは10モル%以上であり、より好ましくは15モル%以上であり、更に好ましくは20モル%以上であり、特に好ましくは40モル%以上である。該ビニル結合量は、赤外分光分析法により、ビニル基の吸収ピークである 910 cm^{-1} 付近の吸収強度より求められる。

[0263] 上記共役ジエン系重合体の分子量分布は、低燃費性の観点から、好ましくは 1～5 であり、より好ましくは 1～2 である。分子量分布は、ゲル・パーミエーション・クロマトグラフ（GPC）法により、数平均分子量（ M_n ）及び重量平均分子量（ M_w ）を測定し、 M_w を M_n で除すことにより求められる。

[0264] 上記共役ジエン系重合体の好適な製造方法としては、下記工程 A 及び B を有する製造方法を挙げることができる。

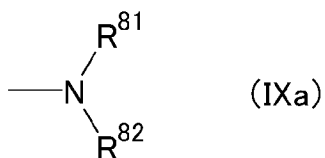
（工程 A）：炭化水素溶媒中で、アルカリ金属触媒により、共役ジエンと下式（IX）で表されるビニル化合物とを含む単量体を重合させ、共役ジエンに基づく単量体単位と下式（IX）で表されるビニル化合物に基づく単量体単位とを有する重合体鎖の少なくとも一端に、該触媒由来のアルカリ金属を有する重合体を得る工程。

[化48]



[式中、 X^4 、 X^5 及び X^6 は、それぞれ独立に、下式（IXa）で表される基、ヒドロカルビル基又は置換ヒドロカルビル基を表し、 X^4 、 X^5 及び X^6 の少なくとも 1 つが、下式（IXa）で表される基である。]

[化49]



[式中、 R^{81} 及び R^{82} は、それぞれ独立に、炭素原子数が 1～6 のヒドロカルビル基、炭素原子数が 1～6 の置換ヒドロカルビル基、シリル基又は置換シリル基を表し、 R^{81} 及び R^{82} は結合して窒素原子と共に環構造を形成していてもよい。]

（工程 B）：工程 A で得られた重合体と上記変性剤 1～5 の少なくとも 1 つ

とを反応させる工程。

[0265] (工程A) で用いられるアルカリ金属触媒としては、アルカリ金属、有機アルカリ金属化合物、アルカリ金属と極性化合物との錯体、アルカリ金属を有するオリゴマーなどを挙げることができる。該アルカリ金属としては、リチウム、ナトリウム、カリウム、ルビジウム、セシウムなどを挙げることができる。該有機アルカリ金属化合物としては、エチルリチウム、*n*-プロピルリチウム、*i*s*o*-プロピルリチウム、*n*-ブチルリチウム、*sec*-ブチルリチウム、*tert*-ブチルリチウム、*n*-デシルリチウム、フェニルリチウム、2-ナフチルリチウム、2-ブチルフェニルリチウム、4-フェニルブチルリチウム、シクロヘキシルリチウム、4-シクロペンチルリチウム、ジメチルアミノプロピルリチウム、ジエチルアミノプロピルリチウム、*tert*-ブチルジメチルシリロキシプロピルリチウム、*N*-モルホリノプロピルリチウム、リチウムヘキサメチレンイミド、リチウムピロリジド、リチウムピペリジド、リチウムヘプタメチレンイミド、リチウムドデカメチレンイミド、1,4-ジリチオ-2-ブテン、ナトリウムナフタレニド、ナトリウムビフェニリド、カリウムナフタレニドなどを挙げることができる。また、アルカリ金属と極性化合物との錯体としては、カリウム-テトラヒドロフラン錯体、カリウム-ジエトキシエタン錯体などを挙げることができ、アルカリ金属を有するオリゴマーとしては、 α -メチルスチレンテトラマーのナトリウム塩を挙げることができる。これらの中でも、有機リチウム化合物又は有機ナトリウム化合物が好ましく、炭素原子数が2~20の有機リチウム化合物又は有機ナトリウム化合物がより好ましい。

[0266] (工程A) で用いられる炭化水素溶媒は、有機アルカリ金属化合物触媒を失活させない溶媒であり、脂肪族炭化水素、芳香族炭化水素、脂環族炭化水素などを挙げることができる。該脂肪族炭化水素としては、プロパン、*n*-ブタン、*i*s*o*-ブタン、*n*-ペンタン、*i*s*o*-ペンタン、*n*-ヘキサン、プロペン、1-ブテン、*i*s*o*-ブテン、トランス-2-ブテン、シス-2-ブテン、1-ペンテン、2-ペンテン、1-ヘキセン、2-ヘキセンなど

を挙げることができる。また、芳香族炭化水素としては、ベンゼン、トルエン、キシレン、エチルベンゼンを挙げることができ、脂環族炭化水素としては、シクロペンタン、シクロヘキサンなどが挙げられる。これらは単独で、あるいは2種以上組み合わせて用いられる。これらの中では、炭素原子数が2～12の炭化水素が好ましい。

[0267] (工程A)では、共役ジエンと式(IX)で表されるビニル化合物とを含む単量体を重合させ、上述のアルカリ金属触媒由来のアルカリ金属を重合体鎖末端に有する共役ジエン系重合体を製造する。該共役ジエンとしては、1,3-ブタジエン、イソプレン、1,3-ペンタジエン、2,3-ジメチル-1,3-ブタジエン、1,3-ヘキサジエンを挙げることができ、これらは単独で、あるいは2種以上組み合わせて用いられる。中でも、入手容易性の観点から、1,3-ブタジエン、イソプレンが好ましい。

[0268] 式(IX)の X^4 、 X^5 及び X^6 は、それぞれ独立に、式(IXa)で表される基、ヒドロカルビル基又は置換ヒドロカルビル基を表し、 X^4 、 X^5 及び X^6 の少なくとも1つは、式(IXa)で表される基である。

[0269] 式(IXa)の R^{81} 及び R^{82} は、それぞれ独立に、炭素原子数が1～6のヒドロカルビル基、炭素原子数が1～6の置換ヒドロカルビル基、シリル基又は置換シリル基を表し、 R^{81} 及び R^{82} は結合して窒素原子と共に環構造を形成していてもよい。

[0270] R^{81} 及び R^{82} の炭素原子数が1～6のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、イソプロピル基、*n*-ブチル基、*sec*-ブチル基、*tert*-ブチル基、*n*-ペンチル基、ネオペンチル基、イソペンチル基、*n*-ヘキシル基などのアルキル基；シクロヘキシル基などのシクロアルキル基；フェニル基などを挙げることができる。

[0271] R^{81} 及び R^{82} の炭素原子数が1～6の置換ヒドロカルビル基としては、窒素原子を有する基、酸素原子を有する基及びケイ素原子を有する基からなる基群から選ばれる少なくとも1種の基を置換基として有する置換ヒドロカルビル基を挙げることができる。窒素原子を有する基を置換基として有する基と

しては、ジメチルアミノエチル基、ジエチルアミノエチル基などのジアルキルアミノアルキル基を挙げることができ、酸素原子を有する基を置換基として有する基としては、メトキシメチル基、メトキシエチル基、エトキシメチル基、エトキシエチル基などのアルコキシアルキル基を挙げることができ、ケイ素原子を有する基を置換基として有する基としては、トリメチルシリルメチル基などのトリアルキルシリルアルキル基などを挙げることができる。

[0272] R^{81} 及び R^{82} の置換シリル基としては、トリメチルシリル基、トリエチルシリル基、*t*-ブチルジメチルシリル基などのトリアルキルシリル基などを挙げることができる。

[0273] R^{81} 及び R^{82} が結合した基としては、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも1種の原子を有していてもよい炭素原子数が1～12の2価の基が挙げられる。例えば、トリメチレン基、テトラメチレン基、ペンタメチレン基、ヘキサメチレン基などのアルキレン基；オキシジエチレン基、オキシジプロピレン基などのオキシジアルキレン基； $-CH_2CH_2-NH-CH_2-$ で表される基、 $-CH_2CH_2-N=CH-$ で表される基などの含窒素基などを挙げることができる。

[0274] R^{81} 及び R^{82} が結合した基としては、含窒素基が好ましく、 $-CH_2CH_2-NH-CH_2-$ で表される基、 $-CH_2CH_2-N=CH-$ で表される基がより好ましい。

[0275] R^{81} 及び R^{82} のヒドロカルビル基としては、アルキル基が好ましく、炭素原子数が1～4のアルキル基がより好ましく、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、*n*-ブチル基が更に好ましく、エチル基、*n*-ブチル基が特に好ましい。 R^{81} 及び R^{82} の置換ヒドロカルビル基としては、アルコキシアルキル基が好ましく、炭素原子数が1～4のアルコキシアルキル基がより好ましい。 R^{81} 及び R^{82} の置換シリル基としては、トリアルキルシリル基が好ましく、トリメチルシリル基がより好ましい。

[0276] R^{81} 及び R^{82} としては、好ましくは、アルキル基、アルコキシアルキル基、置換シリル基又は R^{81} 及び R^{82} が結合した含窒素基であり、より好ましくは

、アルキル基であり、更に好ましくは、炭素原子数が1～4のアルキル基であり、より更に好ましくは、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、*n*-ブチル基である。

[0277] 式(IXa)で表される基としては、非環状アミノ基、環状アミノ基を挙げることができる。

[0278] 該非環状アミノ基としては、ジメチルアミノ基、ジエチルアミノ基、ジ(*n*-プロピル)アミノ基、ジ(イソプロピル)アミノ基、ジ(*n*-ブチル)アミノ基、ジ(*sec*-ブチル)アミノ基、ジ(*tert*-ブチル)アミノ基、ジ(ネオペンチル)アミノ基、エチルメチルアミノ基などのジアルキルアミノ基；ジ(メトキシメチル)アミノ基、ジ(メトキシエチル)アミノ基、ジ(エトキシメチル)アミノ基、ジ(エトキシエチル)アミノ基などのジ(アルコキシアルキル)アミノ基；ジ(トリメチルシリル)アミノ基、ジ(*tert*-ブチルジメチルシリル)アミノ基などのジ(トリアルキルシリル)アミノ基などを挙げることができる。

[0279] 該環状アミノ基としては、1-ピロリジニル基、1-ピペリジノ基、1-ヘキサメチレンイミノ基、1-ヘプタメチレンイミノ基、1-オクタメチレンイミノ基、1-デカメチレンイミノ基、1-ドデカメチレンイミノ基などの1-ポリメチレンイミノ基を挙げることができる。また、環状アミノ基としては、1-イミダゾリル基、4,5-ジヒドロ-1-イミダゾリル基、1-イミダゾリジニル基、1-ピペラジニル基、モルホリノ基なども挙げることができる。

[0280] 式(IXa)で表される基としては、経済性及び入手容易性から、好ましくは、非環状アミノ基であり、より好ましくは、ジアルキルアミノ基であり、更に好ましくは、炭素原子数が1～4のアルキル基で置換されたジアルキルアミノ基であり、より更に好ましくは、ジメチルアミノ基、ジエチルアミノ基、ジ(*n*-プロピル)アミノ基、ジ(*n*-ブチル)アミノ基である。

[0281] 式(IX)の $X^4 \sim X^6$ のヒドロカルビル基としては、メチル基、エチル基、*n*-プロピル基、イソプロピル基、*n*-ブチル基、*sec*-ブチル基、*tert*-

r t ーブチル基などのアルキル基を挙げることができる。また、置換ヒドロカルビル基としては、メトキシメチル基、エトキシメチル基、メトキシエチル基、エトキシエチル基などのアルコキシアリル基を挙げることができる。

[0282] $X^4 \sim X^6$ のヒドロカルビル基としては、アルキル基が好ましく、炭素原子数が 1 ～ 4 のアルキル基がより好ましく、メチル基又はエチル基が更に好ましい。また、 $X^4 \sim X^6$ の置換ヒドロカルビル基としては、アルコキシアリル基が好ましく、炭素原子数が 1 ～ 4 のアルコキシアリル基がより好ましい。

[0283] $X^4 \sim X^6$ のヒドロカルビル基及び置換ヒドロカルビル基としては、好ましくは、アルキル基又はアルコキシアリル基であり、より好ましくは、炭素原子数が 1 ～ 4 のアルキル基又は炭素原子数が 1 ～ 4 のアルコキシアリル基であり、更に好ましくは、炭素原子数が 1 ～ 4 のアルキル基であり、より更に好ましくは、メチル基又はエチル基である。

[0284] 式 (I X) の X^4 、 X^5 及び X^6 の少なくとも 1 つは、式 (I X a) で表される基である。好ましくは、 X^4 、 X^5 及び X^6 の 2 つ以上が、式 (I X a) で表される基であり、より好ましくは、 X^4 、 X^5 及び X^6 の 2 つが、式 (I X a) で表される基である。

[0285] (工程 A) で用いられる式 (I X) で表されるビニル化合物としては、 $X^4 \sim X^6$ の 1 つが式 (I X a) で表される非環状アミノ基であり、2 つがヒドロカルビル基又は置換ヒドロカルビル基である化合物として、(ジアルキルアミノ)ジアルキルビニルシラン、{ジ(トリアルキルシリル)アミノ}ジアルキルビニルシラン、(ジアルキルアミノ)ジアルコキシアリルビニルシランなどを挙げることができる。

[0286] (ジアルキルアミノ)ジアルキルビニルシランとしては、(ジメチルアミノ)ジメチルビニルシラン、(エチルメチルアミノ)ジメチルビニルシラン、(ジエチルアミノ)ジメチルビニルシラン、(エチル-n-プロピルアミノ)ジメチルビニルシラン、(エチルイソプロピルアミノ)ジメチルビニルシ

ラン、(ジ(n-プロピル)アミノ)ジメチルビニルシラン、(ジイソプロピルアミノ)ジメチルビニルシラン、(n-ブチル-n-プロピルアミノ)ジメチルビニルシラン、(ジ(n-ブチル)アミノ)ジメチルビニルシラン、(ジメチルアミノ)ジエチルビニルシラン、(エチルメチルアミノ)ジエチルビニルシラン、(ジエチルアミノ)ジエチルビニルシラン、(エチル-n-プロピルアミノ)ジエチルビニルシラン、(エチルイソプロピルアミノ)ジエチルビニルシラン、(ジ(n-プロピル)アミノ)ジエチルビニルシラン、(ジイソプロピルアミノ)ジエチルビニルシラン、(n-ブチル-n-プロピルアミノ)ジエチルビニルシラン、(ジ(n-ブチル)アミノ)ジエチルビニルシラン、(ジメチルアミノ)ジプロピルビニルシラン、(エチルメチルアミノ)ジプロピルビニルシラン、(ジエチルアミノ)ジプロピルビニルシラン、(エチル-n-プロピルアミノ)ジプロピルビニルシラン、(エチルイソプロピルアミノ)ジプロピルビニルシラン、(ジ(n-プロピル)アミノ)ジプロピルビニルシラン、(ジイソプロピルアミノ)ジプロピルビニルシラン、(n-ブチル-n-プロピルアミノ)ジプロピルビニルシラン、(ジ(n-ブチル)アミノ)ジプロピルビニルシラン、(ジメチルアミノ)ジブチルビニルシラン、(エチルメチルアミノ)ジブチルビニルシラン、(ジエチルアミノ)ジブチルビニルシラン、(エチル-n-プロピルアミノ)ジブチルビニルシラン、(エチルイソプロピルアミノ)ジブチルビニルシラン、(ジ(n-プロピル)アミノ)ジブチルビニルシラン、(ジイソプロピルアミノ)ジブチルビニルシラン、(n-ブチル-n-プロピルアミノ)ジブチルビニルシラン、(ジ(n-ブチル)アミノ)ジブチルビニルシランなどを挙げることができる。

[0287] {ジ(トリアルキルシリル)アミノ} ジアルキルビニルシランとしては、{ジ(トリメチルシリル)アミノ}ジメチルビニルシラン、{ジ(t-ブチルジメチルシリル)アミノ}ジメチルビニルシラン、{ジ(トリメチルシリル)アミノ}ジエチルビニルシラン、{ジ(t-ブチルジメチルシリル)アミノ}ジエチルビニルシランなどを挙げることができる。

- [0288] (ジアルキルアミノ) ジアルコキシアルキルビニルシランとしては、(ジメチルアミノ) ジメトキシメチルビニルシラン、(ジメチルアミノ) ジメトキシエチルビニルシラン、(ジメチルアミノ) ジエトキシメチルビニルシラン、(ジメチルアミノ) ジエトキシエチルビニルシラン、(ジエチルアミノ) ジメトキシメチルビニルシラン、(ジエチルアミノ) ジメトキシエチルビニルシラン、(ジエチルアミノ) ジエトキシメチルビニルシラン、(ジエチルアミノ) ジエトキシエチルビニルシランなどを挙げることができる。
- [0289] $X^4 \sim X^6$ の2つが式 (1 X a) で表される非環状アミノ基であり、1つがヒドロカルビル基又は置換ヒドロカルビル基である化合物として、ビス(ジアルキルアミノ) アルキルビニルシラン、ビス{ジ(トリアルキルシリル) アミノ} アルキルビニルシラン、ビス(ジアルキルアミノ) アルコキシアルキルビニルシランなどを挙げることができる。
- [0290] ビス(ジアルキルアミノ) アルキルビニルシランとしては、ビス(ジメチルアミノ) メチルビニルシラン、ビス(エチルメチルアミノ) メチルビニルシラン、ビス(ジエチルアミノ) メチルビニルシラン、ビス(エチルー n -プロピルアミノ) メチルビニルシラン、ビス(エチルイソプロピルアミノ) メチルビニルシラン、ビス(ジ(n -プロピル) アミノ) メチルビニルシラン、ビス(ジイソプロピルアミノ) メチルビニルシラン、ビス(n -ブチルー n -プロピルアミノ) メチルビニルシラン、ビス(ジ(n -ブチル) アミノ) メチルビニルシラン、ビス(ジメチルアミノ) エチルビニルシラン、ビス(エチルメチルアミノ) エチルビニルシラン、ビス(ジエチルアミノ) エチルビニルシラン、ビス(エチルー n -プロピルアミノ) エチルビニルシラン、ビス(エチルイソプロピルアミノ) エチルビニルシラン、ビス(ジ(n -プロピル) アミノ) エチルビニルシラン、ビス(ジイソプロピルアミノ) エチルビニルシラン、ビス(n -ブチルー n -プロピルアミノ) エチルビニルシラン、ビス(ジ(n -ブチル) アミノ) エチルビニルシラン、ビス(ジメチルアミノ) プロピルビニルシラン、ビス(エチルメチルアミノ) プロピルビニルシラン、ビス(ジエチルアミノ) プロピルビニルシラン、ビス(エチ

ルー n-プロピルアミノ) プロピルビニルシラン、ビス (エチルイソプロピルアミノ) プロピルビニルシラン、ビス (ジ (n-プロピル) アミノ) プロピルビニルシラン、ビス (ジイソプロピルアミノ) プロピルビニルシラン、ビス (n-ブチルー n-プロピルアミノ) プロピルビニルシラン、ビス (ジ (n-ブチル) アミノ) プロピルビニルシラン、ビス (ジメチルアミノ) ブチルビニルシラン、ビス (エチルメチルアミノ) ブチルビニルシラン、ビス (ジエチルアミノ) ブチルビニルシラン、ビス (エチルー n-プロピルアミノ) ブチルビニルシラン、ビス (エチルイソプロピルアミノ) ブチルビニルシラン、ビス (ジ (n-プロピル) アミノ) ブチルビニルシラン、ビス (ジイソプロピルアミノ) ブチルビニルシラン、ビス (n-ブチルー n-プロピルアミノ) ブチルビニルシラン、ビス (ジ (n-ブチル) アミノ) ブチルビニルシランなどを挙げることができる。

[0291] ビス {ジ (トリアルキルシリル) アミノ} アルキルビニルシランとしては、ビス {ジ (トリメチルシリル) アミノ} メチルビニルシラン、ビス {ジ (t-ブチルジメチルシリル) アミノ} メチルビニルシラン、ビス {ジ (トリメチルシリル) アミノ} エチルビニルシラン、ビス {ジ (t-ブチルジメチルシリル) アミノ} エチルビニルシランなどを挙げることができる。

[0292] ビス (ジアルキルアミノ) アルコキシアルキルビニルシランとしては、ビス (ジメチルアミノ) メトキシメチルビニルシラン、ビス (ジメチルアミノ) メトキシエチルビニルシラン、ビス (ジメチルアミノ) エトキシメチルビニルシラン、ビス (ジメチルアミノ) エトキシエチルビニルシラン、ビス (ジエチルアミノ) メトキシメチルビニルシラン、ビス (ジエチルアミノ) メトキシエチルビニルシラン、ビス (ジエチルアミノ) エトキシメチルビニルシラン、ビス (ジエチルアミノ) エトキシエチルビニルシランなどを挙げることができる。

[0293] $X^4 \sim X^6$ の 3 つが式 (1Xa) で表される非環状アミノ基である化合物として、トリ (ジアルキルアミノ) ビニルシランなどを挙げることができる。例えば、トリ (ジメチルアミノ) ビニルシラン、トリ (エチルメチルアミノ)

ビニルシラン、トリ（ジエチルアミノ）ビニルシラン、トリ（エチルプロピルアミノ）ビニルシラン、トリ（ジプロピルアミノ）ビニルシラン、トリ（ブチルプロピルアミノ）ビニルシランなどを挙げることができる。

[0294] $X^4 \sim X^6$ の2つが式（1Xa）で表される環状アミノ基であり、1つがヒドロカルビル基又は置換ヒドロカルビル基である化合物として、ビス（モルホリノ）メチルビニルシラン、ビス（ピペリジノ）メチルビニルシラン、ビス（4，5－ジヒドロイミダゾリル）メチルビニルシラン、ビス（ヘキサメチレンイミノ）メチルビニルシランなどを挙げることができる。

[0295] X^4 、 X^5 及び X^6 の2つが式（1Xa）で表される基である式（1X）で表されるビニル化合物として、好ましくは、 X^4 、 X^5 及び X^6 の2つが非環状アミノ基であるビニル化合物であり、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性の観点から、より好ましくは、ビス（ジアルキルアミノ）アルキルビニルシランであり、更に好ましくは、ビス（ジメチルアミノ）メチルビニルシラン、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン、ビス（ジ（*n*－プロピル）アミノ）メチルビニルシラン、ビス（ジ（*n*－ブチル）アミノ）メチルビニルシランである。中でも、化合物の入手容易性の観点からは、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン、ビス（ジ（*n*－ブチル）アミノ）メチルビニルシランが好ましい。

[0296]（工程A）では、共役ジエンと式（1X）で表されるビニル化合物とに、他の単量体を組み合わせて重合を行ってもよい。他の単量体としては、芳香族ビニル、ビニルニトリル、不飽和カルボン酸エステルなどが挙げられる。芳香族ビニルとしては、スチレン、 α －メチルスチレン、ビニルトルエン、ビニルナフタレン、ジビニルベンゼン、トリビニルベンゼン、ジビニルナフタレンを例示することができる。また、ビニルニトリルとしては、アクリロニトリルなどを、不飽和カルボン酸エステルとしては、アクリル酸メチル、アクリル酸エチル、メタアクリル酸メチル、メタアクリル酸エチルなどを例示することができる。これらの中では、芳香族ビニルが好ましく、スチレンがより好ましい。

[0297] (工程A)の重合は、共役ジエン単位のビニル結合量を調整する剤、共役ジエン系重合体鎖中での共役ジエン単位と共役ジエン以外の単量体に基づく構成単位の分布を調整する剤（以下、総称して「調整剤」と記す。）などの存在下で行ってもよい。このような剤としては、エーテル化合物、第三級アミン、ホスフィン化合物などを挙げることができる。該エーテル化合物としては、テトラヒドロフラン、テトラヒドロピラン、1,4-ジオキサンなどの環状エーテル；ジエチルエーテル、ジブチルエーテルなどの脂肪族モノエーテル；エチレングリコールジメチルエーテル、エチレングリコールジエチルエーテル、エチレングリコールジブチルエーテル、ジエチレングリコールジエチルエーテル、ジエチレングリコールジブチルエーテルなどの脂肪族ジエーテル；ジフェニルエーテル、アニソールなどの芳香族エーテルなどが挙げられる。該第三級アミンとして、トリエチルアミン、トリプロピルアミン、トリブチルアミン、N, N, N', N'-テトラメチルエチレンジアミン、N, N-ジエチルアニリン、ピリジン、キノリンなどを挙げることができる。また、該ホスフィン化合物として、トリメチルホスフィン、トリエチルホスフィン、トリフェニルホスフィンなどを挙げることができる。これらは単独で用いても、2種類以上を組み合わせ用いてもよい。

[0298] (工程A)での重合温度は、通常25～100℃であり、好ましくは35～90℃である。より好ましくは50～80℃である。重合時間は、通常10分～5時間である。

[0299] (工程B)において、工程Aで調製された重合体に接触させる変性剤1～5の量は、有機アルカリ金属触媒由来のアルカリ金属1モルあたり、通常、0.1～3モルであり、好ましくは、0.5～2モルであり、より好ましくは、0.7～1.5モルであり、更に好ましくは、1～1.5モルである。

[0300] (工程B)において、工程Aで調製された重合体と変性剤1～5の少なくとも一つとを接触させる温度は、通常25～100℃であり、好ましくは35～90℃である。より好ましくは50～80℃である。接触させる時間は、通常、60秒～5時間であり、好ましくは5分～1時間であり、より好まし

くは15分～1時間である。

[0301] 上記共役ジエン系重合体の製造方法においては、必要に応じて、アルカリ金属触媒による単量体の重合開始から重合停止において、共役ジエン系重合体の炭化水素溶液にカップリング剤を添加してもよい。カップリング剤としては、下式(X)で表される化合物を挙げることができる。



[式中、 R^{91} はアルキル基、アルケニル基、シクロアルケニル基又は芳香族残基を表し、Mはケイ素原子又はスズ原子を表し、Lはハロゲン原子又はヒドロカルビルオキシ基を表し、aは0～2の整数を表す。]

ここで、芳香族残基は、芳香族炭化水素から芳香環に結合している水素を除いた1価の基を表す。

[0302] 式(X)で表されるカップリング剤としては、四塩化珪素、メチルトリクロロシラン、ジメチルジクロロシラン、トリメチルクロロシラン、四塩化スズ、メチルトリクロロスズ、ジメチルジクロロスズ、トリメチルクロロスズ、テトラメトキシシラン、メチルトリメトキシシラン、ジメトキシジメチルシラン、メチルトリエトキシシラン、エチルトリメトキシシラン、ジメトキシジエチルシラン、ジエトキシジメチルシラン、テトラエトキシシラン、エチルトリエトキシシラン、ジエトキシジエチルシランなどを挙げることができる。

[0303] カップリング剤の添加量は、アルカリ金属触媒由来のアルカリ金属1モル当たり、共役ジエン系重合体の加工性の観点から、好ましくは0.03モル以上であり、より好ましくは0.05モル以上である。また、低燃費性の観点から、好ましくは0.4モル以下であり、より好ましくは0.3モル以下である。

[0304] 共役ジエン系重合体は、公知の回収方法、例えば、(1)共役ジエン系重合体の炭化水素溶液に凝固剤を添加する方法、(2)共役ジエン系重合体の炭化水素溶液にスチームを添加する方法によって、共役ジエン系重合体の炭化水素溶液から回収することができる。回収した共役ジエン系重合体は、バン

ドドライヤーや押出型ドライヤーなどの公知の乾燥機で乾燥してもよい。

[0305] また、上記共役ジエン系重合体の製造方法においては、加水分解などにより、重合体の式 (I a) で表される基を水酸基に置換させる処理を行うことが好ましい。該処理は、重合体単独の状態で行ってもよく、後述のような組成物の状態で行ってもよい。加水分解する方法としては、例えば、スチームストリッピングによる方法などの公知の方法が挙げられる。上記処理により、式 (I) の $X^1 \sim X^3$ を水酸基とすることができ、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をよりバランスよく向上できる。

[0306] 上記共役ジエン系重合体は、ゴム成分として本発明のゴム組成物に用いることができ、他のゴム成分や添加剤などと併用することが好ましい。

[0307] 他のゴム成分としては、一般的なジエン系ゴムを使用することができ、例えば、スチレンーブタジエン共重合体ゴム (SBR)、ポリブタジエンゴム (BR)、ブタジエンーイソプレン共重合体ゴム、ブチルゴムなどを挙げることができる。また、天然ゴム (NR)、エチレンープロピレン共重合体、エチレンーオクテン共重合体なども挙げることができる。これらのゴム成分は、2種以上組み合わせて用いてもよい。中でも、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性をバランス良く改善できるという点から、NR及び／又はBRを使用することが好ましく、NR及びBRの両成分を使用することがより好ましい。

[0308] ゴム成分100質量%中の上記共役ジエン系重合体の含有量は、5質量%以上、好ましくは10質量%以上、より好ましくは30質量%以上、更に好ましくは50質量%以上である。上記共役ジエン系重合体の含有量が5質量%未満であると低燃費性の改善効果が得られにくい傾向がある。上記共役ジエン系重合体の含有量は、好ましくは90質量%以下、より好ましくは80質量%以下、更に好ましくは70質量%以下である。上記共役ジエン系重合体の含有量が90質量%を超えると、耐摩耗性が低下すると共に、高コストになる傾向がある。

[0309] NRとしては特に限定されず、例えば、SIR20、RSS#3、TSR2

〇、脱タンパク質天然ゴム（D P N R）、高純度天然ゴム（H P N R）等、タイヤ工業において一般的なものを使用できる。

[0310] ゴム成分 100 質量%中の N R の含有量は、好ましくは 5 質量%以上、より好ましくは 10 質量%以上、更に好ましくは 15 質量%以上である。5 質量%未満であると、耐摩耗性が低下する傾向がある。上記 N R の含有量は、好ましくは 70 質量%以下、より好ましくは 60 質量%以下、更に好ましくは 30 質量%以下である。70 質量%を超えると、ウェットグリップ性能が低下する傾向がある。

[0311] B R としては特に限定されず、例えば、日本ゼオン（株）製の B R 1220、宇部興産（株）製の B R 130B、B R 150B などの高シス含有量の B R、宇部興産（株）製の V C R 412、V C R 617 などのシンジオタクチックポリブタジエン結晶を含有する B R 等、タイヤ工業において一般的なものを使用できる。

[0312] ゴム成分 100 質量%中の B R の含有量は、好ましくは 5 質量%以上、より好ましくは 10 質量%以上、更に好ましくは 15 質量%以上である。5 質量%未満であると、耐摩耗性が低下する傾向がある。上記 B R の含有量は、好ましくは 60 質量%以下、より好ましくは 50 質量%以下、更に好ましくは 30 質量%以下である。60 質量%を超えると、ウェットグリップ性能が低下する傾向がある。

[0313] ゴム成分 100 質量%中の N R 及び B R の合計含有量は、好ましくは 10 質量%以上、より好ましくは 20 質量%以上、更に好ましくは 30 質量%以上である。10 質量%未満であると、耐摩耗性が低下する傾向がある。上記合計含有量は、好ましくは 70 質量%以下、より好ましくは 50 質量%以下である。70 質量%を超えると、ウェットグリップ性能が低下する傾向がある。

[0314] 本発明のゴム組成物は補強剤としてシリカを配合することを特徴とする。シリカの配合量（含有量）は、ゴム成分 100 質量部に対して、5～150 質量部である。シリカの配合量が 5 質量部未満であると耐摩耗性が充分でない

傾向があり、一方、シリカの配合量が150質量部を超えると、加工性が悪化する傾向がある。シリカの配合量は、好ましくは10質量部以上、より好ましくは15質量部以上、更に好ましくは45質量部以上であり、好ましくは120質量部以下、より好ましくは100質量部以下である。

シリカは単独で用いてもよく、2種以上組み合わせて用いてもよい。

[0315] シリカ及びカーボンブラックの合計100質量%中のシリカの含有量は、好ましくは60質量%以上、より好ましくは85質量%以上であり、好ましくは98質量%以下、より好ましくは95質量%以下である。上記範囲内であれば、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性を高次元でバランス良く改善することができる。

[0316] また、シリカの窒素吸着比表面積 (N_2SA) は、好ましくは $40\text{ m}^2/\text{g}$ 以上、より好ましくは $50\text{ m}^2/\text{g}$ 以上、更に好ましくは $60\text{ m}^2/\text{g}$ 以上、特に好ましくは $150\text{ m}^2/\text{g}$ 以上であり、好ましくは $400\text{ m}^2/\text{g}$ 以下、より好ましくは $360\text{ m}^2/\text{g}$ 以下、更に好ましくは $300\text{ m}^2/\text{g}$ 以下、特に好ましくは $200\text{ m}^2/\text{g}$ 以下である。窒素吸着比表面積が $40\text{ m}^2/\text{g}$ 未満のシリカでは補強効果が小さく耐摩耗性が低下する傾向があり、 $400\text{ m}^2/\text{g}$ を超えるシリカでは分散性が悪く、ヒステリシスロスが増大し低燃費性が低下する傾向がある。

なお、シリカの窒素吸着比表面積は、ASTM D3037-81に準じてBET法で測定される値である。

[0317] 本発明で使用されるジエン系ゴムゲルは、ジエン系ゴム分散液を架橋することにより製造できる。該ジエン系ゴム分散液としては、乳化重合により製造されるゴムラテックス、溶液重合されたジエン系ゴムを水中に乳化させて得られるジエン系ゴム分散液などが挙げられる。また、架橋剤としては、有機ペルオキシド、有機アゾ化合物、硫黄系架橋剤などが挙げられる。また、ジエン系ゴムの架橋は、ジエン系ゴムの乳化重合中に、架橋作用を持つ多官能化合物との共重合によっても行うことができる。具体的には、特許第3739198号公報、特許第3299343号公報、特表2004-50446

5号公報、特表2004-506058号公報などに開示の方法を用いることができる。

[0318] なお、本発明で使用されるジエン系ゴムゲルは、水酸基を有しているが、例えば、水酸基を有し、かつC=C二重結合に反応性を有する化合物によりジエン系ゴムを変性して粒子表面にOH基を組み込むことができる。

[0319] このような化合物（変性剤）としては、例えば、特表2004-506058号公報に記載されているように、ヒドロキシブチルアクリレート又はメタクリレート、ヒドロキシエチルアクリレート又はメタクリレート、ヒドロキシプロピルアクリレート又はメタクリレートなどのヒドロキシアルキル（メタ）アクリレートなどが挙げられる。

[0320] ジエン系ゴムゲルを構成するジエン系ゴム成分としては、上記した各種ジエン系ゴムが挙げられる。これらジエン系ゴムは単独で用いてもよく、2種以上を組み合わせ用いてもよい。なかでも、T_gを調整しやすいという理由から、SBRを主成分とするものが好ましい。

[0321] ジエン系ゴムゲルのガラス転移温度（T_g）は-40℃以上、好ましくは-35℃以上、より好ましくは-30℃以上である。-40℃未満であると、ウェットグリップ性能が悪化するおそれがある。上記ガラス転移温度は-10℃以下、好ましくは-15℃以下、より好ましくは-20℃以下である。-10℃を超えると、耐摩耗性が悪化するおそれがある。

なお、ジエン系ゴムゲルのガラス転移温度は、JIS-K7121:1987に従い、ティー・エイ・インスツルメント・ジャパン社製の示差走査熱量計（Q200）を用いて、昇温速度10℃/分の条件で測定した値である。

[0322] ジエン系ゴムゲルの平均粒子径は、好ましくは10nm以上、より好ましくは20nm以上、更に好ましくは30nm以上である。10nm未満であると、ゲルが凝集するおそれがある。該平均粒子径は、好ましくは100nm以下、より好ましくは90nm以下、更に好ましくは80nm以下である。100nmを超えると、耐摩耗性が悪化するおそれがある。

なお、ジエン系ゴムゲルの平均粒子径は、電子顕微鏡を用いて測定した値で

ある。

[0323] ジエン系ゴムゲルの水酸基価 (mg KOH/g - gel) は、好ましくは 60 以下、より好ましくは 50 以下、更に好ましくは 40 以下である。60 を超えると、ゲル粒子が大きくなってしまい、強度が低下するおそれがある。該水酸基価は、好ましくは 10 以上、より好ましくは 20 以上、更に好ましくは 30 以上である。10 未満であると、シリカとポリマーとの間の相互作用が低下し、強度が低下するおそれがある。

なお、ジエン系ゴムゲルの水酸基価は、ジエン系ゴムゲル 1 g をアセチル化するとき、水酸基と結合した酢酸を中和するのに要する水酸化カリウムの量をミリグラム数で表したものであり、電位差滴定法 (JIS K0070: 1992) により測定した値である。

[0324] ジエン系ゴムゲルの含有量は、ゴム成分 100 質量部に対して、10 質量部以上、好ましくは 15 質量部以上、より好ましくは 20 質量部以上である。10 質量部未満では、十分なウェットグリップ性能が得られないおそれがある。該含有量は、30 質量部以下、好ましくは 27 質量部以下である。30 質量部を超えると、低燃費性が悪化するおそれがある。

なお、ジエン系ゴムゲルは、ゴム成分には含まない。

[0325] 本発明のゴム組成物には、シリカ及びジエン系ゴムゲルと共に、シランカップリング剤を配合することが好ましい。シランカップリング剤を配合することにより、シランカップリング剤を介して、ジエン系ゴムゲルとシリカ、ジエン系ゴムゲルとゴム成分、シリカとゴム成分を結合することができる。更に、ジエン系ゴムゲルが有する水酸基と、シリカ表面のシラノール基との相互作用とも相まって、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性を高度に向上できる。

[0326] シランカップリング剤としては、例えば、ビス (3-トリエトキシシリルプロピル) テトラスルフィド、ビス (3-トリエトキシシリルプロピル) トリスルフィド、ビス (3-トリエトキシシリルプロピル) ジスルフィド、ビス (2-トリエトキシシリルエチル) テトラスルフィド、ビス (3-トリメト

キシシリルプロピル) テトラスルフィド、ビス (2-トリメトキシシリルエチル) テトラスルフィド、3-メルカプトプロピルトリメトキシシラン、3-メルカプトプロピルトリエトキシシラン、2-メルカプトエチルトリメトキシシラン、2-メルカプトエチルトリエトキシシラン、3-トリメトキシシリルプロピル-N, N-ジメチルチオカルバモイルテトラスルフィド、3-トリエトキシシリルプロピル-N, N-ジメチルチオカルバモイルテトラスルフィド、2-トリエトキシシリルエチル-N, N-ジメチルチオカルバモイルテトラスルフィド、3-トリメトキシシリルプロピルベンゾチアゾールテトラスルフィド、3-トリエトキシシリルプロピルベンゾチアゾリルテトラスルフィド、3-トリエトキシシリルプロピルメタクリレートモノスルフィド、3-トリメトキシシリルプロピルメタクリレートモノスルフィド、ビス (3-ジエトキシメチルシリルプロピル) テトラスルフィド、3-メルカプトプロピルジメトキシメチルシラン、ジメトキシメチルシリルプロピル-N, N-ジメチルチオカルバモイルテトラスルフィド、ジメトキシメチルシリルプロピルベンゾチアゾールテトラスルフィドなどが挙げられる。なかでも、補強性改善効果などの点から、ビス (3-トリエトキシシリルプロピル) テトラスルフィド及び3-トリメトキシシリルプロピルベンゾチアゾリルテトラスルフィドが好ましい。これらのシランカップリング剤は単独で用いてもよく、2種以上を組み合わせ用いてもよい。

- [0327] シランカップリング剤の含有量は、ジエン系ゴムゲル及びシリカの合計含有量100質量部に対して、好ましくは1質量部以上、より好ましくは2質量部以上、更に好ましくは3質量部以上、特に好ましくは4質量部以上である。1質量部未満では、未加硫ゴム組成物の粘度が高く、加工性が悪化する傾向がある。また、十分な低燃費性が得られないおそれもある。シランカップリング剤の含有量は、好ましくは20質量部以下、より好ましくは15質量部以下、更に好ましくは10質量部以下である。20質量部を超えると、コストの増加に見合った効果が得られない傾向がある。また、破壊強度や耐摩耗性が低下するおそれもある。

[0328] 添加剤としては、公知のものをを用いることができ、硫黄などの加硫剤；チアゾール系加硫促進剤、チウラム系加硫促進剤、スルフェンアミド系加硫促進剤、グアニジン系加硫促進剤などの加硫促進剤；ステアリン酸、酸化亜鉛などの加硫活性化剤；有機過酸化物；カーボンブラック、炭酸カルシウム、タルク、アルミナ、クレー、水酸化アルミニウム、マイカなどの充填剤；伸張油、滑剤などの加工助剤；老化防止剤を例示することができる。

[0329] 上記カーボンブラックとしては、SAF、ISAF、HAF、MAF、FEF、SRF、GPF、APF、FF、CF、SCF及びECFのようなファーネスブラック（ファーネスカーボンブラック）；アセチレンブラック（アセチレンカーボンブラック）；FT及びMTのようなサーマルブラック（サーマルカーボンブラック）；EPC、MPC及びCCのようなチャンネルブラック（チャンネルカーボンブラック）；グラファイトなどを挙げることができる。これらは1種又は2種以上組み合わせて用いることができる。低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性を高次元でバランス良く改善できるという点から、カーボンブラックの含有量は、ゴム成分100質量部に対して、好ましくは1質量部以上、より好ましくは3質量部以上であり、好ましくは60質量部以下、より好ましくは50質量部以下、更に好ましくは30質量部以下、特に好ましくは10質量部以下である。

[0330] カーボンブラックの窒素吸着比表面積（ N_2SA ）は、好ましくは $5\text{ m}^2/\text{g}$ 以上、より好ましくは $30\text{ m}^2/\text{g}$ 以上、更に好ましくは $50\text{ m}^2/\text{g}$ 以上、特に好ましくは $70\text{ m}^2/\text{g}$ 以上であり、好ましくは $250\text{ m}^2/\text{g}$ 以下、より好ましくは $200\text{ m}^2/\text{g}$ 以下、更に好ましくは $150\text{ m}^2/\text{g}$ 以下である。また、カーボンブラックのジブチルフタレート（DBP）吸収量は、好ましくは $5\text{ ml}/100\text{ g}$ 以上、より好ましくは $80\text{ ml}/100\text{ g}$ 以上であり、好ましくは $300\text{ ml}/100\text{ g}$ 以下、より好ましくは $180\text{ ml}/100\text{ g}$ 以下である。カーボンブラックの N_2SA やDBP吸収量が上記範囲の下限未満では、補強効果が小さく耐摩耗性が低下する傾向があり、上記範囲の上限を超えると、分散性が悪く、ヒステリシスロスが増大し低燃費性が低

下する傾向がある。該窒素吸着比表面積は、ASTM D4820-93に従って測定され、該DBP吸収量は、ASTM D2414-93に従って測定される。市販品としては、東海カーボン（株）製商品名シート6、シート7HM、シートKH、エボニックデグッサ社製商品名CK3、Special Black 4A等を用いることができる。

[0331] 上記伸展油としては、アロマチック系鉱物油（粘度比重恒数（V. G. C. 値）0.900～1.049）、ナフテン系鉱物油（V. G. C. 値0.850～0.899）、パラフィン系鉱物油（V. G. C. 値0.790～0.849）などを挙げることができる。伸展油の多環芳香族含有量は、好ましくは3質量%未満であり、より好ましくは1質量%未満である。該多環芳香族含有量は、英国石油学会346/92法に従って測定される。また、伸展油の芳香族化合物含有量（CA）は、好ましくは20質量%以上である。これらの伸展油は、2種以上組み合わせられて用いられてもよい。

[0332] 上記加硫促進剤としては、2-メルカプトベンゾチアゾール、ジベンゾチアジルジサルファイド、N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアジルスルフェンアミドなどのチアゾール系加硫促進剤；テトラメチルチウラムモノスルフィド、テトラメチルチウラムジスルフィドなどのチウラム系加硫促進剤；N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド、N-tert-ブチル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド、N-オキシエチレン-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド、N-オキシエチレン-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド、N, N'-ジイソプロピル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミドなどのスルフェンアミド系加硫促進剤；ジフェニルグアニジン、ジオルトトリルグアニジン、オルトトリルビグアニジンなどのグアニジン系加硫促進剤を挙げることができ、その使用量は、ゴム成分100質量部に対して0.1～5質量部が好ましく、更に好ましくは0.2～3質量部である。

[0333] 上記共役ジエン系重合体に、他のゴム成分や添加剤などを配合してゴム組成物を製造する方法としては、公知の方法、例えば、各成分をロールやバンバ

リーのような公知の混合機で混練する方法を用いることができる。

[0334] 混練条件としては、加硫剤及び加硫促進剤以外の添加剤を配合する場合、混練温度は、通常50～200℃であり、好ましくは80～190℃であり、混練時間は、通常30秒～30分であり、好ましくは1分～30分である。加硫剤、加硫促進剤を配合する場合、混練温度は、通常100℃以下であり、好ましくは室温～80℃である。また、加硫剤、加硫促進剤を配合した組成物は、通常、プレス加硫などの加硫処理を行って用いられる。加硫温度としては、通常120～200℃、好ましくは140～180℃である。

[0335] 本発明のゴム組成物は、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性のバランスに優れており、これらの性能の顕著な改善効果を得ることができる。

[0336] 本発明のゴム組成物は、タイヤの各部材に好適に用いることができ、特にトレッドに好適に用いることができる。

[0337] 本発明の空気入りタイヤは、上記ゴム組成物を用いて通常の方法によって製造される。すなわち、必要に応じて各種添加剤を配合したゴム組成物を、未加硫の段階でタイヤのトレッドなどの形状に合わせて押し出し加工し、タイヤ成型機上にて通常の方法にて成型し、他のタイヤ部材と共に貼り合わせ、未加硫タイヤを形成する。この未加硫タイヤを加硫機中で加熱加圧して、本発明の空気入りタイヤを製造できる。

[0338] 本発明の空気入りタイヤは、乗用車用タイヤ、トラック・バス用タイヤ（重荷重用タイヤ）として好適に用いることができる。

実施例

[0339] 以下、実施例によって本発明を説明する。

物性評価は次の方法で行った。なお、以下の物性評価において、表6における基準比較例を比較例1、表7における基準比較例を比較例13、表8～12における基準比較例を比較例25、表13～14における基準比較例を比較例53、表15～19における基準比較例を比較例70、表20における基準比較例を比較例98とした。

[0340] 1. ビニル結合量（単位：モル％）

赤外分光分析法により、ビニル基の吸収ピークである 910 cm^{-1} 付近の吸収強度より重合体のビニル結合量を求めた。

[0341] 2. スチレン単位の含量（単位：質量％）

J I S K 6 3 8 3（1995）に従って、屈折率から重合体のスチレン単位の含量を求めた。

[0342] 3. 分子量分布（ M_w/M_n ）

下記の条件（1）～（8）でゲル・パーミエーション・クロマトグラフ（GPC）法により、重合体の重量平均分子量（ M_w ）と数平均分子量（ M_n ）を測定した。そして、測定した M_w 、 M_n から重合体の分子量分布（ M_w/M_n ）を求めた。

- （1）装置：東ソー（株）製 HLC-8020
- （2）分離カラム：東ソー（株）製 GMH-XL（2本直列）
- （3）測定温度：40℃
- （4）キャリア：テトラヒドロフラン
- （5）流量：0.6 mL/分
- （6）注入量：5 μ L
- （7）検出器：示差屈折
- （8）分子量標準：標準ポリスチレン

[0343] 4. 転がり抵抗

転がり抵抗試験機を用い、試験用タイヤを、リム（15×6JJ）、内圧（230kPa）、荷重（3.43kN）、速度（80km/h）で走行させた時の転がり抵抗を測定し、基準比較例を100とした時の指数で表示した。数値が大きいほど転がり抵抗が小さく、低燃費性に優れることを示している。

[0344] 5. ウェットグリップ性能

製造した試験用タイヤを車両（国産FF2000cc）の全輪に装着させ、湿潤アスファルト路面にて、初速度100km/hからの制動距離を測定した。そして、基準比較例のウェットグリップ性能指数を100とし、以下に

示す計算式により、各配合のウェットスキッド性能（ウェットグリップ性能）を指数表示した。数値が大きいほどウェットグリップ性能に優れることを示す。

（ウェットグリップ性能指数）＝（基準比較例の制動距離）／（各配合の制動距離）×１００

[0345] ６．耐摩耗性１

L A T 試験機（L a b o r a t o r y A b r a t i o n a n d S k i d T e s t e r）を用い、荷重５０Ｎ、速度２０ｋｍ／ｈ、スリップアングル５°の条件にて、各加硫ゴム組成物の容積損失量を測定した。表中の数値（耐摩耗性１指数）は、基準比較例の容積損失量を１００とした時の相対値である。当該数値が大きいほど耐摩耗性に優れている。

[0346] ７．耐摩耗性２

製造した試験用タイヤを車両（国産ＦＦ２０００ｃｃ）の全輪に装着して実車走行させ、３５０００ｋｍ走行後のトレッドパターンの溝深さの変化を測定した。そして、比較例７の耐摩耗性指数を１００とし、以下に示す計算式により、各配合の溝深さの変化を指数表示した。指数が大きいほど耐摩耗性に優れることを示している。

（耐摩耗性指数）＝（基準比較例の溝深さの変化）／（各配合の溝深さの変化）×１００

[0347] 製造例１（重合体１の合成）

内容積２０リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重０．６８ｇ／ｃｍ³）１０．２ｋｇ、１，３－ブタジエン５４７ｇ、スチレン１７３ｇ、テトラヒドロフラン６．１ｍｌ、エチレングリコールジエチルエーテル５．０ｍｌを重合反応器内に投入した。次に、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン１１．１ｍｍｏｌ及びｎ－ブチルリチウム１３．１ｍｍｏｌを、それぞれ、シクロヘキサン溶液及びｎ－ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を１３０ｒｐｍ、重合反応器内温度を６５℃とし、単量体を重合反

応器内に連続的に供給しながら、1, 3-ブタジエンとスチレンの共重合を3時間行った。全重合での1, 3-ブタジエンの供給量は821 g、スチレンの供給量は259 gであった。

次に、得られた重合体溶液を130 rpmの攪拌速度で攪拌し、3-ジエチルアミノプロピルトリエトキシシラン11.1 mmolを添加し、15分間攪拌した。重合体溶液にメタノール0.54 mlを含むヘキサン溶液20 mlを加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0348] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザーGM）1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーTP-D）0.9 gを加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体1を回収した。重合体1の評価結果を表1に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり0.006 mmol/g重合体であった。

[0349] 製造例2（重合体2の合成）

内容積5リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重0.68 g/cm³）2.55 kg、1, 3-ブタジエン137 g、スチレン43 g、テトラヒドロフラン1.5 ml、エチレングリコールジエチルエーテル1.2 mlを重合反応器内に投入した。次に、n-ブチルリチウム3.6 mmolをn-ヘキサン溶液として投入し、1, 3-ブタジエンとスチレンの共重合を2.5時間行った。重合中、攪拌速度を130 rpm、重合反応器内温度を65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給した。1, 3-ブタジエンの供給量は205 g、スチレンの供給量は65 gであった。

該2.5時間の重合後、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン2.8 mmolをシクロヘキサン溶液として、攪拌速度130 rpm、重合反応器

内温度 65℃の条件下で、重合反応器内に投入し 30 分間攪拌した。

次に、メタノール 0.14 ml を含むヘキサン溶液 20 ml を重合反応器内に投入し、重合体溶液を 5 分間攪拌した。

[0350] 重合体溶液に 2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザーGM）1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーTP-D）0.9 g を加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体 2 を回収した。重合体 2 の評価結果を表 1 に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり 0.006 mmol / g 重合体であった。

[0351] 製造例 3（重合体 3 の合成）

内容積 20 リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重 0.68 g / cm³）10.2 kg、1,3-ブタジエン 547 g、スチレン 173 g、テトラヒドロフラン 6.1 ml、エチレングリコールジエチルエーテル 5.0 ml を重合反応器内に投入した。次に、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン 11.1 mmol 及び n-ブチルリチウム 13.1 mmol を、それぞれ、シクロヘキサン溶液及び n-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を 3 時間行った。全重合での 1,3-ブタジエンの供給量は 821 g、スチレンの供給量は 259 g であった。

次に、重合体溶液にメタノール 0.54 ml を含むヘキサン溶液 20 ml を加えて、更に重合体溶液を 5 分間攪拌した。

[0352] 重合体溶液に 2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート（住友

化学（株）製、商品名：スミライザーGM）1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーTP-D）0.9 gを加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体3を回収した。重合体3の評価結果を表1に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり0.006 mmol/g重合体であった。

[0353] 製造例4（重合体4の合成）

内容積20リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重0.68 g/cm³）10.2 kg、1,3-ブタジエン547 g、スチレン173 g、テトラヒドロフラン6.1 ml、エチレングリコールジエチルエーテル5.0 mlを重合反応器内に投入した。次に、n-ブチルリチウム13.1 mmolをn-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を130 rpm、重合反応器内温度を65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を3時間行った。全重合での1,3-ブタジエンの供給量は821 g、スチレンの供給量は259 gであった。

次に、得られた重合体溶液を130 rpmの攪拌速度で攪拌し、3-ジエチルアミノプロピルトリエトキシシラン11.1 mmolを添加し、15分間攪拌した。重合体溶液にメタノール0.54 mlを含むヘキサン溶液20 mlを加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0354] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザーGM）1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーTP-D）0.9 gを加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体4を回収した。重合体4の評価結果を表1

に示す。なお、重合体4は合成時に式(IX)で表される化合物を使用しなかったため、式(I)で表される構成単位を含有していなかった。

[0355] 製造例5 (重合体5の合成)

内容積20リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン(比重 0.68 g/cm^3)10.2kg、1,3-ブタジエン547g、スチレン173g、テトラヒドロフラン6.1ml、エチレングリコールジエチルエーテル5.0mlを重合反応器内に投入した。次に、*n*-ブチルリチウム13.1mmolを*n*-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を130rpm、重合反応器内温度を65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を3時間行った。全重合での1,3-ブタジエンの供給量は821g、スチレンの供給量は259gであった。

次に、重合体溶液にメタノール0.54mlを含むヘキサン溶液20mlを加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0356] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート(住友化学(株)製、商品名:スミライザーGM)1.8g、ペンタエリスリチルテトラキス(3-ラウリルチオプロピオネート)(住友化学(株)製、商品名:スミライザーTP-D)0.9gを加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体5を回収した。重合体5の評価結果を表1に示す。なお、重合体5は合成時に式(IX)で表される化合物を使用しなかったため、式(I)で表される構成単位を含有していなかった。

[0357] 製造例6 (重合体6の合成)

内容積20リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン(比重 0.68 g/cm^3)10.2kg、1,3-ブタジエン547g、スチレン173g、テトラヒドロフラン6.1ml、エチレングリコールジエチルエーテル5.0mlを重合反応器内に投入した。次

に、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン 11.1 mmol 及び *n*-ブチルリチウム 13.1 mmol を、それぞれ、シクロヘキサン溶液及び *n*-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を 3 時間行った。全重合での 1,3-ブタジエンの供給量は 821 g、スチレンの供給量は 259 g であった。

次に、得られた重合体溶液を 130 rpm の攪拌速度で攪拌し、3-ジエチルアミノプロピルトリエトキシシラン 11.1 mmol を添加し、15 分間攪拌した。重合体溶液にメタノール 0.54 ml を含むヘキサン溶液 20 ml を加えて、更に重合体溶液を 5 分間攪拌した。

[0358] 重合体溶液に 2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザー GM）1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザー TP-D）0.9 g を加え、次に、重合体溶液を、常温、24 時間で蒸発させ、更に 55℃で 12 時間減圧乾燥し、重合体 6 を得た。重合体 6 の評価結果を表 1 に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり 0.006 mmol/g 重合体であった。

[0359] [表1]

	重合体					
	1	2	3	4	5	6
スチレン単位の含量(質量%)	25	25	24	25	24	25
ビニル結合量(モル%)	59	59	60	59	58	60
分子量分布(Mw/Mn)	1.2	1.1	1.2	1.1	1.1	1.2

[0360] 製造例 7（重合体 7 の合成）

内容積 20 リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重 0.68 g/cm³）10.2 kg、1,3-ブタ

ジエン 547 g、スチレン 173 g、テトラヒドロフラン 6.1 ml、エチレングリコールジエチルエーテル 5.0 ml を重合反応器内に投入した。次に、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン 11.0 mmol 及び *n*-ブチルリチウム 14.3 mmol を、それぞれ、シクロヘキサン溶液及び *n*-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃ とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を 3 時間行った。全重合での 1,3-ブタジエンの供給量は 821 g、スチレンの供給量は 259 g であった。

次に、得られた重合体溶液を 130 rpm の攪拌速度で攪拌し、1,3-ジメチルー2-イミダゾリジノン 11.0 mmol を添加し、15 分間攪拌した。重合体溶液にメタノール 0.54 ml を含むヘキサン溶液 20 ml を加えて、更に重合体溶液を 5 分間攪拌した。

[0361] 重合体溶液に 2-tert-ブチルー6-(3-tert-ブチルー2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザー GM）1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザー TP-D）0.9 g を加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体 7 を回収した。重合体 7 の評価結果を表 2 に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり 0.006 mmol/g 重合体であった。

[0362] 製造例 8（重合体 8 の合成）

内容積 20 リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重 0.68 g/cm³）10.2 kg、1,3-ブタジエン 547 g、スチレン 173 g、テトラヒドロフラン 6.1 ml、エチレングリコールジエチルエーテル 5.0 ml を重合反応器内に投入した。次に、*n*-ブチルリチウム 12.9 mmol を *n*-ヘキサン溶液として投入し

、1, 3-ブタジエンとスチレンの共重合を0. 83時間行った。重合中、攪拌速度を130rpm、重合反応器内温度を65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給した。

該0. 83時間の重合後、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン11. 0mmolをシクロヘキサン溶液として、攪拌速度を130rpm、重合反応器内温度を65℃の条件下で、重合反応器内に投入した。

次に、重合反応器内に連続的に単量体を供給し、1, 3-ブタジエンとスチレンの共重合を1. 67時間行った。全重合での1, 3-ブタジエンの供給量は821g、スチレンの供給量は259gであった。

次に、得られた重合体溶液を130rpmの攪拌速度で攪拌し、1, 3-ジメチルー2-イミダゾリジノン11. 0mmolを添加し、15分間攪拌した。重合体溶液にメタノール0. 54mlを含むヘキサン溶液20mlを加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0363] 重合体溶液に2-tert-ブチルー6-（3-tert-ブチルー2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル）-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザーGM）1. 8g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーTP-D）0. 9gを加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体8を回収した。重合体8の評価結果を表2に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり0. 006mmol/g重合体であった。

[0364] 製造例9（重合体9の合成）

内容積20リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重0. 68g/cm³）10. 2kg、1, 3-ブタジエン547g、スチレン173g、テトラヒドロフラン6. 1ml、エチレングリコールジエチルエーテル5. 0mlを重合反応器内に投入した。次に、n-ブチルリチウム13. 7mmolをn-ヘキサン溶液として投入し

、 1, 3-ブタジエンとスチレンの共重合を 1 時間行った。重合中、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給した。

該 1 時間の重合後、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン 11.0 mmol をシクロヘキサン溶液として、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃の条件下で、重合反応器内に投入した。

次に、重合反応器内に連続的に単量体を供給し、1, 3-ブタジエンとスチレンの共重合を 0.5 時間行った。重合中、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃とした。

該 0.5 時間の重合後、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン 11.0 mmol をシクロヘキサン溶液として、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃の条件下で、重合反応器内に投入した。次に、重合反応器内に連続的に単量体を供給し、1, 3-ブタジエンとスチレンの共重合を 0.5 時間行った。重合中、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃とした。

該 0.5 時間の重合後、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン 11.0 mmol をシクロヘキサン溶液として、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃の条件下で、重合反応器内に投入した。

次に、重合反応器内に連続的に単量体を供給し、1, 3-ブタジエンとスチレンの共重合を 0.5 時間行った。重合中、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃とした。全重合での 1, 3-ブタジエンの供給量は 821 g、スチレンの供給量は 259 g であった。

次に、得られた重合体溶液を 130 rpm の攪拌速度で攪拌し、1, 3-ジメチルー 2-イミダゾリジノン 11.0 mmol を添加し、15 分間攪拌した。重合体溶液にメタノール 0.54 ml を含むヘキサン溶液 20 ml を加えて、更に重合体溶液を 5 分間攪拌した。

[0365] 重合体溶液に 2-tert-ブチルー 6-（3-tert-ブチルー 2-ヒドロキシー 5-メチルベンジル）-4-メチルフェニルアクリレート（住友

化学（株）製、商品名：スミライザーGM）1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーTP-D）0.9 gを加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体9を回収した。重合体9の評価結果を表2に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり0.018 mmol/g重合体であった。

[0366] 製造例10（重合体10の合成）

内容積20リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重0.68 g/cm³）10.2 kg、1,3-ブタジエン547 g、スチレン173 g、テトラヒドロフラン6.1 ml、エチレングリコールジエチルエーテル5.0 mlを重合反応器内に投入した。次に、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン11.0 mmol及びn-ブチルリチウム14.3 mmolを、それぞれ、シクロヘキサン溶液及びn-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を130 rpm、重合反応器内温度を65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を3時間行った。全重合での1,3-ブタジエンの供給量は821 g、スチレンの供給量は259 gであった。

次に、得られた重合体溶液を130 rpmの攪拌速度で攪拌し、1-フェニル-2-ピロリドン11.0 mmolを添加し、15分間攪拌した。重合体溶液にメタノール0.54 mlを含むヘキサン溶液20 mlを加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0367] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-（3-tert-ブチル-2-ヒドロキシー5-メチルベンジル）-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザーGM）1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーTP-D）0.9 gを加え、次に、スチームストリッピング

グによって重合体溶液から重合体 10 を回収した。重合体 10 の評価結果を表 2 に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式 (I) で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり 0.006 mmol/g 重合体であった。

[0368] 製造例 11 (重合体 11 の合成)

内容積 20 リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン (比重 0.68 g/cm^3) 10.2 kg 、1,3-ブタジエン 547 g 、スチレン 173 g 、テトラヒドロフラン 6.1 ml 、エチレングリコールジエチルエーテル 5.0 ml を重合反応器内に投入した。次に、*n*-ブチルリチウム 15.1 mmol を *n*-ヘキサン溶液として投入し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を 1 時間行った。重合中、攪拌速度を 130 rpm 、重合反応器内温度を 65°C とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給した。

該 1 時間の重合後、ビス (ジエチルアミノ) メチルビニルシラン 11.0 mmol をシクロヘキサン溶液として、攪拌速度を 130 rpm 、重合反応器内温度を 65°C の条件下で、重合反応器内に投入した。

次に、重合反応器内に連続的に単量体を供給し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を 0.5 時間行った。重合中、攪拌速度を 130 rpm 、重合反応器内温度を 65°C とした。

該 0.5 時間の重合後、ビス (ジエチルアミノ) メチルビニルシラン 11.0 mmol をシクロヘキサン溶液として、攪拌速度を 130 rpm 、重合反応器内温度を 65°C の条件下で、重合反応器内に投入した。

次に、重合反応器内に連続的に単量体を供給し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を 0.5 時間行った。重合中、攪拌速度を 130 rpm 、重合反応器内温度を 65°C とした。

該 0.5 時間の重合後、ビス (ジエチルアミノ) メチルビニルシラン 11.0 mmol をシクロヘキサン溶液として、攪拌速度を 130 rpm 、重合反応器内温度を 65°C の条件下で、重合反応器内に投入した。

次に、重合反応器内に連続的に単量体を供給し、1, 3-ブタジエンとスチレンの共重合を0. 5時間行った。重合中、攪拌速度を130 rpm、重合反応器内温度を65℃とした。全重合での1, 3-ブタジエンの供給量は821 g、スチレンの供給量は259 gであった。

次に、得られた重合体溶液を130 rpmの攪拌速度で攪拌し、1-フェニル-2-ピロリドン11. 0 mmolを添加し、15分間攪拌した。重合体溶液にメタノール0. 54 mlを含むヘキサン溶液20 mlを加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0369] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザーGM）1. 8 g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーTP-D）0. 9 gを加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体11を回収した。重合体11の評価結果を表2に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり0. 018 mmol/g重合体であった。

[0370] 製造例12（重合体12の合成）

内容積20リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重0. 68 g/cm³）10. 2 kg、1, 3-ブタジエン547 g、スチレン173 g、テトラヒドロフラン6. 1 ml、エチレングリコールジエチルエーテル5. 0 mlを重合反応器内に投入した。次に、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン11. 0 mmol及びn-ブチルリチウム13. 4 mmolを、それぞれ、シクロヘキサン溶液及びn-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を130 rpm、重合反応器内温度を65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1, 3-ブタジエンとスチレンの共重合を3時間行った。全重合での1, 3-ブタジエンの供給量は821 g、スチレ

ンの供給量は259 gであった。

次に、得られた重合体溶液を130 rpmの攪拌速度で攪拌し、N-メチル-ε-カプロラクタム11.0 mmolを添加し、15分間攪拌した。重合体溶液にメタノール0.54 mlを含むヘキサン溶液20 mlを加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0371] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザーGM）1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーTP-D）0.9 gを加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体12を回収した。重合体12の評価結果を表2に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり0.006 mmol/g重合体であった。

[0372] 製造例13（重合体13の合成）

内容積20リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重0.68 g/cm³）10.2 kg、1,3-ブタジエン547 g、スチレン173 g、テトラヒドロフラン6.1 ml、エチレングリコールジエチルエーテル5.0 mlを重合反応器内に投入した。次に、n-ブチルリチウム13.7 mmolをn-ヘキサン溶液として投入し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を1時間行った。重合中、攪拌速度を130 rpm、重合反応器内温度を65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給した。

該1時間の重合後、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン11.0 mmolをシクロヘキサン溶液として、攪拌速度を130 rpm、重合反応器内温度を65℃の条件下で、重合反応器内に投入した。

次に、重合反応器内に連続的に単量体を供給し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を0.5時間行った。重合中、攪拌速度を130 rpm、重合

反応器内温度を65℃とした。

該0.5時間の重合後、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン11.0mmolをシクロヘキサン溶液として、攪拌速度を130rpm、重合反応器内温度を65℃の条件下で、重合反応器内に投入した。

次に、重合反応器内に連続的に単量体を供給し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を0.5時間行った。重合中、攪拌速度を130rpm、重合反応器内温度を65℃とした。

該0.5時間の重合後、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン11.0mmolをシクロヘキサン溶液として、攪拌速度を130rpm、重合反応器内温度を65℃の条件下で、重合反応器内に投入した。

次に、重合反応器内に連続的に単量体を供給し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を0.5時間行った。重合中、攪拌速度を130rpm、重合反応器内温度を65℃とした。全重合での1,3-ブタジエンの供給量は821g、スチレンの供給量は259gであった。

次に、得られた重合体溶液を130rpmの攪拌速度で攪拌し、N-メチル-ε-カプロラクタム11.0mmolを添加し、15分間攪拌した。重合体溶液にメタノール0.54mlを含むヘキサン溶液20mlを加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0373] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザーGM）1.8g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーTP-D）0.9gを加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体13を回収した。重合体13の評価結果を表2に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり0.018mmol/g重合体であった。

[0374] 製造例14（重合体14の合成）

内容積20リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重 0.68 g/cm^3 ） 10.2 kg 、1,3-ブタジエン 547 g 、スチレン 173 g 、テトラヒドロフラン 6.1 ml 、エチレングリコールジエチルエーテル 5.0 ml を重合反応器内に投入した。次に、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン 8.26 mmol 及びn-ブチルリチウム 14.3 mmol を、それぞれ、シクロヘキサン溶液及びn-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を 130 rpm 、重合反応器内温度を 65°C とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を3時間行った。全重合での1,3-ブタジエンの供給量は 821 g 、スチレンの供給量は 259 g であった。

次に、得られた重合体溶液を 130 rpm の攪拌速度で攪拌し、4,4'-ビス（ジエチルアミノ）ベンゾフェノン 11.8 mmol を添加し、15分間攪拌した。重合体溶液にメタノール 0.54 ml を含むヘキサン溶液 20 ml を加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0375] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-（3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル）-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザーGM） 1.8 g 、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーTP-D） 0.9 g を加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体14を回収した。重合体14の評価結果を表2に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり 0.005 mmol/g 重合体であった。

[0376] 製造例15（重合体15の合成）

内容積20リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重 0.68 g/cm^3 ） 10.2 kg 、1,3-ブタジエン 547 g 、スチレン 173 g 、テトラヒドロフラン 6.1 ml 、エチ

レングリコールジエチルエーテル 5.0 ml を重合反応器内に投入した。次に、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン 12.2 mmol 及び *n*-ブチルリチウム 15.1 mmol を、それぞれ、シクロヘキサン溶液及び *n*-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃ とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を 3 時間行った。全重合での 1,3-ブタジエンの供給量は 821 g、スチレンの供給量は 259 g であった。

次に、得られた重合体溶液を 130 rpm の攪拌速度で攪拌し、4'-（イミダゾール-1-イル）-アセトフェノン 12.2 mmol を添加し、15 分間攪拌した。重合体溶液にメタノール 0.54 ml を含むヘキサン溶液 20 ml を加えて、更に重合体溶液を 5 分間攪拌した。

[0377] 重合体溶液に 2-tert-ブチル-6-（3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル）-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザー GM）1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザー TP-D）0.9 g を加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体 15 を回収した。重合体 15 の評価結果を表 2 に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり 0.007 mmol/g 重合体であった。

[0378] 製造例 16（重合体 16 の合成）

内容積 5 リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重 0.68 g/cm³）2.55 kg、1,3-ブタジエン 137 g、スチレン 43 g、テトラヒドロフラン 1.5 ml、エチレングリコールジエチルエーテル 1.2 ml を重合反応器内に投入した。次に、*n*-ブチルリチウム 3.6 mmol を *n*-ヘキサン溶液として投入し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を 2.5 時間行った。重合中、攪拌速度

を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給した。1, 3-ブタジエンの供給量は 205 g、スチレンの供給量は 65 g であった。

該 2.5 時間の重合後、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン 2.8 mmol をシクロヘキサン溶液として、攪拌速度 130 rpm、重合反応器内温度 65℃の条件下で、重合反応器内に投入し 30 分間攪拌した。

次に、メタノール 0.14 ml を含むヘキサン溶液 20 ml を重合反応器内に投入し、重合体溶液を 5 分間攪拌した。

[0379] 重合体溶液に 2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザー GM）1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザー TP-D）0.9 g を加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体 16 を回収した。重合体 16 の評価結果を表 2 に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり 0.006 mmol/g 重合体であった。

[0380] 製造例 17（重合体 17 の合成）

内容積 20 リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重 0.68 g/cm³）10.2 kg、1, 3-ブタジエン 547 g、スチレン 173 g、テトラヒドロフラン 6.1 ml、エチレングリコールジエチルエーテル 5.0 ml を重合反応器内に投入した。次に、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン 11.0 mmol 及び n-ブチルリチウム 14.3 mmol を、それぞれ、シクロヘキサン溶液及び n-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1, 3-ブタジエンとスチレンの共重合を 3 時間行った。全重合での 1, 3-ブタジエンの供給量は 821 g、スチレ

ンの供給量は259 gであった。

次に、重合体溶液にメタノール0.54 mlを含むヘキサン溶液20 mlを加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0381] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザーGM）1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーTP-D）0.9 gを加え、次にスチームストリッピングによって重合体溶液から重合体17を回収した。重合体17の評価結果を表2に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり0.006 mmol/g重合体であった。

[0382] 製造例18（重合体18の合成）

内容積20リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重0.68 g/cm³）10.2 kg、1,3-ブタジエン547 g、スチレン173 g、テトラヒドロフラン6.1 ml、エチレングリコールジエチルエーテル5.0 mlを重合反応器内に投入した。次に、n-ブチルリチウム14.3 mmolをn-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を130 rpm、重合反応器内温度を65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を3時間行った。全重合での1,3-ブタジエンの供給量は821 g、スチレンの供給量は259 gであった。

次に、得られた重合体溶液を130 rpmの攪拌速度で攪拌し、1,3-ジメチル-2-イミダゾリジノン11.0 mmolを添加し、15分間攪拌した。重合体溶液にメタノール0.54 mlを含むヘキサン溶液20 mlを加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0383] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒ

ドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザーGM）1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーTP-D）0.9 gを加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体18を回収した。重合体18の評価結果を表2に示す。なお、重合体18は合成時に式（IX）で表される化合物を使用しなかったため、式（I）で表される構成単位を含有していなかった。

[0384] 製造例19（重合体19の合成）

内容積20リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重0.68 g/cm³）10.2 kg、1,3-ブタジエン547 g、スチレン173 g、テトラヒドロフラン6.1 ml、エチレングリコールジエチルエーテル5.0 mlを重合反応器内に投入した。次に、n-ブチルリチウム14.3 mmolをn-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を130 rpm、重合反応器内温度を65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を3時間行った。全重合での1,3-ブタジエンの供給量は821 g、スチレンの供給量は259 gであった。

次に、重合体溶液にメタノール0.54 mlを含むヘキサン溶液20 mlを加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0385] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザーGM）1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーTP-D）0.9 gを加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体19を回収した。重合体19の評価結果を表2に示す。なお、重合体19は合成時に式（IX）で表される化合物を使用しなかったため、式（I）で表される構成単位を含有していなかった。

[0386] 製造例 20 (重合体 20 の合成)

内容積 20 リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン (比重 0.68 g/cm^3) 10.2 kg 、1, 3-ブタジエン 547 g 、スチレン 173 g 、テトラヒドロフラン 6.1 ml 、エチレングリコールジエチルエーテル 5.0 ml を重合反応器内に投入した。次に、ビス (ジエチルアミノ) メチルビニルシラン 11.0 mmol 及び n -ブチルリチウム 14.3 mmol を、それぞれ、シクロヘキサン溶液及び n -ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を 130 rpm 、重合反応器内温度を 65°C とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1, 3-ブタジエンとスチレンの共重合を 3 時間行った。全重合での 1, 3-ブタジエンの供給量は 821 g 、スチレンの供給量は 259 g であった。

次に、得られた重合体溶液を 130 rpm の攪拌速度で攪拌し、1, 3-ジメチルー 2-イミダゾリジノン 11.0 mmol を添加し、15 分間攪拌した。重合体溶液にメタノール 0.54 ml を含むヘキサン溶液 20 ml を加えて、更に重合体溶液を 5 分間攪拌した。

[0387] 重合体溶液に 2-tert-ブチルー 6-(3-tert-ブチルー 2-ヒドロキシー 5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート (住友化学 (株) 製、商品名: スミライザー GM) 1.8 g 、ペンタエリスリチルテトラキス (3-ラウリルチオプロピオネート) (住友化学 (株) 製、商品名: スミライザー TP-D) 0.9 g を加え、次に、重合体溶液を、常温、24 時間で蒸発させ、更に 55°C で 12 時間減圧乾燥し、重合体 20 を得た。重合体 20 の評価結果を表 2 に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式 (I) で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり 0.006 mmol/g 重合体であった。

[0388]

[表2]

	重合体														
	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	
スチレン単位の含量(質量%)	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	24	25	
ビニル結含量(モル%)	60	60	59	60	59	59	59	59	60	59	60	59	58	62	
分子量分布(Mw/Mn)	1.2	1.3	1.4	1.2	1.4	1.2	1.3	1.2	1.3	1.1	1.2	1.1	1.1	1.2	

[0389] 製造例 2 1 (重合体 2 1 の合成)

内容積 2 0 リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素

で置換し、ヘキサン（比重 0.68 g/cm^3 ） 10.2 kg 、 $1,3$ -ブタジエン 547 g 、スチレン 173 g 、テトラヒドロフラン 6.1 ml 、エチレングリコールジエチルエーテル 5.0 ml を重合反応器内に投入した。次に、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン 10.5 mmol 及び n -ブチルリチウム 14.9 mmol を、それぞれ、シクロヘキサン溶液及び n -ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を 130 rpm 、重合反応器内温度を 65°C とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、 $1,3$ -ブタジエンとスチレンの共重合を3時間行った。全重合での $1,3$ -ブタジエンの供給量は 821 g 、スチレンの供給量は 259 g であった。

次に、得られた重合体溶液を 130 rpm の攪拌速度で攪拌し、 N -（ 3 -ジメチルアミノプロピル）アクリルアミド 10.5 mmol を添加し、15分間攪拌した。重合体溶液にメタノール 0.54 ml を含むヘキサン溶液 20 ml を加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0390] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-（3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル）-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザーGM） 1.8 g 、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーTP-D） 0.9 g を加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体21を回収した。重合体21の評価結果を表3に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり 0.006 mmol/g 重合体であった。

[0391] 製造例22（重合体22の合成）

内容積20リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重 0.68 g/cm^3 ） 10.2 kg 、 $1,3$ -ブタジエン 547 g 、スチレン 173 g 、テトラヒドロフラン 6.1 ml 、エチレングリコールジエチルエーテル 5.0 ml を重合反応器内に投入した。次

に、*n*-ブチルリチウム 12.9 mmol を *n*-ヘキサン溶液として投入し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を 0.83 時間行った。重合中、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給した。

該 0.83 時間の重合後、ビス(ジエチルアミノ)メチルビニルシラン 10.5 mmol をシクロヘキサン溶液として、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃の条件下で、重合反応器内に投入した。

次に、重合反応器内に連続的に単量体を供給し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を 1.67 時間行った。重合中、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃とした。全重合での 1,3-ブタジエンの供給量は 821 g、スチレンの供給量は 259 g であった。

次に、得られた重合体溶液を 130 rpm の攪拌速度で攪拌し、*N*-(3-ジメチルアミノプロピル)アクリルアミド 10.5 mmol を添加し、15 分間攪拌した。重合体溶液にメタノール 0.54 ml を含むヘキサン溶液 20 ml を加えて、更に重合体溶液を 5 分間攪拌した。

[0392] 重合体溶液に 2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート(住友化学(株)製、商品名:スミライザーGM) 1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス(3-ラウリルチオプロピオネート)(住友化学(株)製、商品名:スミライザーTP-D) 0.9 g を加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体 22 を回収した。重合体 22 の評価結果を表 3 に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式(1)で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり 0.006 mmol/g 重合体であった。

[0393] 製造例 23 (重合体 23 の合成)

内容積 20 リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン(比重 0.68 g/cm³) 10.2 kg、1,3-ブタジエン 547 g、スチレン 173 g、テトラヒドロフラン 6.1 ml、エチ

レングリコールジエチルエーテル 5.0 ml を重合反応器内に投入した。次に、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン 10.5 mmol 及び *n*-ブチルリチウム 13.4 mmol を、それぞれシクロヘキサン溶液及び *n*-ヘキサン溶液として投入し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を1時間行った。重合中、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給した。

該1時間の重合後、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン 10.5 mmol をシクロヘキサン溶液として、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃の条件下で、重合反応器内に投入した。

次に、重合反応器内に連続的に単量体を供給し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を0.5時間行った。重合中、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃とした。

該0.5時間の重合後、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン 10.5 mmol をシクロヘキサン溶液として、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃の条件下で、重合反応器内に投入した。

次に、重合反応器内に連続的に単量体を供給し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を1.5時間行った。重合中、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃とした。全重合での1,3-ブタジエンの供給量は 821 g、スチレンの供給量は 259 g であった。

次に、得られた重合体溶液を 130 rpm の攪拌速度で攪拌し、*N*-(3-ジメチルアミノプロピル)アクリルアミド 10.5 mmol を添加し、15分間攪拌した。

[0394] 重合体溶液にメタノール 0.54 ml を含むヘキサン溶液 20 ml を加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。重合体溶液に 2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザーGM）1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーTP-D）0.9 g

を加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体 2 3 を回収した。重合体 2 3 の評価結果を表 3 に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式 (1) で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり 0.017 mmol/g 重合体であった。

[0395] 製造例 2 4 (重合体 2 4 の合成)

内容積 20 リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン (比重 0.68 g/cm^3) 10.2 kg 、1, 3-ブタジエン 547 g 、スチレン 173 g 、テトラヒドロフラン 6.1 ml 、エチレングリコールジエチルエーテル 5.0 ml を重合反応器内に投入した。次に、ビス {ジ (n-ブチル) アミノ} メチルビニルシラン 10.5 mmol 及び n-ブチルリチウム 13.4 mmol を、それぞれ、シクロヘキサン溶液及び n-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を 130 rpm 、重合反応器内温度を 65°C とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1, 3-ブタジエンとスチレンの共重合を 3 時間行った。全重合での 1, 3-ブタジエンの供給量は 821 g 、スチレンの供給量は 259 g であった。

次に、得られた重合体溶液を 130 rpm の攪拌速度で攪拌し、N- (3-ジメチルアミノプロピル) アクリルアミド 10.5 mmol を添加し、15 分間攪拌した。重合体溶液にメタノール 0.54 ml を含むヘキサン溶液 20 ml を加えて、更に重合体溶液を 5 分間攪拌した。

[0396] 重合体溶液に 2-tert-ブチル-6- (3-tert-ブチル-2-ヒドロキシー-5-メチルベンジル) -4-メチルフェニルアクリレート (住友化学 (株) 製、商品名: スミライザー GM) 1.8 g 、ペンタエリスリチルテトラキス (3-ラウリルチオプロピオネート) (住友化学 (株) 製、商品名: スミライザー TP-D) 0.9 g を加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体 2 4 を回収した。重合体 2 4 の評価結果を表 3 に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した

重合体中の式(1)で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり 0.006 mmol/g 重合体であった。

[0397] 製造例 25 (重合体 25 の合成)

内容積 5 リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン (比重 0.68 g/cm³) 2.55 kg、1,3-ブタジエン 137 g、スチレン 43 g、テトラヒドロフラン 1.5 ml、エチレングリコールジエチルエーテル 1.2 ml を重合反応器内に投入した。次に、*n*-ブチルリチウム 3.6 mmol を *n*-ヘキサン溶液として投入し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を 2.5 時間行った。重合中、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給した。1,3-ブタジエンの供給量は 205 g、スチレンの供給量は 65 g であった。

該 2.5 時間の重合後、ビス(ジエチルアミノ)メチルビニルシラン 2.8 mmol をシクロヘキサン溶液として、攪拌速度 130 rpm、重合反応器内温度 65℃の条件下で、重合反応器内に投入し 30 分間攪拌した。

次に、メタノール 0.14 ml を含むヘキサン溶液 20 ml を重合反応器内に投入し、重合体溶液を 5 分間攪拌した。

[0398] 重合体溶液に 2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート (住友化学(株)製、商品名: スミライザー GM) 1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス(3-ラウリルチオプロピオネート) (住友化学(株)製、商品名: スミライザー TP-D) 0.9 g を加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体 25 を回収した。重合体 25 の評価結果を表 3 に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式(1)で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり 0.006 mmol/g 重合体であった。

[0399] 製造例 26 (重合体 26 の合成)

内容積 20 リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素

で置換し、ヘキサン（比重 0.68 g/cm^3 ） 10.2 kg 、 $1,3$ -ブタジエン 547 g 、スチレン 173 g 、テトラヒドロフラン 6.1 ml 、エチレングリコールジエチルエーテル 5.0 ml を重合反応器内に投入した。次に、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン 10.5 mmol 及び n -ブチルリチウム 14.9 mmol を、それぞれ、シクロヘキサン溶液及び n -ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を 130 rpm 、重合反応器内温度を 65°C とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、 $1,3$ -ブタジエンとスチレンの共重合を3時間行った。全重合での $1,3$ -ブタジエンの供給量は 821 g 、スチレンの供給量は 259 g であった。

次に、重合体溶液にメタノール 0.54 ml を含むヘキサン溶液 20 ml を加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0400] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザーGM） 1.8 g 、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーTP-D） 0.9 g を加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体26を回収した。重合体26の評価結果を表3に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり 0.006 mmol/g 重合体であった。

[0401] 製造例27（重合体27の合成）

内容積20リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重 0.68 g/cm^3 ） 10.2 kg 、 $1,3$ -ブタジエン 547 g 、スチレン 173 g 、テトラヒドロフラン 6.1 ml 、エチレングリコールジエチルエーテル 5.0 ml を重合反応器内に投入した。次に、 n -ブチルリチウム 14.9 mmol を n -ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を130rpm、重合反応器内温度を65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を3時間行った。全重合での1,3-ブタジエンの供給量は821g、スチレンの供給量は259gであった。

次に、得られた重合体溶液を130rpmの攪拌速度で攪拌し、N-(3-ジメチルアミノプロピル)アクリルアミド10.5mmolを添加し、15分間攪拌した。重合体溶液にメタノール0.54mlを含むヘキサン溶液20mlを加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0402] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート(住友化学(株)製、商品名:スミライザーGM)1.8g、ペンタエリスリチルテトラキス(3-ラウリルチオプロピオネート)(住友化学(株)製、商品名:スミライザーTP-D)0.9gを加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体27を回収した。重合体27の評価結果を表3に示す。なお、重合体27は合成時に式(IX)で表される化合物を使用しなかったため、式(I)で表される構成単位を含有していなかった。

[0403] 製造例28(重合体28の合成)

内容積20リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン(比重0.68g/cm³)10.2kg、1,3-ブタジエン547g、スチレン173g、テトラヒドロフラン6.1ml、エチレングリコールジエチルエーテル5.0mlを重合反応器内に投入した。次に、n-ブチルリチウム14.9mmolをn-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を130rpm、重合反応器内温度を65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を3時間行った。全重合での1,3-ブタジエンの供給量は821g、スチレンの供給量は259gであった。

次に、重合体溶液にメタノール0.54mlを含むヘキサン溶液20mlを

加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0404] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート(住友化学(株)製、商品名:スミライザーGM) 1.8g、ペンタエリスリチルトetraキス(3-ラウリルチオプロピオネート)(住友化学(株)製、商品名:スミライザーTP-D) 0.9gを加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体28を回収した。重合体28の評価結果を表3に示す。なお、重合体28は合成時に式(IX)で表される化合物を使用しなかったため、式(I)で表される構成単位を含有していなかった。

[0405] 製造例29(重合体29の合成)

内容積20リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン(比重0.68g/cm³) 10.2kg、1,3-ブタジエン547g、スチレン173g、テトラヒドロフラン6.1ml、エチレングリコールジエチルエーテル5.0mlを重合反応器内に投入した。次に、ビス(ジエチルアミノ)メチルビニルシラン10.5mmol及びn-ブチルリチウム14.9mmolを、それぞれ、シクロヘキサン溶液及びn-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を130rpm、重合反応器内温度を65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を3時間行った。全重合での1,3-ブタジエンの供給量は821g、スチレンの供給量は259gであった。

次に、得られた重合体溶液を130rpmの攪拌速度で攪拌し、N-(3-ジメチルアミノプロピル)アクリルアミド10.5mmolを添加し、15分間攪拌した。重合体溶液にメタノール0.54mlを含むヘキサン溶液20mlを加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0406] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート(住友化学(株)製、商品名:スミライザーGM) 1.8g、ペンタエリスリチル

テトラキス（３－ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーＴＰ－Ｄ）０．９ｇを加え、次に、重合体溶液を、常温、２４時間で蒸発させ、更に５５℃で１２時間減圧乾燥し、重合体２９を得た。重合体２９の評価結果を表３に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（１）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり０．００６ｍｍｏｌ／ｇ重合体であった。

[0407] [表3]

	重合体								
	21	22	23	24	25	26	27	28	29
スチレン単位の含量(質量%)	25	24	24	25	25	25	24	24	25
ビニル結含量(モル%)	59	60	58	59	59	60	60	58	59
分子量分布(Mw/Mn)	1.2	1.1	1.1	1.3	1.1	1.2	1.1	1.1	1.2

[0408] 製造例３０（重合体３０の合成）

内容積２０リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重０．６８ｇ／ｃｍ³）１０．２ｋｇ、１，３－ブタジエン５４７ｇ、スチレン１７３ｇ、テトラヒドロフラン６．１ｍｌ、エチレングリコールジエチルエーテル５．０ｍｌを重合反応器内に投入した。次に、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン１６．０ｍｍｏｌ及びｎ－ブチルリチウム１８．５ｍｍｏｌを、それぞれ、シクロヘキサン溶液及びｎ－ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を１３０ｒｐｍ、重合反応器内温度を６５℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、１，３－ブタジエンとスチレンの共重合を３時間行った。全重合での１，３－ブタジエンの供給量は８２１ｇ、スチレンの供給量は２５９ｇであった。

次に、得られた重合体溶液を１３０ｒｐｍの攪拌速度で攪拌し、１，３，５－トリス（３－トリメトキシシリルプロピル）イソシアヌレート４．０ｍｍｏｌを添加し、１５分間攪拌した。重合体溶液にメタノール０．８０ｍｌを含むヘキサン溶液２０ｍｌを加えて、更に重合体溶液を５分間攪拌した。

[0409] 重合体溶液に２－ｔｅｒｔ－ブチル－６－（３－ｔｅｒｔ－ブチル－２－ヒ

ドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート(住友化学(株)製、商品名:スミライザーGM) 1.8 g、ペンタエリスリチルトetraキス(3-ラウリルチオプロピオネート)(住友化学(株)製、商品名:スミライザーTP-D) 0.9 gを加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体30を回収した。重合体30の評価結果を表4に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式(1)で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり0.009 mmol/g重合体であった。

[0410] 製造例31 (重合体31の合成)

内容積20リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン(比重0.68 g/cm³) 10.2 kg、1,3-ブタジエン547 g、スチレン173 g、テトラヒドロフラン6.1 ml、エチレングリコールジエチルエーテル5.0 mlを重合反応器内に投入した。次に、n-ブチルリチウム17.3 mmolをn-ヘキサン溶液として投入し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を1時間行った。重合中、攪拌速度を130 rpm、重合反応器内温度を65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給した。

該1時間の重合後、ビス(ジエチルアミノ)メチルビニルシラン14.4 mmolをシクロヘキサン溶液として、攪拌速度を130 rpm、重合反応器内温度を65℃の条件下で、重合反応器内に投入した。

次に、重合反応器内に連続的に単量体を供給し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を0.5時間行った。重合中、攪拌速度を130 rpm、重合反応器内温度を65℃とした。

該0.5時間の重合後、ビス(ジエチルアミノ)メチルビニルシラン14.4 mmolをシクロヘキサン溶液として、攪拌速度を130 rpm、重合反応器内温度を65℃の条件下で、重合反応器内に投入した。

次に、重合反応器内に連続的に単量体を供給し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を0.5時間行った。重合中、攪拌速度を130 rpm、重合

反応器内温度を65℃とした。

該0.5時間の重合後、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン14.4 mmolをシクロヘキサン溶液として、攪拌速度を130 rpm、重合反応器内温度を65℃の条件下で、重合反応器内に投入した。

次に、重合反応器内に連続的に単量体を供給し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を0.5時間行った。重合中、攪拌速度を130 rpm、重合反応器内温度を65℃とした。全重合での1,3-ブタジエンの供給量は821 g、スチレンの供給量は259 gであった。

次に、得られた重合体溶液を130 rpmの攪拌速度で攪拌し、1,3,5-トリメトキシシリルプロピル）イソシアヌレート3.6 mmolを添加し、15分間攪拌した。重合体溶液にメタノール0.80 mlを含むヘキサン溶液20 mlを加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0411] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-（3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル）-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザーGM）1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーTP-D）0.9 gを加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体31を回収した。重合体31の評価結果を表4に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり0.024 mmol/g重合体であった。

[0412] 製造例32（重合体32の合成）

内容積5リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重0.68 g/cm³）2.55 kg、1,3-ブタジエン137 g、スチレン43 g、テトラヒドロフラン1.5 ml、エチレングリコールジエチルエーテル1.2 mlを重合反応器内に投入した。次に、n-ブチルリチウム3.6 mmolをn-ヘキサン溶液として投入し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を2.5時間行った。重合中、攪拌速度

を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給した。1, 3-ブタジエンの供給量は 205 g、スチレンの供給量は 65 g であった。

該 2.5 時間の重合後、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン 2.8 mmol をシクロヘキサン溶液として、攪拌速度 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃の条件下で、重合反応器内に投入し 30 分間攪拌した。

次に、メタノール 0.14 ml を含むヘキサン溶液 20 ml を重合反応器内に投入し、重合体溶液を 5 分間攪拌した。

[0413] 重合体溶液に 2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザー GM）1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザー TP-D）0.9 g を加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体 32 を回収した。重合体 32 の評価結果を表 4 に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり 0.006 mmol/g 重合体であった。

[0414] 製造例 33（重合体 33 の合成）

内容積 20 リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重 0.68 g/cm³）10.2 kg、1, 3-ブタジエン 547 g、スチレン 173 g、テトラヒドロフラン 6.1 ml、エチレングリコールジエチルエーテル 5.0 ml を重合反応器内に投入した。次に、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン 16.0 mmol 及び n-ブチルリチウム 18.5 mmol を、それぞれ、シクロヘキサン溶液及び n-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1, 3-ブタジエンとスチレンの共重合を 3 時間行った。全重合での 1, 3-ブタジエンの供給量は 821 g、スチレ

ンの供給量は259 gであった。

次に、重合体溶液にメタノール0.80 mlを含むヘキサン溶液20 mlを加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0415] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザーGM）1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーTP-D）0.9 gを加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体33を回収した。重合体33の評価結果を表4に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり0.009 mmol/g重合体であった。

[0416] 製造例34（重合体34の合成）

内容積20リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重0.68 g/cm³）10.2 kg、1,3-ブタジエン547 g、スチレン173 g、テトラヒドロフラン6.1 ml、エチレングリコールジエチルエーテル5.0 mlを重合反応器内に投入した。次に、n-ブチルリチウム18.5 mmolをn-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を130 rpm、重合反応器内温度を65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を3時間行った。全重合での1,3-ブタジエンの供給量は821 g、スチレンの供給量は259 gであった。

次に、得られた重合体溶液を130 rpmの攪拌速度で攪拌し、1,3,5-トリリス（3-トリメトキシシリルプロピル）イソシアヌレート4.0 mmolを添加し、15分間攪拌した。重合体溶液にメタノール0.80 mlを含むヘキサン溶液20 mlを加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0417] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒ

ドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート(住友化学(株)製、商品名:スミライザーGM) 1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス(3-ラウリルチオプロピオネート)(住友化学(株)製、商品名:スミライザーTP-D) 0.9 gを加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体34を回収した。重合体34の評価結果を表4に示す。なお、重合体34は合成時に式(IX)で表される化合物を使用しなかったため、式(I)で表される構成単位を含有していなかった。

[0418] 製造例35(重合体35の合成)

内容積20リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン(比重0.68 g/cm³) 10.2 kg、1,3-ブタジエン547 g、スチレン173 g、テトラヒドロフラン6.1 ml、エチレングリコールジエチルエーテル5.0 mlを重合反応器内に投入した。次に、n-ブチルリチウム18.5 mmolをn-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を130 rpm、重合反応器内温度を65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を3時間行った。全重合での1,3-ブタジエンの供給量は821 g、スチレンの供給量は259 gであった。

次に、重合体溶液にメタノール0.80 mlを含むヘキサン溶液20 mlを加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0419] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート(住友化学(株)製、商品名:スミライザーGM) 1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス(3-ラウリルチオプロピオネート)(住友化学(株)製、商品名:スミライザーTP-D) 0.9 gを加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体35を回収した。重合体35の評価結果を表4に示す。なお、重合体35は合成時に式(IX)で表される化合物を使用しなかったため、式(I)で表される構成単位を含有していなかった。

[0420] 製造例 36 (重合体 36 の合成)

内容積 20 リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン (比重 0.68 g/cm^3) 10.2 kg、1,3-ブタジエン 547 g、スチレン 173 g、テトラヒドロフラン 6.1 ml、エチレングリコールジエチルエーテル 5.0 ml を重合反応器内に投入した。次に、ビス (ジエチルアミノ) メチルビニルシラン 16.0 mmol 及び *n*-ブチルリチウム 18.5 mmol を、それぞれ、シクロヘキサン溶液及び *n*-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃ とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を 3 時間行った。全重合での 1,3-ブタジエンの供給量は 821 g、スチレンの供給量は 259 g であった。

次に、得られた重合体溶液を 130 rpm の攪拌速度で攪拌し、1,3,5-トリメトキシシリルプロピル) イソシアヌレート 4.0 mmol を添加し、15 分間攪拌した。重合体溶液にメタノール 0.80 ml を含むヘキサン溶液 20 ml を加えて、更に重合体溶液を 5 分間攪拌した。

[0421] 重合体溶液に 2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート (住友化学 (株) 製、商品名: スミライザー GM) 1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス (3-ラウリルチオプロピオネート) (住友化学 (株) 製、商品名: スミライザー TP-D) 0.9 g を加え、次に、重合体溶液を、常温、24 時間で蒸発させ、更に 55℃ で 12 時間減圧乾燥し、重合体 36 を得た。重合体 36 の評価結果を表 4 に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式 (I) で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり 0.009 mmol/g 重合体であった。

[0422] 製造例 37 (重合体 37 の合成)

内容積 20 リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン (比重 0.68 g/cm^3) 10.2 kg、1,3-ブタ

ジエン 547 g、スチレン 173 g、テトラヒドロフラン 6.1 ml、エチレングリコールジエチルエーテル 5.0 ml を重合反応器内に投入した。次に、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン 16.0 mmol 及び *n*-ブチルリチウム 18.5 mmol を、それぞれ、シクロヘキサン溶液及び *n*-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃ とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を 3 時間行った。全重合での 1,3-ブタジエンの供給量は 821 g、スチレンの供給量は 259 g であった。

次に、得られた重合体溶液を 130 rpm の攪拌速度で攪拌し、3-（メトキシ）プロピルトリメトキシシラン 4.0 mmol を添加し、15 分間攪拌した。重合体溶液にメタノール 0.80 ml を含むヘキサン溶液 20 ml を加えて、更に重合体溶液を 5 分間攪拌した。

[0423] 重合体溶液に 2-tert-ブチル-6-（3-tert-ブチル-2-ヒドロキシー-5-メチルベンジル）-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザー GM）1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザー TP-D）0.9 g を加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体 37 を回収した。重合体 37 の評価結果を表 4 に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり 0.009 mmol/g 重合体であった。

[0424] [表4]

	重合体							
	30	31	32	33	34	35	36	37
スチレン単位の含量(質量%)	25	25	24	24	25	24	25	24
ビニル結合量(モル%)	59	59	60	60	59	58	60	59
分子量分布(Mw/Mn)	1.5	1.6	1.1	1.2	1.3	1.1	1.5	1.4

[0425] 製造例 38（重合体 38 の合成）

内容積 20 リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重 0.68 g/cm^3 ） 10.2 kg 、1, 3-ブタジエン 547 g 、スチレン 173 g 、テトラヒドロフラン 6.1 ml 、エチレングリコールジエチルエーテル 5.0 ml を重合反応器内に投入した。次に、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン 11.5 mmol 及び n -ブチルリチウム 14.1 mmol を、それぞれ、シクロヘキサン溶液及び n -ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を 130 rpm 、重合反応器内温度を 65°C とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1, 3-ブタジエンとスチレンの共重合を 3 時間行った。全重合での 1, 3-ブタジエンの供給量は 821 g 、スチレンの供給量は 259 g であった。

次に、得られた重合体溶液を 130 rpm の攪拌速度で攪拌し、 N, N -ジメチルホルムアミドジメチルアセタール 11.5 mmol を添加し、15 分間攪拌した。重合体溶液にメタノール 0.54 ml を含むヘキサン溶液 20 ml を加えて、更に重合体溶液を 5 分間攪拌した。

[0426] 重合体溶液に 2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザー GM） 1.8 g 、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザー TP-D） 0.9 g を加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体 38 を回収した。重合体 38 の評価結果を表 5 に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり 0.006 mmol/g 重合体であった。

[0427] 製造例 39（重合体 39 の合成）

内容積 20 リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重 0.68 g/cm^3 ） 10.2 kg 、1, 3-ブタジエン 547 g 、スチレン 173 g 、テトラヒドロフラン 6.1 ml 、エチ

レングリコールジエチルエーテル 5.0 ml を重合反応器内に投入した。次に、*n*-ブチルリチウム 14.1 mmol を *n*-ヘキサン溶液として投入し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を 1 時間行った。重合中、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃ とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給した。

該 1 時間の重合後、ビス(ジエチルアミノ)メチルビニルシラン 11.0 mmol をシクロヘキサン溶液として、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃ の条件下で、重合反応器内に投入した。

次に、重合反応器内に連続的に単量体を供給し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を 0.5 時間行った。重合中、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃ とした。

該 0.5 時間の重合後、ビス(ジエチルアミノ)メチルビニルシラン 11.0 mmol をシクロヘキサン溶液として、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃ の条件下で、重合反応器内に投入した。

次に、重合反応器内に連続的に単量体を供給し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を 0.5 時間行った。重合中、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃ とした。

該 0.5 時間の重合後、ビス(ジエチルアミノ)メチルビニルシラン 11.0 mmol をシクロヘキサン溶液として、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃ の条件下で、重合反応器内に投入した。

次に、重合反応器内に連続的に単量体を供給し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を 0.5 時間行った。重合中、攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃ とした。全重合での 1,3-ブタジエンの供給量は 82.1 g、スチレンの供給量は 25.9 g であった。

次に、得られた重合体溶液を 130 rpm の攪拌速度で攪拌し、*N,N*-ジメチルホルムアミドジメチルアセタール 11.0 mmol を添加し、15 分間攪拌した。重合体溶液にメタノール 0.54 ml を含むヘキサン溶液 20 ml を加えて、更に重合体溶液を 5 分間攪拌した。

[0428] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザーGM）1.8g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーTP-D）0.9gを加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体39を回収した。重合体39の評価結果を表5に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり0.018mmol/g重合体であった。

[0429] 製造例40（重合体40の合成）

内容積5リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重0.68g/cm³）2.55kg、1,3-ブタジエン137g、スチレン43g、テトラヒドロフラン1.5ml、エチレングリコールジエチルエーテル1.2mlを重合反応器内に投入した。次に、n-ブチルリチウム3.6mmolをn-ヘキサン溶液として投入し、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を2.5時間行った。重合中、攪拌速度を130rpm、重合反応器内温度を65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給した。1,3-ブタジエンの供給量は205g、スチレンの供給量は65gであった。

該2.5時間の重合後、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン2.8mmolをシクロヘキサン溶液として、攪拌速度130rpm、重合反応器内温度65℃の条件下で、重合反応器内に投入し30分間攪拌した。次に、メタノール0.14mlを含むヘキサン溶液20mlを重合反応器内に投入し、重合体溶液を5分間攪拌した。

[0430] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザーGM）1.8g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品

名：スミライザーTP-D) 0.9 gを加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体40を回収した。重合体40の評価結果を表5に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式(1)で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり0.006 mmol/g重合体であった。

[0431] 製造例41 (重合体41の合成)

内容積20リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン(比重0.68 g/cm³) 10.2 kg、1,3-ブタジエン547 g、スチレン173 g、テトラヒドロフラン6.1 ml、エチレングリコールジエチルエーテル5.0 mlを重合反応器内に投入した。次に、ビス(ジエチルアミノ)メチルビニルシラン11.5 mmol及びn-ブチルリチウム14.1 mmolを、それぞれ、シクロヘキサン溶液及びn-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を130 rpm、重合反応器内温度を65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を3時間行った。全重合での1,3-ブタジエンの供給量は821 g、スチレンの供給量は259 gであった。

次に、重合体溶液にメタノール0.54 mlを含むヘキサン溶液20 mlを加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0432] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート(住友化学(株)製、商品名：スミライザーGM) 1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス(3-ラウリルチオプロピオネート)(住友化学(株)製、商品名：スミライザーTP-D) 0.9 gを加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体41を回収した。重合体41の評価結果を表5に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式(1)で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり0.006 mmol/g重合体であった。

[0433] 製造例 4 2 (重合体 4 2 の合成)

内容積 20 リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン (比重 0.68 g/cm^3) 10.2 kg、1, 3-ブタジエン 547 g、スチレン 173 g、テトラヒドロフラン 6.1 ml、エチレングリコールジエチルエーテル 5.0 ml を重合反応器内に投入した。次に、*n*-ブチルリチウム 14.1 mmol を *n*-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1, 3-ブタジエンとスチレンの共重合を 3 時間行った。全重合での 1, 3-ブタジエンの供給量は 821 g、スチレンの供給量は 259 g であった。

次に、得られた重合体溶液を 130 rpm の攪拌速度で攪拌し、*N,N*-ジメチルホルムアミドジメチルアセタール 11.5 mmol を添加し、15 分間攪拌した。重合体溶液にメタノール 0.54 ml を含むヘキサン溶液 20 ml を加えて、更に重合体溶液を 5 分間攪拌した。

[0434] 重合体溶液に 2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート (住友化学 (株) 製、商品名: スミライザー GM) 1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス (3-ラウリルチオプロピオネート) (住友化学 (株) 製、商品名: スミライザー TP-D) 0.9 g を加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体 4 2 を回収した。重合体 4 2 の評価結果を表 5 に示す。なお、重合体 4 2 は合成時に式 (IX) で表される化合物を使用しなかったため、式 (I) で表される構成単位を含有していなかった。

[0435] 製造例 4 3 (重合体 4 3 の合成)

内容積 20 リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン (比重 0.68 g/cm^3) 10.2 kg、1, 3-ブタジエン 547 g、スチレン 173 g、テトラヒドロフラン 6.1 ml、エチレングリコールジエチルエーテル 5.0 ml を重合反応器内に投入した。次

に、*n*-ブチルリチウム 14.1 mmol を *n*-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を3時間行った。全重合での1,3-ブタジエンの供給量は821 g、スチレンの供給量は259 gであった。

次に、重合体溶液にメタノール 0.54 ml を含むヘキサン溶液 20 ml を加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0436] 重合体溶液に 2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザーGM）1.8 g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーTP-D）0.9 g を加え、次に、スチームストリッピングによって重合体溶液から重合体 43 を回収した。重合体 43 の評価結果を表5に示す。なお、重合体 43 は合成時に式（IX）で表される化合物を使用しなかったため、式（I）で表される構成単位を含有していなかった。

[0437] 製造例 44（重合体 44 の合成）

内容積 20 リットルのステンレス製重合反応器内を洗浄、乾燥し、乾燥窒素で置換し、ヘキサン（比重 0.68 g/cm³）10.2 kg、1,3-ブタジエン 547 g、スチレン 173 g、テトラヒドロフラン 6.1 ml、エチレングリコールジエチルエーテル 5.0 ml を重合反応器内に投入した。次に、ビス（ジエチルアミノ）メチルビニルシラン 11.5 mmol 及び *n*-ブチルリチウム 14.1 mmol を、それぞれ、シクロヘキサン溶液及び *n*-ヘキサン溶液として投入し、重合を開始した。

攪拌速度を 130 rpm、重合反応器内温度を 65℃とし、単量体を重合反応器内に連続的に供給しながら、1,3-ブタジエンとスチレンの共重合を3時間行った。全重合での1,3-ブタジエンの供給量は821 g、スチレンの供給量は259 gであった。

次に、得られた重合体溶液を130rpmの攪拌速度で攪拌し、N，N-ジメチルホルムアミドジメチルアセタール11.5mmolを添加し、15分間攪拌した。重合体溶液にメタノール0.54mlを含むヘキサン溶液20mlを加えて、更に重合体溶液を5分間攪拌した。

[0438] 重合体溶液に2-tert-ブチル-6-(3-tert-ブチル-2-ヒドロキシ-5-メチルベンジル)-4-メチルフェニルアクリレート（住友化学（株）製、商品名：スミライザーGM）1.8g、ペンタエリスリチルテトラキス（3-ラウリルチオプロピオネート）（住友化学（株）製、商品名：スミライザーTP-D）0.9gを加え、次に、重合体溶液を、常温、24時間で蒸発させ、更に55℃で12時間減圧乾燥し、重合体44を得た。重合体44の評価結果を表5に示す。なお、重合反応器内への原料の投入量及び供給量から計算した重合体中の式（I）で表される構成単位の含有量は、重合体単位質量あたり0.006mmol/g重合体であった。

[0439] [表5]

	重合体						
	38	39	40	41	42	43	44
スチレン単位の含量(質量%)	25	25	25	25	25	24	24
ビニル結含量(モル%)	59	59	59	60	59	59	60
分子量分布(Mw/Mn)	1.6	1.3	1.1	1.3	1.1	1.1	1.2

[0440] 以下に、実施例及び比較例で用いた各種薬品について説明する。

天然ゴム：RSS#3

ブタジエンゴム：宇部興産（株）製のウベポールBR150B

重合体1～44：上記製造例1～44

シリカ：エボニックデグッサ社製のウルトラシルVN3-G（ N_2SA ：175m²/g）

シランカップリング剤：エボニックデグッサ社製のSi69（ビス（3-トリエトキシシリルプロピル）テトラスルフィド）

ジエン系ゴムゲル1：ランクセス（株）製のNanopreneBM 00H（ジエン系ゴム成分：SBR、Tg：0℃、水酸基価：35mgKOH/

g-gel、平均粒子径：50nm)

ジエン系ゴムゲル2：ランクセス（株）製のNanopreneBM150H（ジエン系ゴム成分：SBR、Tg：-15℃、水酸基価：35mgKOH/g-gel、平均粒子径：50nm)

ジエン系ゴムゲル3：ランクセス（株）製のNanopreneBM250H（ジエン系ゴム成分：SBR、Tg：-25℃、水酸基価：35mgKOH/g-gel、平均粒子径：50nm)

ジエン系ゴムゲル4：ランクセス（株）製のNanopreneBM350H（ジエン系ゴム成分：SBR、Tg：-35℃、水酸基価：35mgKOH/g-gel、平均粒子径：50nm)

カーボンブラック：三菱化学（株）製のダイアブラックN339（N₂SA：96m²/g、DBP吸収量：124ml/100g)

オイル：JX日鉱日石エネルギー（株）製のX-140

老化防止剤1：住友化学（株）製のアンチゲン3C

老化防止剤2：住友化学（株）製のアンチゲン6C

ステアリン酸：日油（株）製のビーズステアリン酸つばき

酸化亜鉛：三井金属鉱業（株）製の亜鉛華1号

ワックス：大内新興化学工業（株）製のサンノックN

硫黄：鶴見化学工業（株）製の粉末硫黄

加硫促進剤1：住友化学（株）製のソクシノールCZ

加硫促進剤2：住友化学（株）製のソクシノールD

[0441]（実施例及び比較例）

表6～20に示す配合内容に従い、（株）神戸製鋼所製の1.7Lバンバリーミキサーを用いて、硫黄及び加硫促進剤以外の材料を150℃の条件下で5分間混練りし、混練り物を得た。次に、得られた混練り物に硫黄及び加硫促進剤を添加し、オープンロールを用いて、80℃の条件下で5分間練り込み、未加硫ゴム組成物を得た。得られた未加硫ゴム組成物を170℃で20分間、0.5mm厚の金型でプレス加硫し、加硫ゴム組成物を得た。

また、得られた未加硫ゴム組成物をトレッドの形状に成型し、タイヤ成型機上で他のタイヤ部材と共に貼り合わせて未加硫タイヤを形成した後、170℃で12分間加硫し、試験用タイヤ（サイズ：195／65R15）を製造した。

[0442] 得られた加硫ゴム組成物及び試験用タイヤを使用して、上記試験方法により評価を行った。それぞれの試験結果を表6～20に示す。

[0443]

[表6]

	実施例						比較例											
	1	2	3	4	5		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
天然ゴム	20	20	20	20	20		20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
ブタジエンゴム	20	20	20	20	20		20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
重合体1	60	60	60	—	20		—	—	—	—	—	60	20	—	—	—	—	60
重合体2	—	—	—	—	40		—	60	—	—	—	—	40	—	—	—	—	—
重合体3	—	—	—	—	—		—	—	60	—	—	—	—	—	—	—	—	—
重合体4	—	—	—	—	—		—	—	—	60	—	—	—	—	—	—	—	—
重合体5	—	—	—	—	—		60	—	—	—	60	—	—	—	60	60	60	—
重合体6	—	—	—	60	—		—	—	—	—	—	—	—	60	—	—	—	—
シリカ	75	75	75	75	75		75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75
シランカップリング剤	6	6	6	6	6		6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
ジエン系ゴムゲル1	—	—	—	—	—		—	—	—	—	20	—	—	—	—	—	—	20
ジエン系ゴムゲル2	—	20	—	20	20		—	—	—	—	—	—	—	—	20	—	—	—
ジエン系ゴムゲル3	20	—	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	20	—	—
ジエン系ゴムゲル4	—	—	20	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	20	—
カーボンブラック	5	5	5	5	5		5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
オイル	20	20	20	20	20		20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
老化防止剤1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5		1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
ステアリン酸	2	2	2	2	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
酸化亜鉛	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5		2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
ワックス	1	1	1	1	1		1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
硫黄	2	2	2	2	2		2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
加硫促進剤1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8		1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
加硫促進剤2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2		1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
転がり抵抗指数	133	129	138	127	118		100	108	113	115	93	128	116	127	95	97	105	121
ウェットグリップ性能指数	142	148	138	146	150		100	113	119	121	112	114	105	107	121	125	103	124
耐摩耗性1指数	110	107	113	108	106		100	102	104	104	91	102	100	104	103	104	105	87
配合（質量部）																		
評価																		

[0444]

[表7]

	実施例															比較例							
	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	
配合（質量部）	天然ゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	
	ブタジェンゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	
	重合体7	60	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-	-	60	-	-	-	-	-	60	
	重合体8	-	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	重合体9	-	-	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	重合体10	-	-	-	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	重合体11	-	-	-	-	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	重合体12	-	-	-	-	-	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	重合体13	-	-	-	-	-	-	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	重合体14	-	-	-	-	-	-	-	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	重合体15	-	-	-	-	-	-	-	-	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	重合体16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	40	-	-	-	-	-	-	-	60	-	-	-	-
	重合体17	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60	-	-	-
	重合体18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60	-	-
	重合体19	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60	-	-	-	-	60
	重合体20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60	60	60	-	-	-	-	-	-
	シリカ	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	90	75	75	75	75	75	75	75
	シランカップリング剤	7.6	7.6	7.6	7.6	7.6	7.6	7.6	7.6	7.6	7.6	7.6	7.2	8	8.8	7.6	7.6	6	6	6	6	7.6	6
	ジェン系ゴムゲル2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-	20	-
	ジェン系ゴムゲル3	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	15	25	20	-	-	-	-	-	-	-	-
ジェン系ゴムゲル4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	
カーボンブラック	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
オイル	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	30	20	20	20	20	20	20	20	
老化防止剤1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	
ステアリン酸	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
酸化亜鉛	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	
ワックス	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
硫黄	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
加硫促進剤1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	
加硫促進剤2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	
転がり抵抗指数	127	130	131	125	124	122	125	120	120	121	122	122	122	122	122	127	100	109	112	110	100	125	
ウェットグリップ性能指数	131	133	137	130	132	125	129	131	123	125	124	122	126	126	121	132	100	115	120	112	113	110	
耐摩耗性1指数	119	121	124	120	122	117	120	117	120	117	114	114	114	114	114	118	100	110	114	115	100	115	
評価																							

[0445]

[表8]

		比較例									
		19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
配合 (質量部)	天然ゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	ブタジエンゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	重合体21	60	—	—	—	20	—	—	—	—	—
	重合体22	—	60	—	—	—	—	—	—	—	—
	重合体23	—	—	60	—	—	—	—	—	—	—
	重合体24	—	—	—	60	—	—	—	—	—	—
	重合体25	—	—	—	—	40	—	—	60	—	—
	重合体26	—	—	—	—	—	—	—	—	60	—
	重合体27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	60
	重合体28	—	—	—	—	—	—	60	—	—	—
	重合体29	—	—	—	—	—	60	—	—	—	—
	シリカ	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75
	シランカップリング剤	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	カーボンブラック	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	オイル	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	老化防止剤1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
	ステアリン酸	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	酸化亜鉛	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
	ワックス	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	硫黄	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	加硫促進剤1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
	加硫促進剤2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
評価	転がり抵抗指数 (a)	136	138	140	140	115	128	100	109	111	113
	ウェットグリップ性能指数 (b)	139	140	142	144	120	131	100	118	121	122
	耐摩耗性2指数 (c)	120	121	125	127	110	115	100	109	110	112
	(a)+(b)+(c)-300	95	99	107	111	45	74	0	36	42	47

[0446]

[表9]

		比較例									
		29	30	31	32	33	34	35	36	37	38
配合 (質量部)	天然ゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	ブタジエンゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	重合体21	60	—	—	—	20	—	—	—	—	—
	重合体22	—	60	—	—	—	—	—	—	—	—
	重合体23	—	—	60	—	—	—	—	—	—	—
	重合体24	—	—	—	60	—	—	—	—	—	—
	重合体25	—	—	—	—	40	—	—	60	—	—
	重合体26	—	—	—	—	—	—	—	—	60	—
	重合体27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	60
	重合体28	—	—	—	—	—	—	60	—	—	—
	重合体29	—	—	—	—	—	60	—	—	—	—
	シリカ	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75
	シランカップリング剤	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	カーボンブラック	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	オイル	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	老化防止剤1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
	ステアリン酸	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	酸化亜鉛	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
	ワックス	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	ジエン系ゴムゲル1	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	硫黄	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
評価	転がり抵抗指数 (a)	130	132	134	134	109	122	95	104	106	108
	ウェットグリップ性能指数 (b)	151	152	153	155	131	142	110	129	132	133
	耐摩耗性2指数 (c)	114	115	119	121	104	110	95	104	105	107
	(a)+(b)+(c)-300	95	99	106	110	44	74	0	37	43	48

[0447]

[表10]

		実施例						比較例			
		22	23	24	25	26	27	39	40	41	42
配合 (質量部)	天然ゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	ブタジエンゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	重合体21	60	—	—	—	20	—	—	—	—	—
	重合体22	—	60	—	—	—	—	—	—	—	—
	重合体23	—	—	60	—	—	—	—	—	—	—
	重合体24	—	—	—	60	—	—	—	—	—	—
	重合体25	—	—	—	—	40	—	—	60	—	—
	重合体26	—	—	—	—	—	—	—	—	60	—
	重合体27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	60
	重合体28	—	—	—	—	—	—	60	—	—	—
	重合体29	—	—	—	—	—	60	—	—	—	—
	シリカ	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75
	シランカップリング剤	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	カーボンブラック	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	オイル	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	老化防止剤1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
	ステアリン酸	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	酸化亜鉛	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
	ワックス	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	ジエン系ゴムゲル2	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	硫黄	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
評価	転がり抵抗指数 (a)	139	141	142	143	117	131	100	109	111	113
	ウェットグリップ性能指数 (b)	151	152	154	156	132	143	108	116	129	130
	耐摩耗性2指数 (c)	122	124	128	130	113	118	100	109	110	112
	(a)+(b)+(c)-300	112	117	124	129	62	92	8	34	50	55

[0448]

[表11]

	比較例			実施例			比較例			実施例			比較例		
	43	28	29	30	44	31	32	33	34	35	45	46	47	48	
配合（質量部）	天然ゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	
	ブタジエンゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	
	重合体21	60	60	60	60	60	—	—	20	—	—	—	—	—	
	重合体22	—	—	—	—	—	60	—	—	—	—	—	—	—	
	重合体23	—	—	—	—	—	60	—	—	—	—	—	—	—	
	重合体24	—	—	—	—	—	—	60	—	—	—	—	—	—	
	重合体25	—	—	—	—	—	—	—	40	—	—	60	—	—	
	重合体26	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	60	—	
	重合体27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	60	
	重合体28	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	60	—	—	
	重合体29	—	—	—	—	—	—	—	—	60	—	—	—	—	
	シリカ	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75	
	シランカップリング剤	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
	カーボンブラック	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
	オイル	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	
	老化防止剤1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	
	ステアリン酸	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
	酸化亜鉛	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	
	ワックス	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
	ジエン系ゴムゲル3	5	15	20	25	40	20	20	20	20	20	20	20	20	
硫黄	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
加硫促進剤1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8		
加硫促進剤2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2		
評価	転がり抵抗指数 (a)	136	137	139	137	131	141	142	143	117	131	100	109	111	
	ウェットグリップ性能指数 (b)	139	143	145	147	150	149	151	153	129	140	105	113	126	
	耐摩耗性2指数 (c)	120	121	122	121	120	124	128	130	113	118	100	109	110	
	(a)+(b)+(c)-300	95	101	106	105	101	114	121	126	59	89	5	31	47	

配合（質量部）

評価

[0449]

[表12]

		実施例						比較例			
		36	37	38	39	40	41	49	50	51	52
配合 (質量部)	天然ゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	ブタジエンゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	重合体21	60	—	—	—	20	—	—	—	—	—
	重合体22	—	60	—	—	—	—	—	—	—	—
	重合体23	—	—	60	—	—	—	—	—	—	—
	重合体24	—	—	—	60	—	—	—	—	—	—
	重合体25	—	—	—	—	40	—	—	60	—	—
	重合体26	—	—	—	—	—	—	—	—	60	—
	重合体27	—	—	—	—	—	—	—	—	—	60
	重合体28	—	—	—	—	—	—	60	—	—	—
	重合体29	—	—	—	—	—	60	—	—	—	—
	シリカ	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75
	シランカップリング剤	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	カーボンブラック	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	オイル	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	老化防止剤1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
	ステアリン酸	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	酸化亜鉛	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
	ワックス	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	ジエン系ゴムゲル4	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	硫黄	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
評価	転がり抵抗指数 (a)	138	140	141	142	116	130	100	109	111	113
	ウェットグリップ性能指数 (b)	144	145	148	150	125	136	102	120	123	124
	耐摩耗性2指数 (c)	121	123	127	129	112	117	100	109	110	112
	(a)+(b)+(c)-300	103	108	116	121	53	83	2	38	44	49

[0450]

[表13]

	実施例									
	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51
天然ゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
ブタジエンゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
重合体30	60	-	20	-	-	-	-	-	-	60
重合体31	-	60	40	-	-	-	-	-	-	-
重合体32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
重合体33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
重合体34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
重合体35	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
重合体36	-	-	-	60	-	-	-	-	-	-
重合体37	-	-	-	-	60	60	60	60	60	-
シリカ	75	75	75	75	75	75	75	90	75	75
シランカップリング剤	7.6	7.6	7.6	7.6	7.6	7.2	0.8	8.8	7.6	7.6
ジエン系ゴムゲル1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ジエン系ゴムゲル2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20
ジエン系ゴムゲル3	20	20	20	20	20	15	25	20	-	-
ジエン系ゴムゲル4	-	-	-	-	-	-	-	-	20	-
カーボンブラック	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
オイル	20	20	20	20	20	20	20	30	20	20
老化防止剤1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
ステアリン酸	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
酸化亜鉛	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
ワックス	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
硫黄	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
加硫促進剤1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
加硫促進剤2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
転がり抵抗指数	124	119	130	111	118	118	119	118	118	122
ウェットグリップ性能指数	140	138	134	130	132	128	133	130	130	139
耐摩耗性1指数	120	109	115	106	113	113	111	112	113	121

配合（質量部）

評価

[0451]

[表14]

	比較例														
	53	54	55	56	57	58	59	60	61	62	63	64			
配合（質量部）	天然ゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	
	ブタジエンゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	
	重合体30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	60	
	重合体31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	重合体32	-	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	重合体33	-	-	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	重合体34	-	-	-	60	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	重合体35	60	-	-	-	-	60	-	-	-	-	60	-	-	
	重合体36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	重合体37	-	-	-	-	60	-	60	60	60	60	-	-	-	
	シリカ	75	75	75	75	75	75	75	75	3	155	75	75	75	
	シランカップリング剤	6	6	6	6	6	7.6	6.4	9.2	1.8	14	7.6	6	6	
	ジエン系ゴムゲル1	-	-	-	-	-	20	-	-	-	-	-	-	-	
	ジエン系ゴムゲル2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	20	-	-	
	ジエン系ゴムゲル3	-	-	-	-	-	-	5	40	20	20	-	-	-	
	ジエン系ゴムゲル4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	カーボンブラック	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	
	オイル	20	20	20	20	20	20	20	20	-	70	20	20	20	
	老化防止剤1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	
	ステアリン酸	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	
酸化亜鉛	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5		
ワックス	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1		
硫黄	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2		
加硫促進剤1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8		
加硫促進剤2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2		
転がり抵抗指数	100	109	112	106	115	95	113	108	120	106	100	122	122		
ウェットグリップ性能指数	100	115	120	110	121	100	122	130	115	130	108	123	123		
耐摩耗性1指数	100	110	114	112	111	95	111	109	106	107	100	120	120		

[0452]

[表15]

		比較例								
		65	66	67	68	69	70	71	72	73
配合 (質量部)	天然ゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	ブタジエンゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	重合体38	60	—	20	60	—	—	—	—	—
	重合体39	—	60	—	—	—	—	—	—	—
	重合体40	—	—	40	—	—	—	60	—	—
	重合体41	—	—	—	—	—	—	—	60	—
	重合体42	—	—	—	—	—	—	—	—	60
	重合体43	—	—	—	—	—	60	—	—	—
	重合体44	—	—	—	—	60	—	—	—	—
	シリカ	75	75	75	50	75	75	75	75	75
	シランカップリング剤	6	6	6	4	6	6	6	6	6
	カーボンブラック	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	オイル	20	20	20	5	20	20	20	20	20
	老化防止剤2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
	ステアリン酸	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	酸化亜鉛	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
	ワックス	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	硫黄	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	加硫促進剤1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
	加硫促進剤2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
評価	転がり抵抗指数 (a)	134	138	126	136	121	100	110	112	110
	ウェットグリップ性能指数 (b)	131	136	135	130	125	100	111	114	110
	耐摩耗性2指数 (c)	120	125	119	118	116	100	115	118	113
	(a)+(b)+(c)-300	85	99	80	84	62	0	36	44	33

[0453]

[表16]

		比較例								
		74	75	76	77	78	79	80	81	82
配合 (質量部)	天然ゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	ブタジエンゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	重合体38	60	—	20	60	—	—	—	—	—
	重合体39	—	60	—	—	—	—	—	—	—
	重合体40	—	—	40	—	—	—	60	—	—
	重合体41	—	—	—	—	—	—	—	60	—
	重合体42	—	—	—	—	—	—	—	—	60
	重合体43	—	—	—	—	—	60	—	—	—
	重合体44	—	—	—	—	60	—	—	—	—
	シリカ	75	75	75	50	75	75	75	75	75
	シランカップリング剤	6	6	6	4	6	6	6	6	6
	カーボンブラック	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	オイル	20	20	20	5	20	20	20	20	20
	老化防止剤2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
	ステアリン酸	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	酸化亜鉛	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
	ワックス	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	ジエン系ゴムゲル1	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	硫黄	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	加硫促進剤1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
	加硫促進剤2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
評価	転がり抵抗指数 (a)	128	132	120	130	116	95	105	107	105
	ウェットグリップ性能指数 (b)	142	147	145	142	136	110	121	124	120
	耐摩耗性2指数 (c)	114	119	113	113	110	95	110	112	107
	(a)+(b)+(c)-300	84	98	78	85	62	0	36	43	32

[0454]

[表17]

		実施例					比較例			
		52	53	54	55	56	83	84	85	86
配合 (質量部)	天然ゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	ブタジエンゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	重合体38	60	—	20	60	—	—	—	—	—
	重合体39	—	60	—	—	—	—	—	—	—
	重合体40	—	—	40	—	—	—	60	—	—
	重合体41	—	—	—	—	—	—	—	60	—
	重合体42	—	—	—	—	—	—	—	—	60
	重合体43	—	—	—	—	—	60	—	—	—
	重合体44	—	—	—	—	60	—	—	—	—
	シリカ	75	75	75	50	75	75	75	75	75
	シランカップリング剤	6	6	6	4	6	6	6	6	6
	カーボンブラック	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	オイル	20	20	20	5	20	20	20	20	20
	老化防止剤2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
	ステアリン酸	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	酸化亜鉛	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
	ワックス	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	ジエン系ゴムゲル2	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	硫黄	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	加硫促進剤1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
	加硫促進剤2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
評価	転がり抵抗指数 (a)	136	140	128	138	124	100	110	112	110
	ウェットグリップ性能指数 (b)	142	148	146	141	136	108	119	122	118
	耐摩耗性2指数 (c)	123	127	121	120	118	100	115	118	113
	(a)+(b)+(c)-300	101	115	95	99	78	8	44	52	41

[0455]

[表18]

	比較例		実施例				比較例		実施例				比較例			
	87	57	58	59	88	60	61	62	63	89	90	91	92			
配合（質量部）	天然ゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20			
	ブタジエンゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20			
	重合体38	60	60	60	60	60	—	20	60	—	—	—	—			
	重合体39	—	—	—	—	—	60	—	—	—	—	—	—			
	重合体40	—	—	—	—	—	—	40	—	—	60	—	—			
	重合体41	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	60	—			
	重合体42	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	60			
	重合体43	—	—	—	—	—	—	—	—	60	—	—	—			
	重合体44	—	—	—	—	—	—	—	60	—	—	—	—			
	シリカ	75	75	75	75	75	75	75	50	75	75	75	75			
	シランカップリング剤	6	6	6	6	6	6	6	4	6	6	6	6			
	カーボンブラック	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5			
	オイル	20	20	20	20	20	20	20	5	20	20	20	20			
	老化防止剤2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5			
	ステアリン酸	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2			
	酸化亜鉛	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5			
	ワックス	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1			
	ジェン系ゴムゲル3	5	15	20	25	40	20	20	20	20	20	20	20			
	硫黄	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2			
	加硫促進剤1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8			
加硫促進剤2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2				
評価	転がり抵抗指数 (a)	134	135	137	135	129	141	129	139	124	100	110	112			
	ウェットグリップ性能指数 (b)	131	134	140	143	149	145	144	139	134	105	116	119			
	耐摩耗性2指数 (c)	120	121	123	122	119	128	122	121	119	100	115	118			
	(a)+(b)+(c)-300	85	90	100	100	97	114	95	99	77	5	41	49			

配合 (質量部)

評価

[0456]

[表19]

		実施例					比較例			
		64	65	66	67	68	93	94	95	96
配合 (質量部)	天然ゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	ブタジエンゴム	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	重合体38	60	—	20	60	—	—	—	—	—
	重合体39	—	60	—	—	—	—	—	—	—
	重合体40	—	—	40	—	—	—	60	—	—
	重合体41	—	—	—	—	—	—	—	60	—
	重合体42	—	—	—	—	—	—	—	—	60
	重合体43	—	—	—	—	—	60	—	—	—
	重合体44	—	—	—	—	60	—	—	—	—
	シリカ	75	75	75	50	75	75	75	75	75
	シランカップリング剤	6	6	6	4	6	6	6	6	6
	カーボンブラック	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	オイル	20	20	20	5	20	20	20	20	20
	老化防止剤2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
	ステアリン酸	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	酸化亜鉛	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
	ワックス	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	ジエン系ゴムゲル4	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	硫黄	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	加硫促進剤1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
	加硫促進剤2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
評価	転がり抵抗指数 (a)	136	140	128	138	123	100	110	112	110
	ウェットグリップ性能指数 (b)	137	141	141	135	130	102	113	116	112
	耐摩耗性2指数 (c)	121	127	120	120	118	100	115	118	113
	(a)+(b)+(c)-300	94	108	89	93	71	2	38	46	35

[0457]

[表20]

		比較例				実施例	比較例	実施例	比較例	実施例	比較例
		97	98	99	100	69	101	70	102	71	103
配合 (質量部)	天然ゴム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	ブタジエンゴム	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	重合体38	60	—	60	—	60	—	60	—	60	—
	重合体39	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	重合体40	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	重合体41	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	重合体42	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	重合体43	40	100	40	100	40	100	40	100	40	100
	重合体44	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	シリカ	75	75	75	75	75	75	75	75	75	75
	シランカップリング剤	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	カーボンブラック	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
	オイル	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	老化防止剤2	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5
	ステアリン酸	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	酸化亜鉛	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
	ワックス	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
	ジエン系ゴムゲル1	—	—	20	20	—	—	—	—	—	—
	ジエン系ゴムゲル2	—	—	—	—	20	20	—	—	—	—
	ジエン系ゴムゲル3	—	—	—	—	—	—	20	20	—	—
	ジエン系ゴムゲル4	—	—	—	—	—	—	—	—	20	20
	硫黄	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
	加硫促進剤1	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8	1.8
	加硫促進剤2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2	1.2
評価	転がり抵抗指数 (a)	128	100	123	95	130	100	131	100	130	100
	ウェットグリップ性能指数 (b)	128	100	139	110	139	108	137	105	133	102
	耐摩耗性2指数 (c)	118	100	112	95	120	100	121	100	120	100
	(a)+(b)+(c)-300	74	0	74	0	89	8	89	5	83	2

[0458] 表6～20に示すように、共役ジエンに基づく構成単位及び上記式(1)で表される構成単位を有し、かつ特定の化合物によって末端が変性された重合体(重合体1、6、7～15、20、21～24、29～31、36～39、44)と、シリカと、ガラス転移温度 $-40\sim-10^{\circ}\text{C}$ の、水酸基を有するジエン系ゴムゲル(ジエン系ゴムゲル2～4)とを含んだ実施例のゴム組成物は、比較例のゴム組成物に比べて、低燃費性、ウェットグリップ性能及び耐摩耗性が相乗的に改善し、これらの性能が高次元でバランス良く得られた。

[0459] ガラス転移温度が特定の範囲外のジエン系ゴムゲル1を用いると、ウェットグリップ性能が改善されたが、低燃費性、耐摩耗性が低下した。また、ジエ

ン系ゴムゲル 3 の配合量を下限（１０質量部）未満とすると前述の性能が十分に改善されず、上限（３０質量部）を超えて配合すると低燃費性、耐摩耗性が悪化した（比較例 ８７、８８）。

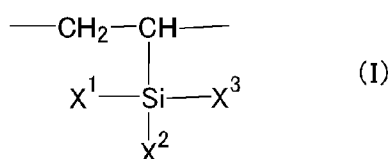
請求の範囲

[請求項1] ゴム成分と、シリカと、ガラス転移温度 $-40\sim-10^{\circ}\text{C}$ の、水酸基を有するジエン系ゴムゲルとを含有し、

前記ゴム成分100質量%のうち、共役ジエンに基づく構成単位と下式(I)で表される構成単位とを有し、下式(II)で表される化合物、下式(III)で表される基を有する化合物、下式(IV)で表される化合物、下式(V)で表される基及び／又は下式(VI)で表される基を有するケイ素化合物、並びに下式(VII)で表される基を有する化合物からなる群より選択される少なくとも1種の化合物によって重合体の少なくとも一端が変性されてなる共役ジエン系重合体の含有量が5質量%以上であり、

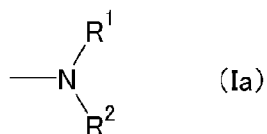
前記ゴム成分100質量部に対して、前記シリカの含有量が5～150質量部、前記ジエン系ゴムゲルの含有量が10～30質量部であることを特徴とするゴム組成物。

[化1]



[式中、 X^1 、 X^2 及び X^3 は、それぞれ独立に、下式(Ia)で表される基、水酸基、ヒドロカルビル基又は置換ヒドロカルビル基を表し、 X^1 、 X^2 及び X^3 の少なくとも1つが、下式(Ia)で表される基又は水酸基である。]

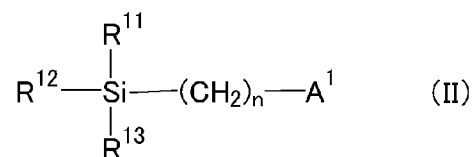
[化2]



[式中、 R^1 及び R^2 は、それぞれ独立に、炭素原子数が1～6のヒドロカルビル基、炭素原子数が1～6の置換ヒドロカルビル基、シリ

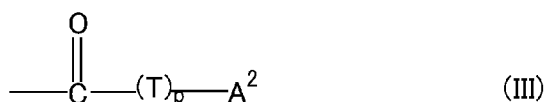
ル基又は置換シリル基を表し、 R^1 及び R^2 は結合して窒素原子と共に環構造を形成していてもよい。]

[化3]



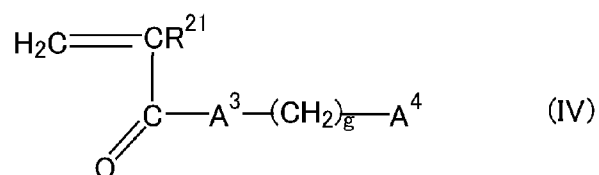
[式中、 n は1～10の整数を表し、 R^{11} 、 R^{12} 及び R^{13} は、それぞれ独立に、炭素原子数が1～4のヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～4のヒドロカルビルオキシ基を表し、 R^{11} 、 R^{12} 及び R^{13} の少なくとも1つがヒドロカルビルオキシ基であり、 A^1 は窒素原子を有する官能基を表す。]

[化4]



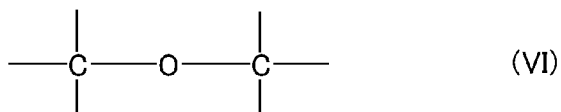
[式中、 p は0又は1の整数を表し、 T は、炭素原子数が1～20のヒドロカルビレン基又は炭素原子数が1～20の置換ヒドロカルビレン基を表し、 A^2 は窒素原子を有する官能基を表す。]

[化5]

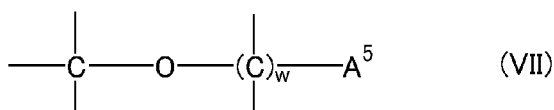


[式中、 g は、1～10の整数を表し、 R^{21} は、水素原子、炭素原子数が1～6のヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～6の置換ヒドロカルビル基を表し、 A^3 は、酸素原子又は $-NR^{22}-$ 基(R^{22} は、水素原子又は炭素原子数が1～10のヒドロカルビル基を表す。)を表し、 A^4 は、窒素原子及び／又は酸素原子を有する官能基を表す。]

[化6]



[化7]



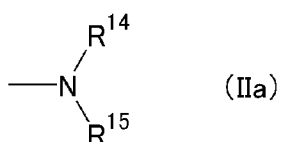
[式中、wは1～11の整数を表し、A⁵は窒素原子を有する官能基を表す。]

[請求項2] 式(Ⅰa)のR¹及びR²が炭素原子数1～6のヒドロカルビル基であることを特徴とする請求項1に記載のゴム組成物。

[請求項3] 式(Ⅰ)のX¹、X²及びX³の2つが式(Ⅰa)で表される基又は水酸基であることを特徴とする請求項1又は2に記載のゴム組成物。

[請求項4] 式(ⅠⅠ)のA¹が下式(ⅠⅠa)で表される基であることを特徴とする請求項1～3のいずれかに記載のゴム組成物。

[化8]



[式中、R¹⁴及びR¹⁵は、それぞれ独立に、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも1種の原子を有していてもよい炭素原子数が1～6の基を表し、R¹⁴及びR¹⁵は結合して窒素原子と共に環構造を形成していてもよく、R¹⁴及びR¹⁵は窒素に二重結合で結合する同一の基であってもよい。]

[請求項5] 式(ⅠⅠⅠ)で表される基が、下式(ⅠⅠⅠa)で表される基であることを特徴とする請求項1～4のいずれかに記載のゴム組成物。

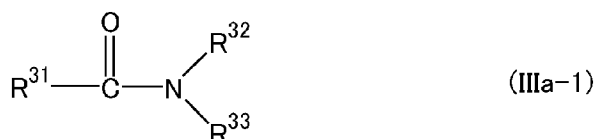
[化9]



[請求項6]

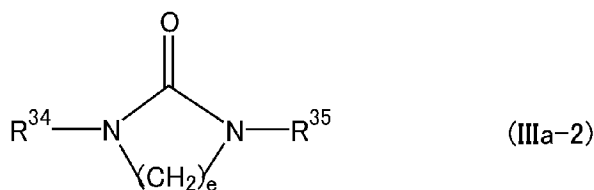
式(III)で表される基を有する化合物が、下式(IIIa-1)で表される化合物、下式(IIIa-2)で表される化合物及び下式(IIIa-3)で表される化合物からなる化合物群から選ばれる少なくとも1種の化合物であることを特徴とする請求項5に記載のゴム組成物。

[化10]



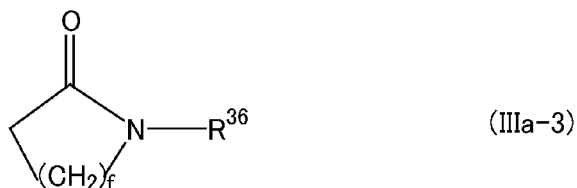
[式中、 R^{31} は、水素原子、炭素原子数が1～10のヒドロカルビル基、炭素原子数が1～10の置換ヒドロカルビル基、又は、窒素原子及び／若しくは酸素原子をヘテロ原子として有するヘテロ環基を表し、 R^{32} 及び R^{33} は、それぞれ独立に、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも1種の原子を有していてもよい炭素原子数が1～10の基を表し、 R^{32} 及び R^{33} は結合して窒素原子と共に環構造を形成していてもよく、 R^{32} 及び R^{33} は窒素に二重結合で結合する同一の基であってもよい。]

[化11]



[式中、 e は0～10の整数を表し、 R^{34} 及び R^{35} は、それぞれ独立に、炭素原子数が1～20のヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～20の置換ヒドロカルビル基を表す。]

[化12]

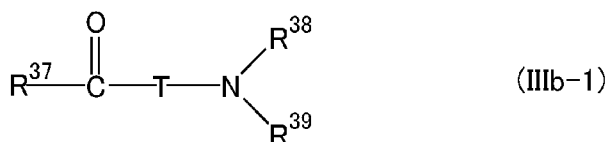


[式中、 f は 0 ～ 10 の整数を表し、 R^{36} は、炭素原子数が 1 ～ 20 のヒドロカルビル基又は炭素原子数が 1 ～ 20 の置換ヒドロカルビル基を表す。]

[請求項7]

式 (III) で表される基を有する化合物が、下式 (IIIb-1) で表される化合物であることを特徴とする請求項 1 ～ 4 のいずれかに記載のゴム組成物。

[化13]

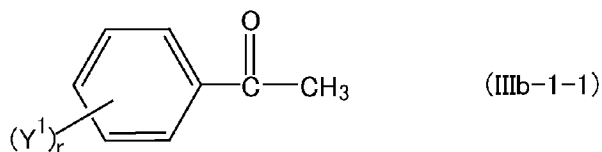


[式中、 R^{37} は、水素原子、炭素原子数が 1 ～ 10 のヒドロカルビル基、炭素原子数が 1 ～ 10 の置換ヒドロカルビル基、又は、窒素原子及び／若しくは酸素原子をヘテロ原子として有するヘテロ環基を表し、 R^{38} 及び R^{39} は、それぞれ独立に、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも 1 種の原子を有していてもよい炭素原子数が 1 ～ 10 の基を表し、 R^{38} 及び R^{39} は結合して窒素原子と共に環構造を形成していてもよく、 R^{38} 及び R^{39} は窒素に二重結合で結合する同一の基であってもよく、 T は、炭素原子数が 1 ～ 20 のヒドロカルビレン基又は炭素原子数が 1 ～ 20 の置換ヒドロカルビレン基を表す。]

[請求項8]

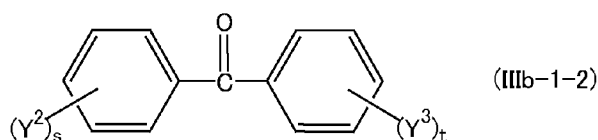
式 (IIIb-1) で表される化合物が、下式 (IIIb-1-1) で表される化合物及び下式 (IIIb-1-2) で表される化合物からなる化合物群から選ばれる少なくとも 1 種の化合物であることを特徴とする請求項 7 に記載のゴム組成物。

[化14]



[式中、 r は1又は2の整数を表し、 Y^1 はベンゼン環上の置換基であって、窒素原子を有する官能基を表し、 Y^1 が複数ある場合、複数ある Y^1 は、同一でも異なってもよい。]

[化15]



[式中、 s は1又は2の整数を表し、 t は0～2の整数を表し、 Y^2 及び Y^3 は、ベンゼン環上の置換基であって、窒素原子を有する官能基を表し、 Y^2 が複数ある場合、複数ある Y^2 は、同一でも異なってもよく、 Y^3 が複数ある場合、複数ある Y^3 は、同一でも異なってもよい。]

[請求項9]

式(IV)の A^4 が、下式(IVa)で表される基又は水酸基であることを特徴とする請求項1～8のいずれかに記載のゴム組成物。

[化16]



[式中、 R^{23} 及び R^{24} は、それぞれ独立に、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも1種の原子を有していてもよい炭素原子数が1～6の基を表し、 R^{23} 及び R^{24} は結合して窒素原子と共に環構造を形成していてもよく、 R^{23} 及び R^{24} は窒素に二重結合で結合する同一の基であってもよい。]

[請求項10]

ケイ素化合物が下式(VIII)で表される基を有することを特徴とする請求項1～9のいずれかに記載のゴム組成物。

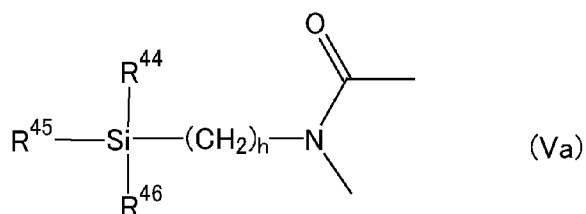
[化17]



[式中、 R^{41} 、 R^{42} 及び R^{43} は、それぞれ独立に、炭素原子数が1～4のヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～4のヒドロカルビルオキシ基を表し、 R^{41} 、 R^{42} 及び R^{43} の少なくとも1つがヒドロカルビルオキシ基である。]

[請求項11] ケイ素化合物が下式(Va)で表される基を有することを特徴とする請求項1～10のいずれかに記載のゴム組成物。

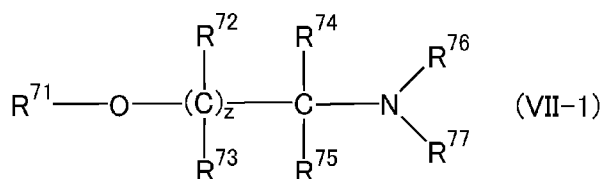
[化18]



[式中、 h は1～10の整数を表し、 R^{44} 、 R^{45} 及び R^{46} は、それぞれ独立に、炭素原子数が1～4のヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～4のヒドロカルビルオキシ基を表し、 R^{44} 、 R^{45} 及び R^{46} の少なくとも1つがヒドロカルビルオキシ基である。]

[請求項12] 式(VII)で表される基を有する化合物が下式(VII-1)で表される化合物であることを特徴とする請求項1～11のいずれかに記載のゴム組成物。

[化19]



[式中、 z は0～10の整数を表し、 R^{71} は炭素原子数が1～5の

ヒドロカルビル基を表し、 R^{72} 、 R^{73} 、 R^{74} 及び R^{75} は、それぞれ独立に、水素原子、炭素原子数が1～5のヒドロカルビル基、炭素原子数が1～5の置換ヒドロカルビル基又は炭素原子数が1～5のヒドロカルビルオキシ基を表し、 R^{72} 及び R^{73} が複数ある場合は、複数ある R^{72} 及び複数ある R^{73} はそれぞれ同じであっても異なってもよく、 R^{76} 及び R^{77} は、それぞれ独立に、窒素原子、酸素原子及びケイ素原子からなる原子群から選ばれる少なくとも1種の原子を有していてもよい炭素原子数が1～6の基を表し、 R^{76} 及び R^{77} は結合して窒素原子と共に環構造を形成していてもよく、 R^{76} 及び R^{77} は窒素に二重結合で結合する同一の基であってもよい。]

- [請求項13] 式(V I I - 1)の R^{74} 及び R^{75} の一方が水素原子であることを特徴とする請求項12に記載のゴム組成物。
- [請求項14] 共役ジエン系重合体のビニル結合量が、共役ジエンに基づく構成単位の含有量を100モル%として、10モル%以上80モル%以下であることを特徴とする請求項1～13のいずれかに記載のゴム組成物。
- [請求項15] 天然ゴム及び／又はブタジエンゴムを含有することを特徴とする請求項1～14のいずれかに記載のゴム組成物。
- [請求項16] シリカの窒素吸着比表面積が40～400 m²/gであることを特徴とする請求項1～15のいずれかに記載のゴム組成物。
- [請求項17] ジエン系ゴムゲルは、平均粒子径が10～100 nm、水酸基価が10～60 mg KOH/g-geIであることを特徴とする請求項1～16のいずれかに記載のゴム組成物。
- [請求項18] トレッド用ゴム組成物として用いられることを特徴とする請求項1～17のいずれかに記載のゴム組成物。
- [請求項19] 請求項1～18のいずれかに記載のゴム組成物を用いて作製した空気入りタイヤ。

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2012/060653

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

C08L15/00(2006.01)i, B60C1/00(2006.01)i, C08F8/30(2006.01)i, C08K3/36(2006.01)i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

C08L7/00-21/00, B60C1/00, C08F8/30, C08K3/36

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2012
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2012	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2012

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2010-077412 A (Sumitomo Chemical Co., Ltd.), 08 April 2010 (08.04.2010), claims 1 to 7; paragraphs [0114] to [0117], [0126], [0127]; example 1 & US 2010/0056713 A1 & DE 102009038874 A & CN 101659728 A & SG 159478 A & TW 201026727 A	1-4, 14-19
Y	JP 2010-270292 A (Sumitomo Chemical Co., Ltd.), 02 December 2010 (02.12.2010), claims 1 to 9; paragraphs [0116] to [0119], [0128], [0129]; examples 1 to 9 & US 2010/0056712 A1 & DE 102009039127 A & CN 101659732 A & SG 159474 A & TW 201026728 A	1-3, 5-8, 14-19

☒ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
10 July, 2012 (10.07.12)

Date of mailing of the international search report
17 July, 2012 (17.07.12)

Name and mailing address of the ISA/
Japanese Patent Office

Authorized officer

Facsimile No.

Telephone No.

INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2012/060653

C (Continuation). DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2010-077413 A (Sumitomo Chemical Co., Ltd.), 08 April 2010 (08.04.2010), claims 1 to 7; paragraphs [0008], [0111] to [0114]; examples 1 to 4 & US 2010/0056703 A1 & US 2011/0082251 A1 & DE 102009038859 A & CN 101659729 A & SG 159477 A & TW 201022301 A	1-3, 9, 14-19
Y	JP 2010-077415 A (Sumitomo Chemical Co., Ltd.), 08 April 2010 (08.04.2010), claims 1 to 8; paragraphs [0008], [0116] to [0119]; examples 1, 2 & US 2010/0056710 A1 & DE 102009038861 A & CN 101659731 A & SG 159479 A & TW 201016729 A	1-3, 10, 11, 14-19
Y	JP 2010-077414 A (Sumitomo Chemical Co., Ltd.), 08 April 2010 (08.04.2010), claims 1 to 8; paragraphs [0008], [0103] to [0106]; examples 1, 2 & US 2010/0056709 A1 & DE 102009039133 A & CN 101671418 A & SG 159473 A & TW 201016728 A	1-3, 12-19
Y	JP 2011-046875 A (Sumitomo Rubber Industries, Ltd.), 10 March 2011 (10.03.2011), claims 1 to 3; paragraphs [0006], [0013], [0016] to [0027], [0033] to [0044]; table 1 (Family: none)	1-19

A. 発明の属する分野の分類 (国際特許分類 (I P C))

Int.Cl. C08L15/00(2006.01)i, B60C1/00(2006.01)i, C08F8/30(2006.01)i, C08K3/36(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料 (国際特許分類 (I P C))

Int.Cl. C08L7/00-21/00, B60C1/00, C08F8/30, C08K3/36

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1 9 2 2 - 1 9 9 6 年
日本国公開実用新案公報	1 9 7 1 - 2 0 1 2 年
日本国実用新案登録公報	1 9 9 6 - 2 0 1 2 年
日本国登録実用新案公報	1 9 9 4 - 2 0 1 2 年

国際調査で使用した電子データベース (データベースの名称、調査に使用した用語)

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y	JP 2010-077412 A (住友化学株式会社) 2010.04.08, 【請求項 1】 ～【請求項 7】、【0 1 1 4】～【0 1 1 7】、【0 1 2 6】、【0 1 2 7】、 実施例 1 & US 2010/0056713 A1 & DE 102009038874 A & CN 101659728 A & SG 159478 A & TW 201026727 A	1-4, 14-19
Y	JP 2010-270292 A (住友化学株式会社) 2010.12.02, 【請求項 1】 ～【請求項 9】、【0 1 1 6】～【0 1 1 9】、【0 1 2 8】、【0 1 2 9】、 実施例 1 - 9 & US 2010/0056712 A1 & DE 102009039127 A & CN 101659732 A & SG 159474 A & TW 201026728 A	1-3, 5-8, 14-19

☒ C 欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの
「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの
「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献 (理由を付す)
「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献
「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの
「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの
「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の 1 以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの
「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

1 0 . 0 7 . 2 0 1 2

国際調査報告の発送日

1 7 . 0 7 . 2 0 1 2

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁 (I S A / J P)

郵便番号 1 0 0 - 8 9 1 5

東京都千代田区霞が関三丁目 4 番 3 号

特許庁審査官 (権限のある職員)

川上 智昭

4 J

3 7 6 6

電話番号 0 3 - 3 5 8 1 - 1 1 0 1 内線 3 4 5 7

C (続き) . 関連すると認められる文献		
引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y	JP 2010-077413 A (住友化学株式会社) 2010.04.08, 【請求項 1】 ～【請求項 7】、【0008】、【0111】～【0114】、実施例 1 － 4 & US 2010/0056703 A1 & US 2011/0082251 A1 & DE 102009038859 A & CN 101659729 A & SG 159477 A & TW 201022301 A	1-3, 9, 14-19
Y	JP 2010-077415 A (住友化学株式会社) 2010.04.08, 【請求項 1】 ～【請求項 8】、【0008】、【0116】～【0119】、実施例 1, 2 & US 2010/0056710 A1 & DE 102009038861 A & CN 101659731 A & SG 159479 A & TW 201016729 A	1-3, 10, 11, 14 -19
Y	JP 2010-077414 A (住友化学株式会社) 2010.04.08, 【請求項 1】 ～【請求項 8】、【0008】、【0103】～【0106】、実施例 1, 2 & US 2010/0056709 A1 & DE 102009039133 A & CN 101671418 A & SG 159473 A & TW 201016728 A	1-3, 12-19
Y	JP 2011-046875 A (住友ゴム工業株式会社) 2011.03.10, 【請求項 1】～【請求項 3】、【0006】、【0013】、【0016】～【0 027】、【0033】～【0044】、【表 1】 (ファミリーなし)	1-19